

津久井龍雄著作目録

松田 義男 編
改訂 2023年2月26日
2016年2月14日

目次

I 年譜

II 著作目録

1. 著書(編著・共著・訳書・監修等含む)

2-1. 評論等(『大阪時事新報』・『やまと新聞』掲載を除く)

2-2. 評論等(『やまと新聞』掲載)

2-3. 評論等(『大阪時事新報』掲載)

著作目録凡例

- * 津久井龍雄(1901-1989)の著作を、「1. 著書(編著・共著・訳書・監修等含む)」、「2-1. 評論等(『大阪時事新報』『やまと新聞』を除く新聞・雑誌掲載)」、「2-2. 評論等(『大阪時事新報』掲載)」「2-3. 評論等(『やまと新聞』掲載)」に大別し、それぞれ年次順に配列した。
- * 叢書名と巻書名がある場合、巻書名を表題として採用し、叢書名をく > に示した。
- * 単行書の内容および連載評論で副題が各回で異なる場合【 】に示した。
- * 掲載雑誌の巻号数は、第 1 巻第 1 号→1-1 と表記し、日刊新聞の号数は省略した。また、新聞の夕刊についてのみ[夕刊]と注記した。
- * 雑誌目次中の表題と本文表題とが異なる場合、原則として後者を採用した。
- * 新聞・雑誌の特集名・掲載欄を適宜[]で示したほか、無題の場合は[]に示して仮題とした。
- * 連載は、初回掲載に一括した。
- * 再録書は、初出の注記として[]に記した。
- * ペンネーム(奥澄男、田村町人、壺中庵主人など)または無署名については≪ ≫に注記した。月刊誌『国論』(1953年3月～1962年6月)の巻頭言、社論などの無署名文は、ほとんど津久井の執筆と思われるが、本著作目録では、若干の例外を除き、表紙に「津久井龍雄執筆」と記され、津久井の署名文が消える第9巻5号(1961年6月号)から第10巻6号(1962年8月)までの無署名文のみ採録した。なお、ペンネーム奥澄男については『津久井龍雄氏談話速記録』(日本近代史料研究会、1974年)87頁、田村町人については、津久井龍雄『日本国家社会主義運動史論』(中央公論社、1942年)198頁、参照。
- * 編者未確認の著作については、冒頭に*を付した。
- * その他、編者の注記を適宜[]に記した。

本著作目録作成に際しては、石川武美記念図書館(旧お茶の水図書館)、大阪府立中央図書館・中之島図書館、岡山大学付属図書館、神奈川近代文学館、神奈川県立図書館、京都産業大学図書館、京都大学総合図書館・同人文科学研究所・同経済学部図書室、熊本県立図書館、神戸外国語大学付属図書館、神戸市立中央図書館、神戸大学社会科学系図書館、国立教育政策研究所教育研究情報センター教育図書館、国立国会図書館、駒沢大学図書館、金光図書館、財団法人東洋文庫、昭和館、東京大学総合図書館、同志社大学今出川図書館・人文科学研究所、徳富蘇峰記念館、栃木県立図書館、名古屋大学国際経済政策研究センター情報資料室、日本近代文学館、日本大学総合学術情報センター、花園大学情報センター、法政大学大原社会問題研究所より資料閲覧・複写の便宜を得ました。付記して謝意を表します。

I 年譜

1901年2月4日、栃木県那須郡大田原町(現大田原市)に生まれる。

1916年、上京、大田原中学校(現県立大田原高等学校)から私立高輪中学校に転校。

1918年4月1日、早稲田大学高等予科(文科)入学。

*津久井の回顧によると、同級生に、横光利一、高津正道、大江精志郎(大江清一)などがいた(「早稲田文科時代の思ひ出」『時局の周辺』収録184-185頁)。横光利一は、1916年4月、早稲田大学高等予科英文学科に入学するが、1917年1月、長期欠席により除籍。除籍取消願を提出し、1918年4月第1学年に編入。1921年4月、早稲田大学専門部政治経済科に転入学する(『定本横光利一全集第十六巻』(河出書房新社、1987年)収録603~605頁)。高津正道は、1918年9月、編入試験で「早稲田文学部哲学科」に入学したという「私の運動史(3) 旗を守りて(1)」(『月刊社会党』55、1962年1月)139頁。

1920年(?)4月1日、早稲田大学英文科(本科)に進む。

在学中は、時事新報社校正部でアルバイト。課外講義で杉森幸次郎の「道徳的帝国の原理」の講述を聴く。田中王堂からは「概念規定の正確性、論理駆使の合則性、文字使用の適切性」などを学ぶ。『万朝報』の懸賞論文に「杉森孝次郎論」を執筆、懸賞金30円を受賞。在学中に結婚。

1923年春、早稲田大学英文科を中退。大阪今日新聞社(社長渡辺霞亭、顧問に上杉慎吉・高島素之)に就職。関東大震災前後に2回、10カ月ほど、大阪に滞在。大阪今日新聞社では、論文執筆だけでなく、校正の仕事、人物探訪の記事、連載小説の執筆など。維新志士の物語を書いた連載小説「雲は乱れ飛ぶ」は大阪道頓堀の中座で上演されたという。

大阪今日新聞社には高島素之門下の茂木久平が論文を書いていたが、震災後には、さらに矢部周、神永文三等が来て高島一門と親しくなる。

この頃発表した「『日本』の発見」(『日本主義』第3号、1923年10月15日)p.13では、イギリスの文明批評家カーペンター(Carpenter, Edward, 1844-1929)の『文明、その原因と救治』(Civilisation: its cause and cure)に言及しつつ、「マテリアリズムとエゴイズムとを基調とせる西欧文明の時弊を救ふに、如何に数多くの同じ種の救治法を施すとも、恐らくは無益であらう」。「西洋の眼まぐるしき文明に眩惑せられた眼を休めて、なつかしき『日本』の上に凝視を続けようでないか」。そこにこそ「新しき日本を建設する為めの無数の暗示が見出さるゝのでは無からうか」と日本回帰の志向を示している。

1924年1月、前年12月の虎の門事件(難波大助の摂政狙撃事件)を弾劾する大阪今日新聞社主催の国体擁護大会(於中之島公会堂)で高島素之の演説に感銘を受け、その夜、旅宿で高島と会食、親しくなる。その後、大化会(代表岩田富美夫、顧問高島素之)の機関誌『週刊日本』(第1号~11号、1924年3月23日~6月1日)の後継誌『急進』(第12号~第19号、1924年7月1日~1925年2月1日)発行に同人として参加するため上京。

1925年、司法大臣小川平吉が創刊し大東文化学院教授北吟吉が主宰していた『日本新聞』に入社するが、半年ほどで退社。

1926年2月11日、赤尾敏が主導する建国会に参加し書記長に就任(赤尾敏は理事長、のちに、会長に上杉慎吉、顧問に頭山満と平沼騏一郎)、機関紙『建国新聞』(3月1日創刊)を「全く独力で編輯するほか、会で発表するあらゆる種類の文章を全く独りで執筆した」(『日本国家主義運動史論』p141)。

1927年、正力松太郎が経営権を取得した読売新聞社に入社するが、福島県磐城炭鉱会社争議(1月15日~2月18日)に、会社側の団体として介入していた建国会赤尾敏の要請で支援に駆け付け、争議団との衝突で警察に拘置、読売新聞社を退社する。

1928年11月14日、赤尾敏とともに大連着、15日、建国会本部として「在満同胞に告ぐ」を発表。大連滞在中に満鉄副総裁松岡洋右と逢う。旅順、海城、奉天、撫順、ハルビンを視察。12月18日、「満州処々」を『やまと新聞』に発表(~22日)。23日、高島素之の逝去。

1929年4月7日、上杉慎吉逝去。同月、「国家社会主義に立脚する大衆運動を展開する」ため建国会と袂を分かち(『私の昭和史』20頁)、高島素之が使っていた大衆社の名を復活して第2次『急進』を発行(6月1日)。7月、実際運動の団体として「急進愛国労働者総連盟」を結成する(機関紙『急進愛国労働運動』1929年10月1日創刊)。次いで、日本主義運動と国家社会主義運動の合流により議会進出を志向する「愛国大衆党」の結成に着手。

1930年2月11日、当初企図していた「愛国大衆党」が、「愛国勤労党」(顧問鹿子木員信)と名称変更して結

党される。事実上、同党とは無関係であったが、8月、形式上も同党から脱して「急進愛国党」を結成。

1931年3月14日、日本主義大衆運動の展開を志向して、急進愛国党、行地社、日本国民党、国民戦線社などの日本主義諸団体を糾合した共同闘争体「全日本愛国者共同闘争協議会」(略称「日協」)を結成、書記局長主任に就任する(機関紙『興民新聞』は1931年3月に創刊した『愛国労働新聞』を継承して1931年5月1日発刊)。「全日本愛国者共同闘争協議会」という名称は津久井が考え、『興民新聞』という名称は大川周明が付した(『昭和維新の継承と前進』『異端の右翼』新人物往来社、1975年、50頁)。5月、井上準之助蔵相脅迫事件(急進愛国党本部に籍をおいていた児玉善士夫が短刀を送り付けた事件。津久井は短刀送付に添付した一文を作成)で検挙、市谷刑務所の未決監に収容、6月25日から公判開始(10月23日、東京控訴院で懲役3ヶ月執行猶予3年の刑を言い渡される)。9月、満洲事変の勃発を機に、大川周明、赤松克麿、石川準一郎らと共に日本社会主義研究所を創設(機関誌『日本社会主義』10月1日創刊、翌1932年6月『国家社会主義』と改題)。10月26日、「日本社会主義創刊記念祝賀会」を開催(於東京市政会館)。

1932年1月14日、「急進愛国党」および「急進愛国労働者総連盟」は「大日本生産党」(黒龍会の内田良平が新勢力を糾合して1931年6月28日創立。総裁内田良平、顧問頭山満)に合流。2月1日、生産党の前衛的団体として大日本青年同盟を結成し会長に就任(機関紙『大日本青年新聞』1932年11月10日創刊)、大日本青年同盟は「日協」に加盟。4月、国家社会主義の理論及び方法の研究・普及を目的とする日本国家社会主義学盟を創設、常任幹事に就任。5月6日、満洲国への祝辞・関東軍の慰問のため生産党の代表として堂前孫三郎とともに、大阪を発つ。11日、関東軍司令官本庄繁を訪問。5・15事件の報をうけて急遽帰国の途に就く。帰途、京城で宇垣一成朝鮮総督と会見。6月、日本国家社会党(赤松克麿)、神武会(1932年2月11日発会。行地社の大川周明等と国本社一派からなる)、大日本生産党が連合して「国難打開連合協議会」(略称「国協」)を結成。10月20日、青年日本同盟横浜支部結成式に出席(支部長鶴島三郎)。11月20日、青年日本同盟横浜支部主催の日本主義講演会に出席。

1933年3月30日、大日本生産党支部第2回大会で講演(於富士見館)。4月1日、「国協」の機関誌として『国民運動』創刊。7月22日、大日本青年同盟と日本国家社会党を脱党した赤松克麿派が提携して「国民文化運動の団体」として「国民協会」を結成、常任理事に就任(理事長赤松克麿、機関誌として「国協」の『国民運動』を継承)。8月12日、大日本生産党より除名。9月17日、国民協会の支援団体として「青年日本同盟」(会長津久井龍雄、顧問赤松克麿)を結成(機関紙は『大日本青年新聞』を改題・継承して『青年日本新聞』発刊)。27日、青年日本同盟横浜特別支部組織拡大準備会に出席(於初音町一心亭)。10月18日、青年日本同盟横浜特別支部結成記念大演説会に登壇(於伊勢佐木町新寿俱樂部)。11月18日、青年日本同盟保土谷支部支部結成大会に出席。

1934年10月、『月刊維新』の発刊により『国民運動』はいったん中絶。11月15日から、赤松克麿・鶴島三郎とともに東北地方の冷害凶作の農村を視察。視察中、第二師団連隊長石原莞爾を訪問。

1935年3月10日、青年日本同盟を解散して国民協会へ合流、『国民運動』を再刊。

1936年2月20日、岡田内閣下の第19回衆議院議員総選挙に神奈川県第1区から立候補し落選。2.26事件後、国家主義団体各派有志とともに「二月会」を結成するがまもなく解消。11月3日、幕末の豪商・蘭学者中居屋重兵衛を讃へる横浜市民大会で開会の辞(於開港記念横浜会館)。

1937年4月30日、林内閣下の第20回衆議院議員総選挙に神奈川県第1区から再度立候補し落選。『やまと新聞』に「主筆」として入社(『日本国家主義運動史論』p.198)、6月22日、時評欄「課題を衝く」(~1940年8月6日)を新設し論陣を張る(当初は赤松克麿、茅原華山、倉田百三、下中弥三郎、中谷武世らも執筆している)。7月18日、議会進出派の日本主義勢力の結集を図り、赤松克麿(国民協会)、小池四郎(愛国政治同盟)、下中弥三郎(新日本国民同盟)、伊藤信司(愛国革新連盟)らと共に「日本革新党」を結党、芝協商会館で発会式、党務委員に選出され、「結党宣言」(『日本革新新聞』第92号、1937年8月5日)を執筆(『日本国家主義運動史論』pp.195-197収録)。21日、日本革新党結党演説会に登壇(於日比谷公会堂)。「支那事変直後」の北京、張家口、上海、南京を歴訪。

1938年4月1日、『やまと新聞』の「主幹」に就任するとともに「社長事務を代行」する(「社告」『やまと新聞』1938年4月2日。『日本新聞年鑑 昭和十四年版』(新聞研究所、1938年12月)「第2篇 現勢」8頁では1938年1月入社、主幹および編輯局長とある。『日本新聞年鑑 昭和十六年版』(新聞研究所、1940年12月)「第2篇 現勢」12頁では「副社長」・「主幹」とある)。7月(~12月)、田村町人のペンネームで『文芸春秋』に「新聞匿名月評」を執筆。11月20日、里見岸雄著『国体法乃研究』刊行祝賀会に出席し祝辞(於山王ホテル)。

1939年1月、日本革新党第2回党大会で、参与に選出。5月、『やまと新聞』の大陸進出を企図して、大連・奉天・新京・天津・北京・南京・上海を見聞。

1940年2月2日、帝国議会衆議院本会議で立憲民政党代議士斎藤隆夫が行った「支那事変処理を中心とした質問演説」を傍聴。7月1日、日本革新党の解党声明を発表。10月5日、『読売新聞[夕刊]』のコラム欄「第一線」の執筆メンバーとなる(～1941年11月8日)。11月25日、『やまと新聞』にコラム欄「淡々録」を新設し執筆(～1941年3月8日)。

1941年1月8日、『大阪時事新報[夕刊]』のコラム欄「大時論策」をほぼ毎日執筆(～1942年4月28日)。3月24日、『やまと新聞』にコラム欄「日曜断章」を新設し執筆(～1942年3月30日)。10月、室伏高信、杉森孝次郎らと発起人となり日本評論家協会を結成、常任幹事に就任(会長杉森孝次郎)。12月28日、日本評論家協会主催講演会で「大東亜維新と知識人の方向」と題して講演(於日比谷公会堂)。

1942年4月30日、第21回衆議院議員総選挙(翼賛選挙)に東京第5区から立候補し落選。やまと新聞社を退社。12月23日、言論報国会が設立され常務理事に就任。

1943年、言論報国会の常務理事を辞任。9月13日、第1回都議会議員選挙に当選(終身都議待遇)。

1944年4月、『同盟通信 時事解説』に「時論要解」欄が創設され「政治」部門を担当、当初は無署名で執筆、10月から署名入りとなる(～1945年10月)。

1945年5月25日、空襲で渋谷の家屋を焼失、妻の生地である群馬県館林町に疎開。館林で終戦を迎える。9月1日、上京。

1947年11月4日、公職追放該当者の内容証明書を受け取る。

1948年3月、芦田均内閣が成立し、施政方針演説の草稿を執筆(どのように関係していたか不詳。芦田均の日記によれば、同月21日、「芦田均論」の執筆を直接依頼している)。

1951年8月6日、公職追放解除。11月、赤尾敏とともに、吉田内閣肅正再軍備促進の演説会を開催(於読売ホール)。

1952年4月1日、大川周明、前田虎雄、赤尾敏等昭和維新関係者による時局懇談を上野公園韻松亭に開催し、この懇談会を東風会(～1954年3月)と命名した。

1953年3月、横浜で鶴島三郎が創刊した月刊誌『国論』の顧問に就任、言論活動の拠点とする(～1963年1月)。7月28日、東風会第6回拡大懇話会に大川周明、井上日召、葛生能久等とともに出席(於上野公園韻松亭)。10月4日、鶴島三郎等が設立世話人となった時局懇談会主催の第1回研究懇談会に、講師として大川周明・中村武彦とともに出席(於神奈川県社会福祉会館)。12月25日、国論社の主催で高島素之二十五周年忌追悼会を開催、尾崎士郎、室伏高信、松岡駒吉、茂木久平等が出席。

1954年11月、NHKのラジオ放送討論会で日本再軍備について、左派社会党の岡田宗司、評論家木下平治と討論。

1955年9月20日、北京市長に招かれた中国訪問団一行とともに東京発、21日、香港着、夕刻、広州着、副市長主催の歓迎会に出席。25日、北京着、市長主催の招待会に出席。10月1日、国慶節の式典に参列、2日午前、周恩来総理と会見、午後、彭真北京市長との懇談会に出席。16日、瀋陽(奉天)、撫順、天津、南京、上海の視察を終えて広州着。17日、広州発香港着。20日、帰国。11月8日、帰国歓迎会に出席(小石川涵徳亭)。

1956年7月8日、第4回参議院議員選挙に立候補し落選。

1957年4月、日中友好協会杉並支部を結成、支部長に就任(～1958年)。12月24日、大川周明逝去。

1958年5月9日、伊福部隆彦の発起による『私の昭和史』出版記念会に出席、宮崎龍介、細川嘉六、松下芳男等が出席(於雑誌会館)。

1959年、日中文化交流協会理事に就任。

1968年10月、個人雑誌『我流』創刊(1976年12月、99号で終刊)。

1975年11月13日、『異端の右翼』出版記念会を開催、赤尾敏、中村武彦、市川房枝、安井謙、戸叶武、正木ひろし、長谷川義記、青地晨等が出席(於東京虎ノ門葵会館)。

1976年4月15日、赤尾敏君渡米送別会に出席(於九段会館)。23日、田々宮英太郎主宰現代史懇話会(機関誌『史』)で講演(於主婦会館)。

1989年9月9日、逝去。

II 著作目録

1. 著書(編著・共著・訳書・監修等含む)

『理想国』[訳書・プラトーン著] <社会哲学新学説大系 第11巻>新潮社、1925年11月8日 [『理想国』篇、『チマイオス』篇、『クリチアス』篇、付録として「プラトーンに就いて」を収録。復刊:<新潮文庫>新潮社、1937年8月8日]

『コントの実証哲学』 <社会経済思想叢書 第7巻>事業之日本社、1926年4月25日 [J. S. ミル『オーギュスト・コントと実証哲学』(Auguste Comte and positivism)の編述、付録として「コントの生涯に就て」を収録]

『宗教と功利主義』 <社会哲学新学説大系 第21巻>新潮社、1927年12月15日 [J. S. ミル『宗教に関する三試論』(Three essays on religion)の訳述、付録として「ミル略伝」を収録]

『ファシズム伊太利とムツソリーニ』 <ファシズム叢書 第1巻>自由評論社、1927年12月20日 [1 ファシオの生誕から組閣まで、2 成功の要因、3 ムツソリーニの功績、4 ファシオの組織と綱領、5 ファシズム・マルキシズム・国家社会主義、6 ムツソリーニ評伝] [1、5、6 の初出は、高島素之「ファシオの生誕から組閣まで」(『自由評論』16-11、1927年11月)、同「ファシズム・マルキシズム・国家社会主義」(『自由評論』16-10、1927年10月)、同「ムツソリーニ評伝」(『自由評論』16-11、1927年11月)]

スペンサー [『社会学者研究』] 『大思想エンサイクロペディア 13 社会学 1』春秋社、1928年5月20日

年毎に深まる思ひ出 [『諸家の高島素之観』] 『高島素之先生の思想と人物 急進愛国主義の理論的根拠』茂木実臣編著、津久井書店、1930年9月5日 [復刻:<伝記叢書 215>大空社、1996年]

『国家社会主義問答』政治批判社、1930年10月17日 [1 国家擁護の理論的根拠、2 唯物史観と階級闘争の修正、3 実際運動としての発展性、4 反動的愛国運動と如何に対立するか、5 他の社会主義運動と如何に対立するか]

『日本無産階級と満蒙問題』 <日本社会主義研究所パンフレット 第2輯>日本社会主義研究所、1931年12月17日 発禁 <奥澄男> [まえがき、1 満蒙は日本とどんな因縁関係を有するか、2 支那側の意図は満蒙権益の全面的奪略にある、3 日本の貧弱なる土地資源をどうするか、4 国防上から見た満蒙の重要性、5 幣原「軟弱外交」の物質的根拠は何か、6 満蒙問題は国内改造に密結して考へられねばならぬ、7 左翼及び逆流における反戦闘争のナンセンス] [『国家社会主義と満蒙問題』と改題『日本の社会主義の提唱』収録]

『日本の社会主義の提唱』先進社、1932年1月15日 [1 序論(国家社会主義の立場)、2 社会主義の前提としての日本主義(1)社会主義とは何か、(2)社会主義精神を裏切るマルクス主義、(3)日本主義は社会主義の前提だ、3 国家の重要性と資本主義の非国家性((1)国家の重要性と日本人の愛国心、(2)資本主義は非国家主義、(3)マルクス主義の国家の見方、(4)国家社会主義の国家の見方)、4 空想的インターナショナリズムへの批判((1)「共産党宣言」の書かれた時代、(2)万国の労働者団結せず、(3)国際的プロレタリア日本)、5 国家社会主義に於ける若干の概念について((1)天皇及び国体、(2)国家と国際、(3)戦争、(4)階級及び階級闘争)、6 国家社会主義と満蒙問題((1)満蒙は日本とどんな関係があるか、(2)支那側の意図は満蒙権益の全否定だ、(3)日本の貧弱なる土地・資源を見よ、(4)国防上から見た満蒙の重要性、(5)幣原「軟弱外交」の物質的根拠、(6)満蒙問題と国内改造問題、(7)左翼的反戦闘争のナンセンス)、7 国家社会主義運動は如何に展開さるべきか((1)ファシオ運動と国家社会主義運動、(2)「国家社会党」の精神と政策、(3)組織運動の展開)、8 ドイツ国民社会党の綱領及びその批判((1)批評区々たる国民社会党、(2)綱領二十五項目、(3)綱領の根本概念、(4)以上に対する我等の批判)] [(2)以下は、フェーダー(Gottfried Feder)の小著 Das Programm der N.S.D.A.P. und seine weltanschaulichen Grundgedanken から同党綱領並びにその根本思想について解説した部分を抜粋]

『ファシズムと日本主義』 <日青パンフレット 第1輯>大日本青年同盟、1932年8月17日 [1 怪物ファシオ、2 ファシズムの反国際主義、3 プロレタリア・インタ批判、4 伝統尊重と行動第一主義、5 ファシオの経済組織、6 ファシズムの日本主義、付録(大日本青年同盟大綱)]

*推薦文『大日本思想全集 内容見本』大日本思想全集刊行会、1932年

『日本精神と政党政治 附 政党政治に対する諸家の批判』<国民運動パンフレット 第2輯>国民運動社、1933年5月20日

『日本主義の基礎理論』<日青パンフレット 第2輯>大日本青年同盟本部、1933年6月26日【改造問題と主義の問題=改造問題はパンのみの問題か=、国祖以来の不断の大道=それに基く現代社会の批判が改造理論としての日本主義だ=、日本主義は斯く主張す=政治上、経済上、文化上に亘つて建国の本義を高揚拡充す=、日本主義とファツシズム=その重大なる異同点=、日本主義と国家社会主義=斯の明白なる相違を知らぬ=、日本主義に於る復古の意義=日本主義は単なる復古主義ではない=】

『日本精神と青年運動—青年日本同盟綱領・経綸・宣誓解説—』<国民運動パンフレット 第4輯>国民協会出版部、1933年12月20日【1 日本主義青年運動の特質と使命、2 青年日本同盟綱領・経綸・宣誓解説、3 日同・学生運動方針書】『日本主義運動の理論と実践』収録】

『日本主義運動の理論と実践』建設社、1935年2月22日【1 日本精神の基本的特質としての全体主義、2 日本主義運動の往くべき道、3 大川周明博士の思想と風格、4 日本精神と政党政治、5 マルクス階級闘争論の根本的誤謬、6 ファツシズムの再検討、7 独裁政治の世界的潮流と日本、8 国家社会主義の本質と欠陥、9 権藤成卿氏の思想を評す、10 日本精神と青年運動、11 日本主義時論数則(1 転向は々々非々、2 日本主義の問題、3 政党解消運動を繞つて、4 対外国策を確立せよ、5 政党の軍部攻撃を駁す、6 危機は解消したか、7 政党合同論の意義、8 維新必然論の一根拠、9 国際労働会議の問題、10 治維法改正案と右翼運動、11 政局の現状と日本主義運動、12 戦線統一問題への考慮、13 日本主義運動の第二期工作としての議会進出、14『危機』の急迫と国際経済戦、15 忠臣の典型としての東郷元帥)、12 日本主義運動小史】

中居屋重兵衛を讃へる市民大会開会の辞[11月3日(於開港記念横濱会館)]『新時代卓上演説集』<『雄弁』28-1 附録>大日本雄弁会講談社、1937年1月1日

立候補ノ御挨拶『選挙公報』から『衆議院議員総選挙概況 昭和十二年四月三十日執行』神奈川県、1937年7月15日

『課題を衝く』<作品文庫>作品社、1938年9月18日【孤独への意志、世紀の悲劇・ソ連邦、災害と人間生活、少数党の存在理由、小善か大善か、日本主義言論の使命、社大党の行方、日支戦と東洋民族、新しき政治へ、戦勝の条件、新しき精神、血の勝利、『純理』とは何ぞや、理想の喪失、癪に捧ぐる青春、新党に望むもの、起ち上る回教徒、近衛首相に求めるもの、持てる国・持たぬ民、転向派の任務、国策の不動化へ、指導者の問題、革新の意味と法則、闘争と競争、日は建国、忠愛の精神、現実の認識と批判、人物饑饉と教育、新しき風俗と生活、打倒マルクスの道、新しき新聞禍、前進座と新国劇、戦争の対内意義、学生指導の貧困】

序『戦魂 詩集』小田栄著、日本新国策研究所、1939年3月16日

満支随想『アジア』<アジア問題講座第8回配本付録>創元社、1939年9月10日『時局の周辺』収録】

『世界再建と東洋の理想』山雅房、1939年9月20日【世界再建の基礎理念、世界主義・東洋主義・日本主義、全体的把握に於ける全体主義、東洋の理想と満州国、事変の現段階と対英諸問題、汪兆銘の前進と日本の方向、外交刷新と国内革新、革新日本の先覚者(上杉慎吉、大川周明、高島素之、井上日召)、近世日本の国策思想(熊沢蕃山の国策思想、佐藤信淵の国策思想、横井小楠の国策思想)】

『時局の周辺 感想随筆集』興亜文化協会、1939年11月20日【日本精神を讃える、時局と学生生活、満支随想、法学士の論理、革新とユトピズム、革新期の青年へ、中江兆民と『一年有半』、時局の周辺、政学会について、戦争についての小感、近頃禽獣国異聞、壺中庵放談(1 文化に於ける日支関係、2 宇垣大将の場合、3 日本の哲学の創造、4 文芸人の教養について、5「日出づる国」寸感、6 神秘主義の氾濫、7 ニヒリズムの味覚、8 文学とイデオロギー、9 文芸院設立の問題、10 ルネサンスとしての明治維新、11 国家社会主義雑感、12 国際危機とヒューマニズム、13 野に在る遺賢、14「麦と兵隊」を読んで、15 根柢を欠く、16 小説「波」の独訳、17 木鷲の寓話、18 国家と芸術、19 早稲田文科時代の思ひ出、20 東洋思想と西洋思想、21 即ち芸術と離れる芸術、22 時局と芸術、23 国家主義の課題、24 新生活運動の方向、25 習字断念の弁、26 動中静思、壺中庵雑詠(出征兵士を送りて、故郷への旅、折々に詠へる、ある正月に、戦時偶感、修善寺にて)】

『日本の運命』今日の問題社、1939年12月18日【1 世界の現状と日本の立場、2 日本民族の思想と運命、3 欧州戦争と支那事変、4 事変処理と対英外交、5 排英運動と対英外交、6 攘夷の歴史的必然、7 国民政治の再建、8 国政一元化への課題、9 現代右翼批判、10 日本外交樹て直し論、11 外交自主の意義と方途、12 軍事と政治、13 重臣論、14 日英東京会談を論ず、15 現代新聞論、16 国体明徴のパラドクス、17 諸家の国民主義】

を評す、18 日本主義の政治運動、19 日本将校論、20 銃後農村大衆の使命、21 新しき政治のために、22 国内革新の基調】

『現下政治の動向』新光閣、1940年4月26日【1 生活と遊離した政治、2 左翼及び右翼の欠陥、3 支那事変と政治の責任、4 近衛内閣から米内内閣まで、5 事変処理と斎藤問題、6 汪政権と重慶政府、7 真の国体精神とは何ぞや、8 国体精神と東亜新秩序、9 政治と軍事の一元化、10 重臣政治の改革、11 新しき政治への探求、付国内革新への提言(1 世界的日本主義、2 国民多数を基礎とする政治、3 自主的経済の確立、4 ムツリ一ニの偉大なる理想)】

『新体制期の構想』東洋経済新報社、1940年11月7日【国際情勢篇(1 世界の現状と将来、2 国際共産主義運動の展望、3 世界新秩序の理念と現実)、国内政治篇(1 近衛内閣の使命と性格、2 基本国策の志向と限界、3 新体制と近衛公、4 軍官民一体論、5 新体制と知識階級、6 政治の再建と日本国体、7 政治の実際と政治評論、8 我国に於ける言論の特殊性)、思想・文化篇(1 日本文化の方向、2 文化の特質と文化国策、3 文化の使命と其の擁護、4 三民主義批判、5 思想と国策、6 国民生活再建の基調)、時局と青年篇(1 新しき青年の使命、2 世紀の主役青年に与ふ、3 学生と政治意識、4 時局と学生生活)】

『戦争の背後のもの』八元社、1940年11月27日【1 国家の歴史的段階、2 政治の性格と新動向、3 民族主義・民族と性格、4 戦争と思想、5 戦争と新観念、6 時代と知識階級、7 支那事変と支那問題、8 戦時下の文化問題、9 軍部の位置、10 国民運動の新段階、11 外交政策とその本質、12 三国同盟の精神、13 統制経済への断片、14 聖戦の意義】

思想界回顧『文芸豆年鑑 昭和十六年版』赤塚書房、1941年1月20日

勝海舟『青少年学徒振励読本 菊巻』東京府中等教育研究会国語漢文部編、中和会事務所、1941年5月22日

『文化と政治』桃蹊書房、1941年6月19日【文化について(年頭の感激、偉大なる批判、日本精神、歴史への態度、合理と真実、新体制と国民心理、思想評価の基準、リ氏の『告日本国』、思想戦の問題、二つの観念派、日本を識る途、新たなる決意へ、新文化への発足、啓蒙の必要、民族の苦悶と慟哭、国家の危機、日本的の再検討、赤とは何ぞや、出版の不具的傾向、宣伝戦のコツ、人口の量と質、擬装神がかり、治病の福音、動物園、甘さ辛さ、或る卓上演説)、政治について(政治の真実、生命を以て贖へ、革新の日本の方式、理義を欠く、気狂ひ沙汰、法的不備を補ふもの、言葉と其の意味、私有財産制度、危機と其の克服、翼賛青壮年団、在野精神、生命の法則、補強の補強、議会を見直す、還帰と前進、為政者の責任、為政者の二つの癖、指導者なき指導者政治、新体制の理念、真の翼賛精神、同志的組織の必要、強力政治の行方、政府・議会・翼賛会、議員倶楽部、表裏一体、態度が問題、お粗末な閣僚陣、翼賛問答、責任の意味、進歩と反動、軍部の発言)、外交について(日支問題の解決、微妙なる日ソ関係、日ソと米ソ、松岡外相に寄せて、戦火の拡大とソ連、フランスの運命、国共相剋、日ソ中立条約)、人物断想(近衛首相論、元老の死、嗚呼大角大将、哲人小村寿太郎、ベルグソン、龍馬的と海舟的、人物小観、人物論)】

『革新と建設』<新世代叢書 第14>育生社、1941年7月10日【革新の論理(新しき理念へ、革新の心理、革新をめぐる諸問題)、政治と革新(日本主義の政治運動、新日本の指導原理、信念ある政治、政治と責任、政治と知性、政治と其の革新)、新体制の性格(政治新体制の眼目、新体制下の政府と議会、新体制と旧体制、若き労働者に与ふ)、新支那の本質(新支那と三民主義、蒋介石と汪兆銘)】

我が国政治の現段階『現代政治の展開過程』<現代日本政治講座 第1巻>昭和書房、1941年9月20日

『国内体制と政治力』<金融問題研究会第五回座談会速記録>経済書籍、1941年10月3日【1 第三次近衛内閣出現とその意義、2 昨年以来的の新体制運動と政治勢力、3 明治維新と官僚藩閥政治、4 政党政治の発展とその崩壊、5 左翼右翼の抬頭と軍の革新的進出、6 満州事変と挙国一致内閣、7 第一次近衛内閣成立と支那事変、8 第二次近衛内閣と新体制運動、9 独ソ開戦で重点的な挙国内閣の出現、10 独ソ戦と英米の動き、11 世界戦争に対処して国内体制を更に強化せよ】

事変完遂と日米戦争『日・米英決戦の展開』日本評論家協会編、元元書房、1942年1月20日

政治とその革新に就て[文責在記者]『文化講義 第五輯』<講演叢書 第16篇>渡辺翁記念文化協会、1942年2月20日

『日本国家主義運動史論』中央公論社、1942年5月30日【1 日本国家主義運動史論、2 一国家主義運動者の手記】[「一国家主義運動者の手記」から「国家主義の流れー日本国家主義運動史論ー」と題して、今井清一編

- 『昭和の動乱』<現代日本記録全集 第20>(筑摩書房、1969年)抄録]
- 日本主義運動史『大東亜政治の構想』<総合文化講座>日本評論家協会編、日本出版社、1942年6月30日
 発刊の辞『日本政治年報 昭和十七年第一輯』[監修]昭和書房、1942年7月20日
- 序論 世界戦争の展望と新日本建設『日本政治年報 昭和十八年版第一輯』昭和刊行会、1942年12月15日[広瀬健一との共同執筆]
- 新中国国民運動と三民主義『日本政治年報 昭和十八年版第一輯』昭和刊行会、1942年12月15日
- 『伝統と創造』<ラジオ新書 98>日本放送出版協会、1943年2月5日【1 伝統と創造、2 翼賛政治の基調、3 日本思想の特質、4 日本の使命と民族性、5 在野精神の伝統、6 新政治への要望、7 時局断想】
- 『日支国交史論』<日本政治研究 第1輯>昭和刊行会、1943年6月20日【1 明治維新と支那革新の動き、2 日清戦争を繞る彼我の交渉、3 ロシアの策謀と団匪の乱、4 日露戦争と其の反響、5 国民革命運動と日本人の協力、6 欧州大戦と二十一ヶ条問題、7 国民革命の新段階と抗日の深刻化、8 満州事変より支那事変へ、9 大東亜戦争と日支の将来、10 世界新秩序への展望】
- 決戦日本の政治体制『思想戦の根基』<日本思想戦叢書 第2輯>大日本言論報国会編、同盟通信社出版部、1943年9月1日
- 『日本政治年報 第三輯 昭和十八年版下期版』[編]昭和刊行会、1943年11月20日
- 『大西郷』昭和刊行会、1943年11月20日【1 大西郷は生きてゐる、2 大西郷と明治維新、3 征韓論と西南の役、4 大西郷幕下の人々、5 大西郷と大久保利通、6 遺訓が語る大西郷、7 大西郷と頭山滿翁、8 諸家の大西郷、9 鹿児島雑感、10 大西郷の血と環境】
- 指導者原理『決戦産業人読本』大日本電気会・日本電気新報共編、日本電気新報出版部、1944年2月10日
- 序文『国土陸羯南』吉田義次著、昭和刊行会、1944年2月20日
- 『世界政治年報 第一輯』[編]昭和刊行会、1944年2月【欧州再建に関する独伊の闘争、米英反抗体制の検討、大東亜新秩序建設の進展】
- 一般政治経済情勢『婦人界の動向』<婦人年報第1輯>文松堂出版、1944年7月20日[複製版:『婦人年報 第1輯』<近代婦人問題名著選集 社会問題編 第12巻>(日本図書センター、1983年)、『婦人年報・第1輯 婦人界の動向』<婦人年鑑 昭和19年版 復刻版 第1期7>(日本図書センター、1988年)]
- 『救国自治の提唱』<明日への叢書 10>玄同社、1946年3月25日【著者より読者諸氏への言葉、1 敗戦日本の再出発、2 救国自治運動の提唱、3 続出する政党を觀る、4 共産党への厳正批判、5 日本国体と自治、6 生活の真実に直結せる政治、7 眞の肇国と創生へ】[大幅に削除・加筆・編集して『祖国に生きる』収録]
- 『右翼』昭和書房、1952年5月10日【1 右翼の抬頭(なぜ右翼の登場が要請されるか、2 日本右翼の特質と使命、3 右翼運動の現状と其の問題点、4 我が愛国の信条、5 愛国心と愛国運動)、2 右翼の回想(1 玄洋社と黒龍会、2 国家主義と民権主義、3 明治時代の社会主義、4 政党の腐敗と革新右翼の抬頭、5 猶存社・行地社・老荘会、6 経倫学盟・国本社・建国会、7 満州事変と右翼の高潮、8 奔騰するテロリズム、9 敗戦の日を迎えるまで)、3 右翼の人々(1 頭山滿、2 上杉慎吉、3 大川周明、4 高島素之、5 井上日召、6 中野正剛、7 石原莞爾、8 北一輝)】
- 『祖国に生きる』<現代人の教養 第6>東南書房、1952年8月30日【1 日本の往く道、2 救国自治の提唱、3 日本民族の思想的特性、4 世界統一への志向と戦争、5 平和、独立および愛国心、6 植民地人種への決別、7 我が再発足の弁、8 若き友に答う、9 日本的教學の三先達(1 熊沢蕃山、2 佐藤信淵、3 横井小楠)】
- 『右翼開眼—中共と日共—』拓文館、1956年3月10日【1 私の新中国観は訂正された、2 新中国を動かすものは何か、3 新中国の農業と企業の在り方、4 新中国は青年の国、5 新中国の婦人生活、6 解放軍と自衛隊、7 新中国の自由と日本の自由、8 「中共」と「日共」、9 諸家の新中国観を評す、10 日本民族主義の要請、11 右翼維新と左翼革命】
- 『私の昭和史』東京創元社、1958年4月20日【1 高島素之氏に牽かれて、2 満州事変から二・二六まで 3 支那事変身辺録、4 あゝ大東亜戦争、終戦後の十年】

『私はこう思う』『新しい愛国心』毎日新聞社、1961年8月20日[復刻:『文献選集<愛国心>と教育 第5巻 新しい愛国心』(日本図書センター、2007年)収録]

変らぬ友情[1956年6月、鶴島三郎選暦祝賀会案内状のあいさつ「鶴島三郎君の横顔」から p.311]『素浪人一代』鶴島三郎著、民論社、1964年11月20日

明治維新の志士たち『歴史よもやま話 日本編下』文芸春秋、1966年8月1日(<文春文庫>文芸春秋、1982年)[座談会:小西四郎、松本清張、池島信平(司会)]

『証言昭和維新』新人物往来社、1973年9月20日【序にかえて、昭和史の幕開き—三月事件から五・一五事件とその後、二・二六事件と北一輝—“昭和維新”の芽をつんで軍部独裁へ—、肅軍、宣戦なき戦争、翼賛会—天皇不在の無責任体制ファシズム—、同時代史抄(昭和六年～昭和十六年)】

『津久井龍雄氏談話速記録』<日本近代史料叢書 B-6>日本近代史料研究会、1974年11月

『異端の右翼—国家社会主義とその人脈—』新人物往来社、1975年9月15日【1 戦後体験と国家社会主義、2 アジア・ナショナリズム、3 昭和維新の継承と前進、4 国防の本質と国家の革正、5 すべての土地は国土である、6 自壊過程の自由主義、7 愛国心の現実的根拠、8 共産主義をどう捉えるか、評伝・国家社会主義者の人脈(1 尊皇社会主義の原型・田中正造、2 山路愛山と国家社会主義、3 高島素之の国家社会主義、4 北一輝における「革命」と「国体」、5 赤松克麿の科学的日本主義、6 林癸未夫の『国家社会主義原理』)、付(判沢弘「津久井龍雄」)】

瞥見した老龍の片鱗[「私の学生時代」]『紺碧の空なほ青く 近代日本の早稲田人 550 人』早稲田大学出版部、1977年11月1日

*『津久井龍雄句集』

2-1. 評論等(『大阪時事新報』・『やまと新聞』掲載を除く) <1191 篇>

1923(大正 12)年

先駆者としてのレオナルド・ダ・ヴィンチ『又新公論』1-5、7月15日

日本よ亜細亜復興の盟主たれ『日本主義』2、8月15日[国立国会図書館憲政資料室所蔵『斉藤実関係文書』書類の部1 パンフレット 二 大正時代 一一八、政治・行政 25]

「日本」の発見『日本主義』3、10月15日

当来文明の日本的要素『青年』8-11、11月1日

1924(大正 13)年

光秀の謀叛『急進』12、7月1日

排日問題に憤起して日本更生の途を説く『木堂雑誌』1-6、7月5日

読史余録 将門と純友『急進』13、8月1日

社会雑観アツト・ラムドム『木堂雑誌』1-7、8月1日【臥薪嘗胆、節約奨励、官僚主義】

読史余録 業平の環境『急進』14、9月1日

社会雑観アツト・ラムドム『木堂雑誌』1-8、9月12日【親鸞宗の錯覚、質と量、素人と玄人、愛国者】

擲弾二つ『木堂雑誌』1-9、10月1日【減師問題、耶蘇教徒の誤託】

道徳の現代的地位『急進』16、11月1日

擲散弾『木堂雑誌』1-10、11月5日【岐路に立つ政党、輿論と言ふもの、暴力是非、民謡の下落】

雑三題『急進』17、12月1日【行き詰り、軍縮気分、皮肉屋攻】

勤儉週間その他『木堂雑誌』1-11、12月1日【勤儉週間、責任問題、軍事教育】

1925(大正 14)年

ミルの光栄『急進』18、1月1日

毒舌事始『木堂雑誌』2-1、1月1日【必然の悪、教練と競技、名と実と】

きさらぎ抄『急進』19、2月1日

日本を嘆く『木堂雑誌』2-2、2月7日

失はれたる健全性『木堂雑誌』2-3、3月10日

大阪で逢つた人々『木堂雑誌』2-4、4月1日 <龍之介>

取り止め無い話『木堂雑誌』2-5、5月15日

懷疑礼讃『木堂雑誌』2-7、8月1日

駄文一束『木堂雑誌』2-8、9月1日

幻滅者の言葉『木堂雑誌』2-9、10月10日

豎子独白『第3次]局外』1-1、11月1日
両国だより『第3次]局外』1-1、11月1日<津>
嫌人者の言葉一人間を憫笑す『実業之世界』22-11、11月1日
対照二つ『木堂雑誌』2-10、11月18日
雑言二題『第3次]局外』1-2、12月1日
両国だより『第3次]局外』1-2、12月1日

1926(大正15・昭和元年)

感想二個『第3次]局外』2-1、1月1日
両国だより『第3次]局外』2-1、1月1日<津>
貧しき感想『木堂雑誌』3-1、1月1日
冬日断想『第3次]局外』2-2、2月1日
癪にさはる「時事一題ブラジル大使事件」『第3次]局外』2-2、2月1日
【無題短文』『第3次]局外』2-2、2月1日<津>
早春雑記『木堂雑誌』3-2、2月10日
千住回向院に幕末志士を弔ふ記『建国新聞』6、5月15日<津久井生>
王仁三郎君に会はない記ー関西一週間の旅とところどころー『建国新聞』8、6月15日<津久井生>
日本農民党の誕生『東方公論』1-11、11月1日
建国祭の意味『建国新聞』12、11月15日
テーブル・スピーチ『木堂雑誌』3-7、12月1日<龍生>

1927(昭和2)年

無産党を罵る『建国新聞』16、1月15日
所謂無産政党『東方公論』2-2、2月1日
怠惰なる愛国派「随筆」『東方公論』2-6、6月1日
社会時評『大調和』1-4、7月1日【善哉田中内閣、知事公選論、下剋上時代、ヒマシ油進上、無産党不要論、お門が違ふ】
*奪ふ運動より捧ぐる運動へー西洋精神と比較されたる日本精神の根本特徴『東方公論』2-7、7月1日【福家崇洋『戦間期日本の社会思想「超国家」へのフロンティア』(人文書院、2010年)305頁に引用があるが、掲載を確認できない】
緑陰随筆『建国新聞』19、7月15日<つくみ生>
緑陰随筆『建国新聞』20、8月1日<つくみ生>
六号雑筆『木堂雑誌』4-4、8月1日

〔現時活躍せる論客に対する一人一評録〕『隨筆』<人文会出版部>2-10、10月1日

反動的に謂ふ「社会時評」『自由評論』16-11、11月1日【擗取被擗取、無知か無恥か、普選と棄権、反動的疑問、現実派のお株、流行の力、愛国団体の三型、赤化と教授と教員】

1928(昭和3)年

満蒙対策悲観論『東方公論』3-1、1月1日

年頭関心『木堂雑誌』5-1、1月1日

〔愚問賢答一好きな人二嫌いな人〕『春秋』2-1、1月1日

国士と浪人の旧型新型『春秋』2-1、1月1日

〔昭和三年に為さうとする仕事の数々 出版業者としての新潮社と改造社との比較研究〕『春秋』2-2、2月1日

現代青年は何処へ行く〔鬼言仏語〕『春秋』2-2、2月1日

珠玉的名篇〔高島素之論—近業「論・想・談」を讀みて—〕『春秋』2-2、2月1日

〔愚問賢答 昭和戊辰への希求〕『春秋』2-3、3月1日

稀有楽観の時代〔鬼言仏語〕『春秋』2-3、3月1日

急進主義・自由主義・伝統主義〔鬼言仏語〕『春秋』2-5、5月1日

葬儀と直訴〔一人一話〕『春秋』2-5、5月1日

『国粹国体の批判』を批判す〔鬼言仏語〕『春秋』2-6、6月1日

*共産党事件の総批判『建国運動』7月

〔愚問賢答 あなたの不平・不満の二つ三つ〕『春秋』2-8、8月1日

自由主義に就いて〔鬼言仏語〕『春秋』2-8、8月1日

お門違ひの思想善導『東方公論』3-10、10月1日

在満同胞に告ぐ〔11月15日建国会本部として発表(於大連遼東ホテル)、理事長赤尾敏・書記長津久井の連名)『満州日報[夕刊]』11月16日

1929(昭和4)年

涙の追憶〔論壇・文壇の逝ける二明星〕『祖国』2-2、2月1日

建国祭に就て『東方公論』4-2、2月1日

〔論語〕小感『木堂雑誌』6-2、2月1日

青年国民党を樹立せよ『木堂雑誌』6-3、3月1日

社会運動界を大観して『実業時代』6-5、5月1日

国家社会主義抬頭及び決勝の歴史的必然性『急進』1-1、6月1日

南無国家社会主義『急進』1-1、6月1日

大衆社及急進愛国党宣言『急進』1-1、6月1日<<無署名>>『木堂雑誌』6-5、6月1日に掲載

編集後記『急進』1-1、6月1日

大衆社及急進愛国党宣言『木堂雑誌』6-5、6月1日

又しても軍縮[「内外時評」]『急進』1-2、7月1日

社会民主々義を清算す『急進』1-2、7月1日《奥澄男》

斯く信じ斯く言ふ『急進』1-2、7月1日

離れて受ける感じ[「福田徳三論」]『祖国』2-7、7月1日

*創刊宣言『急進愛国労働運動』1、10月1日<富士見市立中央図書館「渋谷定輔文庫」所蔵資料番号 931>

1930(昭和5)年

我等の党の本質、機能及びその闘争方針に関する私見『急進』2-1、2月1日

編輯後記『急進』2-1、2月1日《龍生》

一切の囚はれから自由であれ! [「巻頭言」]『急進』2-4、4月1日《津》

我等の運動に於ける若干の基礎概念に就いて『急進』2-4、4月1日[一部修正して「国家社会主義に於ける若干の概念について」と改題]『日本の社会主義の提唱』収録

「何といふ事なしに 上杉慎吉」掲載に際しての無題短文『急進』2-4、4月1日

国家の分裂と其の統一への途[「巻頭言」]『急進』2-5、5月1日《津久井》

階級対立の激化を前に岐路に立つ日本主義運動『急進』2-5、5月1日

雑録三題『急進』2-5、5月1日【市電ストライキ、河合君の英雄論、種蒔く人の必要】《津久井生》

創刊一周年を迎へて[「巻頭言」]『急進』2-6、6月15日《津久井》

政治・社会時評『急進』2-6、6月15日【統帥権問題の示唆、資本家の言ひ分、政友会の抱負、縷の如き合同談】

社会的統制の逆用と自壊[「巻頭言」]『急進』2-7、8月1日《津》

實際運動としての国家社会主義—それは俗流愛国運動及び無産運動と如何に対立するか—『急進』2-7、8月1日

政治・社会時評『急進』2-7、8月1日【「国家的」問題、独裁と超然、新聞の歪曲、留学無用論】《奥澄男》

編輯後記『急進』2-7、8月1日《津》

全日本主義者の闘争を財産奉還運動に集中統一せよ『急進』2-8、9月1日

社会時評『急進』2-8、9月1日【所謂共産的組合の出現、物価低落政策と輸出振興、国民生活に対立する政治、外客誘致政策を排す】《奥澄男》

編輯後記『急進』2-8、9月1日

枢密院の政治的地位に就て—所謂封建的勢力の本質を検討す—『急進』2-9、10月1日

内外時評『急進』2-9、10月1日【ロンドン条約廃棄すべし、労農党に於ける新反対派、産業調査協会設立の意義、「繫船時代」の出現と其の対策、ドイツ国粋社会党の躍進】《奥澄男》

編輯後記『急進』2-9、10月1日

「将来の日本に輝くべき民族的英雄」『祖国』3-10、10月1日

*大山郁夫と河上肇『プロレタリア時代』1-?、10月

編輯後記『急進』2-10、11月1日

高島氏回想座談会『急進』2-11<高島素之追想記念号>12月1日[11月9日座談会(於大衆社):矢部周、小栗慶太郎、神永文三、大木雄三、水守亀之助、水島荘介、井原紘]

資本家の自己暴露[社会時評]『急進』2-11、12月1日

事実の曲歪『急進』2-11、12月1日[『東京日日新聞』から転載]

後記『急進』2-11、12月1日<<津>>

1931(昭和6)年

暗い世相を直視して『木堂雑誌』8-2、2月1日

御挨拶『愛国労働新聞』1、3月1日<<伊地知義一と連名>>

「一 既成政党を如何に浄化するべきか 二 既成政党へ期待すべきことありや 三 政民両党々勢今後の予想」
『祖国』4-3、3月1日

日協の闘争を斯く進めよ、抽象的より具体的へ即興的より組織的へ『興民新聞』3、5月1日

愛国労働新聞の発展的解消に就て『興民新聞』3、5月1日<<伊地知義一と連名>>

触目偶感 最近日本主義論壇の収穫『興民新聞』6、8月1日<<津>>

戦争に就いて—二つの反戦論を暴く—『興民新聞』7、9月1日

「暗号電報盗読問題」『祖国』4-9、9月1日

対支強硬プレリュード『明德論壇』5-9、9月1日

戦争と外交—日本人は何故戦争に強く外交に弱い—『興民新聞』8、10月1日<<奥澄男>>

無産運動陣営内に於ける国家社会主義への転向に就いて『社会運動往来』3-10、10月1日

時評『日本社会主義』1-1、10月1日【満蒙問題の激化と軍部・内閣対立の意義、裁判の階級性と共産党幹部の怪陳述、棄てられた人形の独白を聴く】

日本社会主義往来『日本社会主義』1-1、10月1日<<龍>>

編集後記『日本社会主義』1-1、10月1日<<T生>>

『共同戦線党の検討』の検討『日本社会主義』1-2、11月1日

時評『日本社会主義』1-2、11月1日【ブルジョア・インタの神殿国際連盟、地方議会選挙と無産政党、英国労働党はどこへ行く?】

日本社会主義往来『日本社会主義』1-2、11月1日<<龍>>

国家社会主義の二三の問題『社会運動往来』3-12、12月1日

国家と階級の問題について—或るプロテストを対象に—『日本社会主義』1-3、12月1日

日本社会主義往来『日本社会主義』1-3、12月1日<<龍>>

*国家社会主義運動抬頭の必然性『無産者法律』1-8、12月1日

日本主義と社会主義—日本の社会運動の基礎理論の—『興民新聞』10、12月5日

1932(昭和 7)年

- 昭和七年度の社会運動界—国家社会主義を主題に—『興民新聞』11、1月1日
- 誰が最後に勝つか『フアズム特輯』『サラリーマン』5-1、1月1日
- 『国家社会主義問題に関して諸家の意見を聴く—本誌の問ひに答へて—』『社会運動往来』4-1、1月1日
- 国家社会主義運動の将来『社会運動通信』663、1月1日
- 『端書回答 一九三二年の社会運動の展望 国家社会主義運動の発展性』『社会運動通信』663、1月1日
- 時評『日本社会主義』2-1、1月1日【フアスシヨは誰れだ？、社会主義における『日本的』、混沌たる社会運動界】
- 社会運動雑談『明德論壇』6-1、1月1日
- 日本軍隊論『サラリーマン』5-2、2月15日
- 或る手紙『興民新聞』13、3月1日
- 日本軍隊論序説 軍隊はプロレタリアートの敵か味方か？『興民新聞』13、3月1日
- フアツシヨについての雑感『興民新聞』14、4月1日《T・T生》
- 『同志通信』『改造戦線』14、5月20日
- ××内に於ける対立の激化—協力内閣の瓦解と、国民的フアツシヨの抬頭『陸海軍々人の犬養首相暗殺帝都襲撃事件を批判す』『サラリーマン』5-5、6月1日
- 改造理論に於ける諸問題『日本主義講座』『生命線』1-1～3、2-1、9月18日、11月1日、12月1日、**1933年**1月1日【1 国家社会主義の国家論に就いて、2 自治農本主義の検討、3 フアツシズムの再検討、4 階級闘争と国家主義】1 は「国家社会主義の本質と欠陥」と改題、2 は「権藤成卿氏の思想を評す」と改題、3 は原題のまま、4 は「マルクス階級闘争論の根本的誤謬」と改題『日本主義運動の理論と実践』収録]
- 最近の心境を語る[談』『社会運動往来』4-11、11月1日[目次にはないが p.26 掲載]
- 『社会運動往来』『社会運動往来』4-11、11月1日
- 打倒マルクス座談会『生命線』1-2、11月1日[座談会:満川亀太郎、赤松克麿、喜多壮一郎、上村勝弥]
- 日本主義の基礎理論『大日本青年新聞』1～6、11月10日、12月10日、**1933年**1月10日、2月10日、3月10日、4月10日『日本主義の基礎理論』<日青パンフレット 第2輯>(大日本青年同盟本部、1933年6月26日)として刊]
- 日青同盟歌試作 吼えろ青年『大日本青年新聞』1、11月10日
- 英雄と軍部に俟つ[提題 時局の見透しに就て]『サラリーマン』5-11、12月1日
- 全国家主義運動に於る最近の動向を批判す『社会運動往来』4-12、12月1日
- 日本思想序説『明德論壇』6-13、12月1日

1933(昭和 8)年

『社会運動往来』『社会運動往来』5-1、1月1日

デモクラシーの破綻と一党政治の考察『生命線』2-1、1月1日

感想一つ『生命線』2-6、3月1日

時評『国民運動』1-1、4月1日【日露関係と不可侵条約、政党内閣復活の策動を排撃せよ、予算通過と軍部の態度、米国の金融恐慌と日本】

編輯後記『国民運動』1-1、4月1日

日本主義運動の回顧『国民運動』1-1～4、4月1日、5月1日、6月1日、7月1日【『日本主義運動小史』と改題『日本主義運動の理論と実践』収録】

国家社会主義の発展を遺憾なく示す新聞【『五周年に寄す』】『社会運動通信』1019、4月1日

大久保利通【『明治維新十二傑評価』】『生命線』2-7、4月1日

日本精神と政党政治『国民運動』1-2、5月1日【『日本精神と政党政治』】『日本主義運動の理論と実践』収録】

階級闘争理論の再検討『国民運動』1-2、5月1日【『奥澄男』】『マルクス階級闘争論の根本的誤謬』と改題『日本主義運動の理論と実践』収録】

統一は問題【『提題 (1)現在、国論は統一されてみると認めるか (2)かかる統一状態をどうお考へになるか』】『サラリーマン』6-4、5月1日

共産党の克服について『明德論壇』7-5、5月1日

大川先生の名著『国史読本』—全国同志の必読を切望す—『国民運動』1-3、6月1日

編輯後記『国民運動』1-3、6月1日【『津』】

内外随想『大日本青年新聞』8、6月10日【『津久井生』】

立場を異にする者より『木堂雑誌』10-7、7月1日

祖国礼讃歌『大日本青年新聞』8、9、6月10日、7月10日

個人主義・多数主義・全体主義—日本精神の基本的特質について—『経済往来』8-7、7月1日【『日本精神の基本的特質としての全体主義』と改題『日本主義運動の理論と実践』収録】

内外時評『国民運動』1-4、7月1日【『佐野、鍋山両君の転向、国際経済会議の効果、日本主義と国家社会主義の問題、軍部対立のデマを取締れ』】

石川君に一言『国民運動』1-4、7月1日

嗚呼、千葉直太郎君『国民運動』1-4、7月1日【『津久井』】

編輯後記『国民運動』1-4、7月1日【『津』】

昭和維新の実際問題『社会運動往来』5-7、7月1日【6月9日座談会(於大阪ビル談話室):大川逞一、狩野敏、栗原美能留、町田辰次郎、藤井信五、山口征夫、赤松克麿、鈴木善一、小林五郎】

立場を異にする者より『木堂雑誌』10-7、7月1日

全体主義の再確立『明德論壇』7-7、7月1日

内外随想『大日本青年新聞』9、7月10日【『津久井生』】

日本主義運動の往くべき道『国民運動』1-5、8月1日【『日本主義運動の理論と実践』収録】

雑事雑録【『感想と随筆』】『国民運動』1-5、8月1日

内外時評『国民運動』1-5、8月1日【**税制改革の急務、国際経済会議の休会と日満ブロック、直接行動はか非か、瀧川問題と帝大法文科廃止論**】

転向は々々々『転向問題批判』『経済往来』8-9、8月1日【**「日本主義時論数則」**（『日本主義運動の理論と実践』収録）

国民協会設立趣意書『国民運動』1-6、9月1日【赤松克麿と連名】

時評『国民運動』1-6、9月1日【**治安維持法の改正、五・一五事件公判記事を読んで、政党解消すべし、国民協会について**】

歴史と伝統に還れ『政治経済時論』8-9、9月1日

青年日本同盟歌（煙も見えずの節）『大日本青年新聞』11、9月10日

大川周明博士の思想と風格『国民運動』1-7、10月1日【『日本主義運動の理論と実践』収録】

主体勢力論－昭和維新に関する一つの考察－『明德論壇』7-10、10月1日

神野信一君を悼む【神野信一氏の回想】『社会運動往来』5-10、10月10日

高島さんの追憶『国民運動』1-9、12月1日

歳暮雑感『明德論壇』7-12、12月1日

階級的正義観より民族的正義観へ『雄弁』24-12、12月1日

1934(昭和9)年

蘇峰先生に教を乞ふ座談会『国民運動』2-1、1月1日【11月29日座談会(於民友社):徳富蘇峰、赤松克麿、石塚、田中、佐藤、並木】

『現代の救国的指導者如何』『政治経済時論』9-1、1月1日

『第六十五議会解散の当否』『政治経済時論』9-1、1月1日

時評『国民運動』2-2、2月1日【**1 日本主義の問題、2 政党解消運動を繞つて、3 対外国策を確立せよ**】（『日本主義時論数則』（『日本主義運動の理論と実践』収録）

即時政党解消【今議会で政党は何を為す可きか】『実業之世界』31-2、2月1日

時評－第六十五議会で現はれた二三の現象を主題に－『国民運動』2-3、3月1日【**1 政党の軍部攻撃、2 危機は解消したか、3 政党合同論の意義**】（『日本主義時論数則』（『日本主義運動の理論と実践』収録）

前衛隊結盟式の日々に詠める『青年日本新聞』17、3月1日

吼えろ青年【作詞】『国民運動』2-4、4月1日

隔週随想『青年日本新聞』19、4月1日

海外三題『国民運動』2-5、5月1日【**支那の新生活運動、シュベングラウの勇氣、露作家の観た「サムライの道」**】

時評『国民運動』2-5、5月1日【**1 維新必然論の一根拠、2 国際労働会議の問題、3 治維法改正案と右翼運動**】（『日本主義時論数則』（『日本主義運動の理論と実践』収録）

随想二題『青年日本新聞』21、5月1日

時評『国民運動』2-6、6月1日【**1 時局の現状と日本主義運動、2 戦線統一問題への考察**】（『日本主義時論数則』（『日本主義運動の理論と実践』収録、1は「政局の現状と日本主義運動」と改題）

東郷元帥の偉大性『青年日本新聞』22、6月1日
関西の同志を訪ねて『青年日本新聞』22、6月1日
日本主義者の品等『青年日本新聞』23、6月15日
日本主義者の品等に就て[「主張紹介」]『社会運動通信』1388、6月30日
時評『国民運動』2-7、7月1日【1日本主義運動の第二期工作としての議会進出、2『危機』の急迫と国際経済戦、忠臣の典型としての東郷元帥】[「日本主義時論数則」]([「日本主義運動の理論と実践」]収録)
制度と精神『青年日本新聞』24、7月1日
時評－岡田新内閣の成立を中心に－『国民運動』2-8、8月1日【岡田内閣成立の意味、政党の後退と官僚の前進、解散の必至と日本主義派】
勝てば官軍『青年日本新聞』25、8月1日
昭和維新とは『青年日本新聞』26、8月15日<8月18日発禁>
同志『青年日本新聞』27、9月15日
国民運動の明日を語る座談会『月刊維新』1-1、11月1日[座談会:関根海軍大佐、坂西陸軍大佐、下中弥三郎、中谷武世、赤松克麿、小池四郎、高山久蔵、金内良輔、林正義、狩野敏、山岸多嘉子、小栗慶太郎]
独裁政治か独断理論か－宮沢俊義氏の所論に触れつつ－『月刊維新』1-2、12月1日
東北行『青年日本新聞』30、12月15日

1935(昭和10)年

政治の今明日を語る『月刊維新』2-1、1月1日[座談会:大塚惟精、岡部長景、風見章、船田中、金内良輔、芦田均、赤松克麿、中谷武世、下中弥三郎]
日本主義青年運動の動向[「二五九五年の展望」]『月刊維新』2-1、1月1日
*日本主義言論の躍進『報道公論』1月
*躍進の為に沈潜せよ『明德論壇』9-1、1月1日
*躍進のために沈潜せよ『出羽興民新聞』591、593、1月11、13日
日本主義の政治的展開へ『昭和維新』18、2月1日
諸家における国民主義『理想』53、3月1日[「諸家の国民主義を評す」と改題]『日本の運命』収録]
美濃部学説問題の意味『社会運動通信』1602、3月26日
日本主義運動の現段階と対議会闘争『月刊維新』2-4、4月1日
美濃部問題の意味『国民運動』33、4月1日
刻下の社会情勢と日本主義運動『政治経済時論』10-4、4月1日
美濃部問題と政府当局の混迷『社会運動通信』1629、4月27日
美濃部問題と政府当局の混迷『国民運動』34、5月1日
日本主義者らしくやれ『国民運動』34、5月1日
理論を乗り越える者－日本の知識階級に捧ぐ『転換時代』6-5、5月1日

最高最大道徳の実践者[『大楠公を偲ぶ』]『歴史公論』4・5、5月1日[雄山閣編輯局編『大楠公誠忠録』(雄山閣、1935年7月15日)収録]

大楠公六百年祭を迎へて『国民運動』35、6月1日

海舟先生のこと『国民運動』35、6月1日

新興勢力の政治的進出『月刊維新』2・7、7月1日[座談会:長野朗、倉田百三、小林順一郎、岩田愛之助、高山久蔵、神田兵三、中谷武世、下中弥三郎]

他力本願を棄てろー日本主義運動の新しき前進のためにー『国民運動』36、7月1日

不振の弁[『随筆』]『社会往来』7・8、7月1日

*国策を貫く二大潮流『明德論壇』9・7、7月1日

日本主義と日本精神[『一頁演説集』]『雄弁』26・7、7月1日

選挙戦の前景と背景『社会運動通信』1709~1711、7月31日、8月1、2日

日本主義の旧と新『国民運動』37、8月1日

選挙戦の前景と背景『国民運動』37、8月1日

国体明徴の声明書を読んで『国民運動』38、9月1日

人生修行と文芸作品『国民運動』38、9月1日

イ・エ問題の見方『国民運動』39、10月1日

「蘇峰自伝」読後感[『国民文芸』]『国民運動』39、10月1日

日本主義と自由主義ー異色ある長谷川氏の所論ー『国民運動』40、11月1日

渥美さんと小栗君『国民運動』40、11月1日<<津久井生>>

日本主義と自由主義『社会運動通信』1791、1792、11月7、8日

予算と軍部『国民運動』41、12月1日

*国体明徴のパラドクス『時政』[『日本の運命』、『私の昭和史』pp.91~93 収録]

1936(昭和11)年

一切の対外政策は先づ国内改造より『政治経済時論』11-1、1月1日

対支国策の問題『国民運動』42、1月1日

明治維新と勝海舟『国民運動』42、1月1日<<津久井生>>

千載一遇の好機 全合同を断行せよ『国民運動』43、3月1日

千載一遇の好機 全合同を断行せよ『社会運動通信』1888、1889、3月13、14日

『革新論』の氾濫ー日本主義革新論を進化せよー『国民運動』44、4月1日

総選挙と其の後『社会往来』8-4、4月1日

民族の飛躍と反省[『五分間演説模範例』]『雄弁』27-4、4月1日

白紙にかへる『国民運動』45、5月1日[『日本国家主義運動史論』に摘録]

思想の問題『国民運動』45、5月1日
大衆党を衝く『国民運動』46、6月1日
満川さんを悼む『国民運動』46、6月1日
中江兆民と「一年有半」『議会政治』3-7、7月1日[「中江兆民と『一年有半』」と改題『時局の周辺』収録]
革新の基調としての寡欲と奉仕『国民運動』47、7月1日
『革新』に就いて『国民運動』47、7月1日《津久井生》
時評的思惟－思想と文芸とを対象に－『社会往来』8-7、7月1日【1 日本主義と社会主義、2 精神の改造か制度の改革か、3 文学に於ける個人的と社会的、4 純文学と大衆文学】
一人なる故[鷺尾義直書簡]『木堂雑誌』13-6、7月10日
時評的思惟－思想と文芸とを対象に－『社会往来』8-8、8月1日【1 日本的哲学を創造せよ、2 言論の不自由と操觚者の信念、3 文芸人の教養について、4 「日出づる国」寸感】[1、3、4を『時局の周辺』収録]
革新の基調としてのユトビズム『国策』3-2、8月5日
[「はがき問答 反英同盟か反露外交か」]『国策』3-2、8月5日
対支策の新角度『国民運動』48、9月1日
時評的思惟－思想と文芸とを対象に－『社会往来』8-9、9月1日【1 神秘主義の氾濫、2 ニヒリズムの味覚、3 文学とイデオロギー、4 文芸院設立の問題】[『時局の周辺』収録]
革新の思想的背景と其の実践『政界往来』7-9、9月1日
近世日本の国策思想－国策思想家としての蕃山・信淵・小楠－『国策』3-3～5、9月5日、10月5日、11月5日
[『世界再建と東洋の理想』収録]
電力問題の示唆するもの『国民運動』49、10月1日
時評的思惟－思想と文芸とを対象に－『社会往来』8-10、10月1日【1 ルネサンスとしての維新、2 国家社会主義雑感、3 国際危機とヒューマニズム、4 二つの芥川賞作品】[1～3を『時局の周辺』収録]
新らしき政治の段階へ『国民運動』50、11月1日
時評的思惟－思想と文芸とを対象に－『社会往来』8-11、11月1日【1 大衆を抜きにした革新、2 邪教とは何ぞや、3 東洋思想と西洋思想、4 即く芸術と離れる芸術】[3、4を『時局の周辺』収録]
日本国民戦線の提唱『政治経済時論』11-11、11月1日
新らしき政治の段階へ『社会運動通信』2087、2088、11月7、9日
「大衆化」の志向と其の意義『国民運動』51、12月1日

1937(昭和12)年

軍部革新意識の本質と限界『社会往来』9-1、1月1日
早くからの漏洩[「日独防共協定日伊協定を如何に見る乎?」]『祖国』9-1、1月1日
*苦悶する祖国愛『国策』4-1、1月5日
戦争と日本主義『国民運動』52、1月15日

日本主義運動に寄する若干の基礎考察『国民運動』52、53、1月15日、2月15日

近世日本社会主義運動の父 上杉慎吉博士の映像[「先覚者を描く一」]『社会往来』9-2、2月1日[「革新日本の先覚者 上杉慎吉」と題して『世界再建と東洋の理想』収録]

時局の見方に就て一大局的動向を把握せよ一『国民運動』53、2月15日

〔一、今次政変の社会的意義如何 二、林内閣の使命は何か 三、軍部動向に対する批判並に希望』『社会往来』9-3、3月1日

壺中庵雑詠[短歌 10 首]『社会往来』9-3、3月1日[「壺中庵雑詠 折々に詠へる」(『時局の周辺』)中の後半 10 首に収録]

満洲問題と軍人教育「先覚者」大川周明の印象[「先覚者を描く二」]『社会往来』9-3、3月1日[「革新日本の先覚者 大川周明」と題して『世界再建と東洋の理想』収録]

国家社会主義の提唱 高島素之氏の横顔[「先覚者を描く三」]『社会往来』9-4、4月1日[「革新日本の先覚者 高島素之」と題して『世界再建と東洋の理想』収録]

時局認識を繞る政府と政党『国民運動』54、4月15日

総選挙とその後に来るもの『いのち』5-5、5月1日

壺中庵雑詠[短歌 10 首]『社会往来』9-5、5月1日[「壺中庵雑詠 折々に詠へる」(『時局の周辺』)中の前半 10 首に収録]

〔「近きより」]『近きより』1-2、5月5日

日本的なるもの『国民運動』55、6月1日

血盟団の指導者 大愛の人・井上日召[「先覚者を描く四」]『社会往来』9-6、6月1日[「革新日本の先覚者 井上日召」と題して『世界再建と東洋の理想』収録]

*思惟における日本的『国策』4-6、6月5日

新党を興すもの『国民運動』56、7月1日

*右翼新党に寄する言『国策』4-7、7月5日

*季節ノート[随筆]『国策』4-7、7月5日

近衛内閣の性格と宿命『社会往来』9-7、7月1日

〔「読者より」]『近きより』1-4、7月5日

対支問題の根本認識『国策』4-8、8月5日

北支事変と戦時経済を語る会『国策』4-8、8月5日[7月22日座談会(於日本橋勝世):御手洗辰雄、倉田百三、斎藤直幹、山科敏、大森鉦太郎]

季節ノート[随筆]『国策』4-8、8月5日【戦争の蔭に唐詩を想ふ、東洋思想と西洋思想、即く芸術と離れる芸術】

結党宣言『日本革新新聞』92、8月5日<<無署名>>『日本国家主義運動史論』pp.195-197 収録]

日支抗争の根因と其その克服『社会往来』9-9、9月1日

壺中庵雑詠[短歌]『社会往来』9-9、9月1日【出征兵士を送りて、故郷への旅】(『時局の周辺』収録)

壺中庵雑詠[短歌]『社会往来』9-10、10月1日【戦時偶感、修善寺にて】(『時局の周辺』収録)

日本主義の政治運動『理想』78、10月1日『日本の運命』収録]

理論尊重の気風を興せー運動の現段階に寄する言葉ー『日本革新新聞』94、10月15日

内外維新の大理想「国民精神総動員と貴下の決意」『祖国』9-10、11月1日

我等何を為すべき乎ー本紙前号の一文に続けてー『日本革新新聞』95、11月15日

1938(昭和13)年

日本精神の政治的展開『いのち』6-1、1月1日

政治の走馬灯「十年我等何を見しか?」『国民評論』10-1、1月1日

「諸家は斯く答ふ 一、理想的戦時内閣の顔触れは? 二、一九三八年に活躍させたき人々? 三、貴家最大の御不満は? 四、本誌に何を望むか?」『国民評論』10-1、1月1日

「手近な処にある我々の戒心し実行し警告しなければならないこと」『近きより』2-1、1月5日

新装共産党事件の示唆するもの『いのち』6-2、2月1日

ヒトラー青年団駐日代表シユルツエ氏を囲んで『国民評論』10-2、2月1日【座談会:シユルツエ、ドナート博士、栗原美能留、村井藤十郎、野村重臣、野々山重治、丹羽五郎、芳賀檀、山田洋雄、小林五郎】

日本主義について その革新性と科学性『時局月報』11-3、3月1日

或る政治団体の発会式にて「テーブル・スピーチ模範例」『雄弁』29-3、3月1日

時局に寄せる言葉『日本革新新聞』98、3月29日

政党の克服と新憲政の創造「革新政治の方向」『いのち』6-4、4月1日

日本文化の諸問題『政界往来』9-4、4月1日

人物饑饉其他『内観』218、5月1日【人物饑饉、起ち上る回教徒、日ソ戦ふべきか】『課題を衝く』(『やまと新聞』4月2、8日、5月1日)から転載]

政党関係の巨人群ー久原・中島・永井・中野・秋田・松岡など「日本の現実と人物」『いのち』6-6、6月1日

「一、人生を明るくする言葉 一、興味ある人物二、三と其の意味 一、感心した著述、風景、絵画等」『近きより』2-4、6月5日

「小林五郎君を激励する会」中の発起人代表としての挨拶『国民評論』10-7、7月1日

「国策の線に沿ふ」とは何ぞやー新聞匿名月評ー『文芸春秋』16-11、7月1日<<田村町人>>

思索ある行動へー結党一周年の感慨ー『日本革新新聞』101、7月23日

不動であつて動「新修・日本精神読本」『週刊朝日』34-4、7月24日【『新修日本精神読本』(朝日新聞社編・刊、1938年)収録]

壺中庵放談『国民評論』10-8、8月1日【1文化に於ける日支関係、2思想問題の場合、3大味な時代、4文楽座を觀て】[1を『時局の周辺』収録]

紙面に現はれる記者の知性ー新聞匿名月評ー『文芸春秋』16-13、8月1日<<田村町人>>

壺中庵放談『国民評論』10-9、9月1日【1野に在る遺賢、2日ソ戦への漫想、3「麦と兵隊」を読んで】[1、3を『時局の周辺』収録、1を『内観』223、1938年10月1日に転載]

時局八面観『内観』222、9月1日【直進の一途あるのみ、国際情勢の現実と認識、宣伝戦の意義と効果、小善か大善か】『課題を衝く』(『やまと新聞』7月18、26日、8月11、12日)から転載]

用紙節約と各社の対策－新聞匿名月評－『文芸春秋』16-15、9月1日<<田村町人>>

感想一つ『随筆』『揚子江』1、9月1日

*不動にして動『台湾消防』9月12日<国立中央図書館台湾分館所蔵>

壺中庵放談『国民評論』10-10、10月1日【1 根柢を欠く、2 或る手紙、3「波」の独訳、4「綴方教室」其他】[1、3を『時局の周辺』収録]

漢口攻略と宇垣外交『宇垣外交をどう観る』『政界往来』9-10、10月1日

節紙実現と新聞不安－新聞匿名月評－『文芸春秋』16-17、10月1日<<田村町人>>

壺中庵放談『国民評論』10-11、11月1日【1 宇垣大将の場合、2 杉山平助の議論】[1を『時局の周辺』収録]

ジャーナリズム時評『時評 新聞雑誌』『作品』9-11、11月1日

日本軍部論 主として革新運動との関連に於て『新日本』1-10、11月1日

陸軍省情報部に望む－新聞匿名月評－『文芸春秋』16-19、11月1日<<田村町人>>

戦況最高潮に達す！！座談会『文芸春秋』16-20<現地報告時局増刊 14>、11月10日[座談会：細川寛邦、細谷資英、松島慶三、大石隆基、山県初男]

社会大衆党を唾棄す『日本革新新聞』104、11月15日

*新党運動と新国民運動『新国民運動』[1-4]<日本革新農村協議会>、11月

壺中庵放談『国民評論』10-12、12月1日【1 健全なる常識主義、2 勝海舟と氷川清話、3 高島素之を偲ぶ】

『北洋の漁業権益を如何にして護るか？』『水産界』673、12月1日

日本主義と民衆『セルバン』95、12月1日

新党問題と新聞の責任－新聞匿名月評－『文芸春秋』16-21、12月1日<<田村町人>>

日本将校論『文芸春秋』16-22<臨時増刊 15>、12月10日『日本の運命』収録]

新党運動か新国民運動か『日本文化』<日本文化会>2-1(新年号)、12月20日

日本精神と日本主義『日本主義の再認識』『東洋経済新報』1848、12月24日<1939年新年号>

革新の嫡流は誰ぞ－革新党の使命への再反省－『日本革新新聞』105、12月25日

*近衛内閣の革新性と其の限界『月旦』9-12、12月

1939(昭和 14)年

時局の現段階と国民再組織問題『いのち』7-1、1月1日

時局收拾と国民再編成『改造』21-1、1月1日[12月29日座談会(於東京会館):有馬頼寧、馬場恒吾、高橋亀吉、尾崎秀実、長谷川如是閑、宮沢俊義、山本実彦]

近衛内閣の運命を卜す『革新』2-1、1月1日

祝辞『国体法の研究』刊行完成祝賀会之記『国体学雑誌』198、1月1日[里見岸雄著『国体法の研究 天皇は統治権・実の主体にして権利の総攬者たるを論ず』<増訂新版>(錦正社、1942年7月20日)収録]

世界主義・東洋主義・日本主義『国民評論』11-1、1月1日『世界再建と東洋の理想』収録]

日本主義運動の現状と其の批判『政界往来』10-1、1月1日

政治の知性と近衛内閣「全体時評」『知性』2-1、1月1日

「東亜新秩序の建設」座談会『文芸春秋』17-1、1月1日[座談会:赤松克麿、木村増太郎、河野密、藤沢親雄、山崎靖純]

「今度あなたのお知り合ひの中国人に年賀状を出されると仮定して、その賀詞に何か言葉を添えるとすれば、どんなことをお書きになりますか。」『揚子江』2-1、1月1日

我観全体主義 現実面に於ける全体主義の諸問題『三田新聞』408、1月25日

政治運動と思想運動『日本革新新聞』106、1月29日

新内閣と議会『革新』2-2、2月1日

平沼内閣と防共国策『月刊ロシヤ』5-2、2月1日

「日本主義再建」座談会『国民評論』11-2、2月1日[1月8日座談会(於如水会館):田中惣五郎、野村重臣、赤松克麿、佐治謙讓、三輪寿壯、小林五郎]

平沼内閣の性格—大衆は、再び政治から切離された—「時評」『時局月報』12-1、2月1日

右翼革新派の人々が新日本建設の抱負を語る座談会『話』7-2、2月1日[座談会:赤松克麿、小山亮、石川準十郎、陶山篤太郎、小池四郎]

習字断念の弁「私の話題」『雄弁』30-2、2月1日

東亜協同体論の一典型 軍上海特務部の注目すべき発声について『日本革新新聞』107、2月28日

戦時議会の示唆するもの『改造』21-3、3月1日

全体主義の意義と方法『創造』9-3、3月1日

『革新』新党に寄する批判『日本評論』14-3、3月1日

日本学の普遍性—藤沢親雄著『日本人間学』(第一出版社刊)—「新著評論」『文学界』6-3、3月1日

流産新党への批判『早稲田大学新聞』132、3月1日

戦争意識の進化「銃眼」『文芸春秋』17-6<時局増刊現地報告 18>、3月10日

革新運動と封建制「時評 政治」『日本文化』2-4(4月号)、3月20日

革新運動の革新『革新』2-4、4月1日[座談会:石川準十郎、田中惣五郎、松岡駒吉、木原通雄、河野正通]

一国一党か諸党分立か『経済情報 政経篇』14-9、4月1日

壺中庵放談『国民評論』11-4、4月1日【時局と芸術、国家主義の課題】『時局の周辺』収録

全体主義とはどんな事か『今日の問題』43、4月1日<昭和館所蔵>

『全体主義の構想』【書評】『作品』10-4、4月1日

平沼内閣への審判『文芸春秋』17-7、4月1日

統制さるべきは誰ぞ「時評 政治」『日本文化』2-5(5月号)、4月20日

新聞時評『改造』21-5、5月1日

壺中庵放談『国民評論』11-5、5月1日【豹変是非、英雄と凡人】

国際危局と日本外交の指標『中央公論』54-5、5月1日

「支那知識階級に推薦する書籍」『揚子江』2-5、5月1日

国民運動の方向を語る 中野正剛氏に注文する座談会『講演』433、5月10日[4月19日新日本文化の会主催座談会(於虎ノ門晩翠館):倉田百三、藤沢親雄、尾崎士郎、林房雄、杉森孝次郎、藤田徳太郎、保田与重郎、佐藤春夫、三宅雪嶺、中河与一、大木惇夫、岡山巖、難波田春夫、中野正剛、富沢有為男、斉藤直幹、佐藤吉熊]

外交に於ける革新『外交』400、5月21日

現代右翼批判『革新』2-6、6月1日『日本の運命』収録]

東亜協同体を建設するには国内を如何に立て直すべきか『青年』24-6、6月1日[座談会:暉峻義等、遠藤三郎、栗原美能留、田中確一、中野清、熊谷辰治郎]

『最近の感想』『祖国』11-6、6月1日

政局の裏表を語る座談会『中央公論』54-6、6月1日[座談会:有竹修二、木原通雄、浜田尚友、四方田義茂]

法学士国を誤る『中央公論』54-6、6月1日[「法学士の論理」と改題『時局の周辺』収録、『時局の周辺』から『内観』238、1940年1月1日に転載]

斯く考へ斯く生きよー時局と学生生活に就てー『九州帝国大学新聞』203、7月20日[「時局と学生生活」と改題『時局の周辺』『新体制期の構想』収録]

軍事と政治『改造』21-8、8月1日『日本の運命』収録]

国民動員と世論『改造』21-8、8月1日[討論:三木清、松村秀逸、長谷川宇一、杉山平助、小松東三郎、杉森孝次郎]『三木清研究資料集成』第4巻(クレス出版、2018年)収録]

東京会談と事変の現段階『革新』2-8、8月1日

満支見聞録『国民評論』11-8、8月1日

事変二周年記念 国民精神総動員を語る『政界往来』10-8、8月1日[座談会:岡部長景、市川房枝、谷川徹三、中川幹子、赤松常子、吉田茂、新居格、村岡花子]

事変処理と対英外交『中央公論』54-8、8月1日『日本の運命』収録]

*日支事変をどう処理するか『今日の問題』47、8月1日

汪兆銘の前進と日本『文芸春秋』17-16<時局増刊 23>、8月10日[「汪兆銘の前進と日本の方向」と改題『世界再建と東洋の理想』収録]

東京会談の示唆『三田新聞』419、8月10日

排英輿論の行方『改造』21-9、9月1日[「排英運動と対英外交」と改題『日本の運命』収録]

東京会談に学ぶ『中央公論』54-9、9月1日[「日英東京会談を論ず」と改題『日本の運命』収録]

日本革新への諸問題座談会『文芸春秋』17-17、9月1日[座談会:河野密、中野登美雄、安田庄司、花見達二]

近頃禽獣国異聞『文芸春秋』17-17、9月1日『時局の周辺』収録]

独蘇提携の波紋と我が対外方針『東洋経済新報』1884、9月2日[座談会:芦田均、太田宇之助、松本丞治、佐藤安之助、直井武夫、石橋湛山]

政変が投げたパラドックス[「今次政変の意義と前途ー平沼の退場と阿部の登場』』『東洋経済新報』1884、9月2日

『公私の生活において一、最近愉快だったこと 二、最近の不愉快だったこと 三、その他の偶感』『近きより』3-8、9月5日

大川周明著 日本二千六百年史〔読書室〕『日本読書新聞』93、9月5日

欧州戦争と支那事変『都新聞』9月9～12日【1 予測と東亜への影響、2 援蒋政策と諸列強、3 盲目以上の対外認識、4 盲目以上の対外認識】『日本の運命』収録]

国内政治の刷新と事変処理〔独ソ不可侵条約の波紋〕『週刊朝日』36-13、9月10日

革新の新基点『文芸世紀』1-2、9月14日

重臣論『改造』21-10、10月1日『日本の運命』収録]

時局の周辺〔初秋随想〕『月刊ロシヤ』5-10、10月1日

日本民族性に就て『国民評論』11-10、10月1日〔日本民族の思想と運命〕(『日本の運命』)の一部に「1 津田内藤両博士の主張、2 民族性と民族生活、3 採長補短の日本的標準」と題して収録]

*日本外交樹て直し論『今日の問題』49、10月1日『日本の運命』収録]

政変が教へるもの〔政治時評〕『作品』10-10、10月1日

第二次大戦と日本〔第二次大戦と日本の地位〕『セルパン』105、10月1日

大戦勃発と日本の立場『創造』9-10、10月1日

〔阿部新内閣に希望す〕『祖国』11-10、10月1日

善良市民の訴へ〔ハガキ時評〕『大洋』1-5、10月1日

外交自主の意義と方途『大陸』2-10、10月1日『日本の運命』収録]

欧州戦乱と緊急を要する事変処理(国際時評)『知性』2-10、10月1日

国内一元化への出路『中央公論』54-10、10月1日〔国政一元化への課題〕と改題『日本の運命』収録]

政治革新の一着手 国民政治の新原則を確立せよ『東亜解放』1-3、10月1日〔国民政治の再建〕と改題『日本の運命』収録]

欧州戦争と事変処理『日本評論』14-10、10月1日

〔日本の世界政策確立〕座談会『話』7-10、10月1日〔座談会：福山寛邦、秋山邦雄、藤沢親雄、亀井貫一郎、小池四郎]

〔誌友だより〕『近きより』3-9、10月5日

強力政治の課題—それと総理権限強化との関連—『一橋新聞』295、10月10日

攘夷の歴史的必然『文芸春秋』17-20<時局増刊現地報告 25>、10月10日『日本の運命』収録]

戦意なき戦争〔輿論結論〕『公論』2-11、11月1日

革新の心理『国民評論』11-11、11月1日『革新と建設』収録]

文化機関としての新聞〔文化機関としての新聞・ラヂオ・雑誌〕『新潮』36-11、11月1日

革新性なき地方税改革案『都市問題』29-4、11月1日

日本の精神 大川周明著、日本二千六百年史〔新著評論〕『文学界』6-11、11月1日

〔何を汪兆銘に望む乎〕『揚子江』2-11、11月1日

骨がらみの官僚主義〔爆裂缶〕『科学主義工業』3-7、12月1日

〔ハガキ回答 1 将来性ある政治家として貴下は第一に誰を推しますか？及びその理由 2 文化的に何ういふ傾向

を歓迎しますか？ 3 街のトピックとして最近最も痛切に感じさせられたことは何でせうか？」『経国』6-12、12 月 1 日

新しき政治のために『政界往来』10-12、12 月 1 日『日本の運命』収録]

『私の注文 (1)政府への注文 (2)国民への注文』『祖国』11-12、12 月 1 日

阿部内閣と政党『中央公論』54-13、12 月 1 日

国内革新は斯く行ふべし『雄弁』30-12、12 月 1 日

戦争・政治・道徳『社会時評』『日本読書新聞』102、12 月 5 日

政党復活論の検討『早稲田大学新聞』158、12 月 6 日

国内政治の動向『改造』21-14<臨時増刊 2>、12 月 7 日

五党首会談と議会の展望『台湾日日新報』12 月 19、21、22 日

1940(昭和 15)年

阿部首相に寄するの書『改造』22-1、1 月 1 日

日本主義の基調『経国』7-1、1 月 1 日

白鳥・杉山・津久井鼎談『月刊ロシヤ』6-1、1 月 1 日[鼎談：白鳥敏夫、杉山平助]

*日ソ新関係と汪政権『今日の問題』52、1 月 1 日

政党は果して立ち直り得るか『実業之世界』37-1、1 月 1 日

新政党は出来るか『政界往来』11-1、1 月 1 日[座談会：伊藤金次郎、岩淵辰雄、亀井貫一郎、喜多壮一郎、木村正義、小池四郎、牧野良三、木舎幾三郎]

『余はソ連を斯くの如く見る』『祖国』12-1、1 月 1 日

国際新情勢と日本『大陸』3-1、1 月 1 日

政局の転換と軍部の責務『中央公論』55-1、1 月 1 日

『国内の現実を打開せよ』座談会『文芸春秋』18-1、1 月 1 日[座談会：城戸幡太郎、三木清、三輪寿壮、山崎靖純] 『三木清研究資料集成』第 4 卷(クレス出版、2018 年)収録]

大悲観裡の大楽観『2600 年の打診 政治』『三田新聞』426、1 月 1 日

新支那と三民主義『理想』104、1 月 1 日『革新と建設』収録]

新支那と我が国策『大陸新報』1 月 1、4 日

スターリン書記長に与ふ『世界の立役者への公開状』『国民新聞[夕刊]』1 月 9 日『新東亜の展望』(国民新聞社、1940 年 3 月 25 日)収録]

重大となる本年の政治動向『ダイヤモンド』28-2、1 月 11 日

興亜週評『週刊朝日』37-4、1 月 21 日

興亜週評『週刊朝日』37-5、1 月 28 日

政局一新・問答 どうしたら新しい国民政治が建設されるかの方途如何『時局月報』13-1、1 月 30 日

新内閣縦横談『改造』22-2、2 月 1 日[対談：杉山平助]

米内内閣の性格『経済マガジン』4-2、2月1日

政治の再建と日本国体『公論』3-2、2月1日『新体制期の構想』収録]

米内新内閣に望む『公論』3-2、2月1日

政治・政治家・政治評論家『セルパン』109、2月1日

日本の外交はどうなるか『大洋』2-2、2月1日

児玉新内相に提題すー国民協力体制を期せー『中央公論』55-2、2月1日

興亜週評『週刊朝日』37-6、2月4日

お座成り政治の根因『近きより』4-2、2月5日

興亜週評『週刊朝日』37-7、2月11日

政変の意味と今後の政治の見透し『経済倶楽部講演』昭和15年第3輯、2月12日

興亜週評『週刊朝日』37-8、2月18日

興亜週評『週刊朝日』37-9、2月25日

斉藤問題と我国の言論『改造』22-4、3月1日[「我国に於ける言論の特殊性」と改題]『新体制期の構想』収録]

思想と国策『創造』10-3、3月1日『新体制期の構想』収録]

「ハガキ回答 私と小説」『日本読書新聞』111、3月1日

日本新内閣と対支政策『揚子江』3-3、3月1日

斉藤問題に終始ー貧寒・七十五議會ー[「政治評論」]『日本読書新聞』112、3月5日

日本文化の方向『科学ペン』5-4、4月1日『新体制期の構想』収録]

革新派への苦言[「輿論・結論」]『公論』3-4、4月1日

国民の政治力と新政治機構の研究『公論』3-4、4月1日[座談会:岩崎英恭、道家齊一郎、赤松克麿、木原通雄、溝口勇夫]

社大党の終焉に寄せて『国民評論』12-4、4月1日

政治の謎語化[「政治時評」]『作品』11-4、4月1日

「本誌第四周年記念、諸友有志諸氏の御回答文 一『近きより』を評す 二 正木呉に苦言を呈す 三 貴下の御近況」『近きより』4-4、4月5日

思想的布陣を堅確堅確にせよ[「新中央政府に要望す」]『文芸春秋』18-7<時局増刊現地報告31>、4月10日

嘘と形式(社会談義)『改造』22-9<時局版6>、4月30日

*時局随感『経済建設』12-4、4月<長崎大学附属図書館経済学部分館所蔵>

日本政治の停廃性『改造』22-8、5月1日

政治運動の新理念『経済マガジン』4-5、5月1日

国民生活再建の基調『国民学校』1-2、5月1日『新体制期の構想』収録]

壺中小言『国民評論』12-5、5月1日

「汪政権に対する期待と注文」『祖国』12-5、5月1日

新しき政治の鼓動『中央公論』55-5、5月1日

座談会「この頃の問題」を語る『婦人之友』34-5、5月1日[4月10日座談会(於南沢・自由学園):大口喜六、大蔵公望、桑木或雄、小西重信、清沢冽、杉森孝次郎、長谷川如是閑、湯沢三千男、羽仁吉一、羽仁もと子]

政党と其の革新に就ての断想『早稲田大学新聞』176、5月22日

座談会 日本政治の帰趣『東洋経済新報』1912、5月25日[座談会:岩淵辰雄、馬場恒吾、内山徳治]

勝者敗者—社会談義—『改造』22-11、6月1日

板垣声明の画期的意義『公論』3-6、6月1日

日本民族の文化能力『経国』7-6、6月1日

壺中小言『国民評論』12-6、6月1日

政治指導力の統一へ『経済情報 政経篇』15-6、6月10日

新聞現地報告(国内)『現地報告』33、6月10日

政治評論家の憂鬱『改造』22-12、7月1日[「政治の実際と政治評論」と改題]『新体制期の構想』収録]

ひとり想ふ「涼風隨筆」『月刊ロシヤ』6-7、7月1日

壺中小言『国民評論』12-7、7月1日

「強力新党樹立運動に就て」『祖国』12-7、7月1日

民衆への愛憎「太平門」『東亜解放』2-7、7月1日

新党と知識階級「新党と知識階級」『日本評論』15-7、7月1日

蒋介石と汪兆銘「理想」110、7月1日[『革新と建設』収録]

病気の論理—社会談義—『改造』22-13<時局版 8>、7月2日

「節米と健康に聴く(1)節米についてどうお考へですか、如何に御実行ですか。(2)健康と食物についてどうお考へですか。」『食養』391、7月5日

新党の基本問題『現地報告』34、7月10日

新聞編輯上の直接法・間接法[「現地報告 国内の新聞」]『現地報告』34、7月10日

政党は今後どうなるか「新党が出来たら」『実業之日本』43-14、7月15日

近衛文麿公の出馬『大陸新報』7月20日

新政治体制樹立と近衛公の組閣態度『台湾日日新報』7月21日

新政治体制は何処へ行く[「第二次近衛内閣の成立と政治・外交・経済の前途」]『東洋経済新報』1931、7月27日

新党と新体制[「近衛新党に寄せる国民の声」]『経済マガジン』4-9、8月1日

『近衛内閣は何をやるか』座談会『実業之日本』43-15、8月1日[7月20日座談会:船田中、赤松克麿、河野密、小池四郎、松田竹千代]

鳥の雌雄『政界往来』11-8、8月1日

新体制を阻むもの[「新政治体制の出路」]『中央公論』55-8、8月1日

基本国策の志向と限界『経済情報 政経篇』15-9、8月10日[『新体制期の構想』収録]

新体制の中心としての近衛公『現地報告』35、8月10日[「新体制と近衛公」と改題『新体制期の構想』収録]

新体制と新聞『現地報告 国内の新聞』『現地報告』35、8月10日

スポーツ随想『野球界』30-16、8月15日

新体制座談会 覆面「狙撃兵」から「推進隊」へ『都新聞』8月22～28、30日[8月21日座談会(於帝国ホテル):岩淵辰雄、原祐三、新居格、本荘可宗、上司小剣、平貞藏、尾崎秀実、矢部周、河野密、小穴毅、清瀬一郎]

勝海舟伝『新若人』1-1、9月1日

新体制に就て『生活随想』『婦人之友』34-9、9月1日

近衛内閣の使命と日本の将来[「革新日本の発足』』雄弁』31-9、9月1日[「近衛内閣の使命と性格」と改題『新体制期の構想』収録]

『国民生活再建の最も改善を要する点に就いて』『改造』22-17<時局版 10>、9月2日

無言の凝視者[「推進隊』』都新聞[夕刊]』9月4日

朝日新聞の新体制[「現地報告 国内の新聞』』現地報告』36、9月10日

貴誌の使命[「諸家の祝辞』』日独旬刊』5-18、9月10日

文化の自主性[「文芸』』都新聞』9月12～15日【1 国防の第一義は何処、2 狭隘な抑圧主義を難ず、3 我国文化政策の危険性、特殊使命の正しき評価】

犠牲奉公の政治[「推進隊』』都新聞[夕刊]』9月18日

軍官民一体論[「改造』』22-18、10月1日[『新体制期の構想』収録]

孫文の三民主義[「アジアの先覚者と指導理論』』新潮』37-10、10月1日[「三民主義批判」と改題『新体制期の構想』収録]

学生と政治意識[「新若人』』1-2、10月1日[『新体制期の構想』収録]

新体制の前途[「日本評論』』15-10、10月1日

八紘一字への道[「仏印進駐と東亜の新事態 日本外交の転換と国内政治』』改造』22-19<時局版 11>、10月2日

還帰と前進[「第一線』』読売新聞[夕刊]』10月5日[『文化と政治』収録]

新体制の推移を観る[「現地報告』』37、10月10日

新聞使命の一飛躍[「現地報告 国内の新聞』』現地報告』37、10月10日

言論の權威[「第一線』』読売新聞[夕刊]』10月12日

新体制と国民心理[「サンデー毎日』』19-49、10月13日

生命の法則[「第一線』』読売新聞[夕刊]』10月19日[『文化と政治』収録]

新体制の理想と現実[9月19日講演(於丸の内中央亭)]『講演』485、10月20日

新体制と政治力[「投資経済』』15-12、10月21日

戦争・生活・文化[「第一線』』読売新聞[夕刊]』10月26日

三国条約とソ連邦[「月刊ロシヤ』』6-11、11月1日

『日独伊同盟とその後に来るもの』』祖国』12-11、11月1日

国民性の改造検討会『中央公論』55-11、11月1日[座談会:三木清、橘樸、永田清、小松清、菅井準]『三木清研究資料集成』第4巻(クレス出版, 2018年)収録]

革新の心についてー赤松克麿君へー[職域の革新と内省]『文芸春秋』18-14、11月1日

望ましい文芸政策[望ましき文芸政策]『文芸』8-11、11月1日

評論家の新しき任務『日本評論』15-11、11月1日

在野精神[第一線]『読売新聞[夕刊]』11月2日『文化と政治』収録]

政治の真実[第一線]『読売新聞[夕刊]』11月9日『文化と政治』収録]

大政翼賛会に直言する座談会『現地報告』38、11月10日[座談会:尾崎陞、堅山利忠、川崎堅雄、穂積七郎]

「満州国の当面する重要問題」座談会『現地報告』38、11月10日[座談会:稲葉秀三、小泉吉雄、塩見友之助、平貞蔵]

政治と文学 所詮両者は相容れぬ存在[蛍光燈]『帝国大学新聞』831、11月11日

偉大なる批判[第一線]『読売新聞[夕刊]』11月16日『文化と政治』収録]

華族の問題[第一線]『読売新聞[夕刊]』11月23日

日支問題の解決[第一線]『読売新聞[夕刊]』11月30日『文化と政治』収録]

米大統領戦への反省『経済マガジン』4-13、12月1日

今年の政界を顧る『実業之日本』43-23、12月1日

文化問題を語る『日本評論』15-12、12月1日[座談会:三木清、岸田国土]『三木清研究資料集成』第4巻(クレス出版, 2018年)収録]

日本評論家協会について[「日本文学研究会について」]『文芸』8-12、12月1日

若き指導者に与ふ『文芸春秋』18-15、12月1日

新体制と近衛公ー「新体制期の構想」の一節ー『新体制期の構想』から転載『モーター』456、12月1日

補強の補強[第一線]『読売新聞[夕刊]』12月7日『文化と政治』収録]

末梢への興味[第一線]『読売新聞[夕刊]』12月14日

国内政治の再建『東洋経済新報』1952、12月21日[12月11日座談会(於常盤):赤松克麿、前田房之助、作田高太郎、石橋湛山、内田繁隆、蠟山政道][「新体制」に関する発言を「新体制私見」と題して『同胞』79、1941年2月15日に抄録]

協力会議[第一線]『読売新聞[夕刊]』12月21日

議会を見直す[第一線]『読売新聞[夕刊]』12月28日『文化と政治』収録]

*東洋思想と日本『新興亜』2-12、12月

1941(昭和16)年

新体制下の政府と議会『公論』4-1、1月1日『革新と建設』収録]

「学徒は如何なるものを読む可きか」『新若人』1-5、1月1日

国民全体の参画へ[婦人生活 これからどうなる 政治]『婦人朝日』18-1、1月1日

「近頃快心の事」『婦人之友』35-1、1月1日

「年頭女性に望む」『普選』15-1、1月1日

「日本の政治革新の検討」座談会『文芸春秋』19-1、1月1日[座談会:奥村紀喜和男、加田哲二、河野密、平貞蔵]

新体制と旧体制 考往彰來の精神を顕現せよ『合同新聞』1月2日

「一 現時局における日本人の欠点 二 日本文化の欠陥 三 最近感心されたこと」『近きより』5-1、1月5日

新文化の創造『大陸新報』1月7日

第七十六議會に望む[巻頭言]『經濟情報 政経篇』16-2、1月10日

近衛施政の変貌[建設論壇 政治]『經濟情報 政経篇』16-2、1月10日

哲学者の死[第一線]『読売新聞[夕刊]』1月11日

政治性と政治力[第一線]『読売新聞[夕刊]』1月18日

馬場恒吾著“時代と人物”『読売新聞』1月22日

七十六議會[教養時評 政治]『婦人朝日』18-2、2月1日

その後に来る者[第一線]『読売新聞[夕刊]』2月1日

春を待つ地方[地方踏査報告—古河・松本・上田・前橋—]『改造』23-4<時局版 15>、2月2日

原理の晦冥[第一線]『読売新聞[夕刊]』2月8日

政治的責任の意味[建設論壇 政治]『經濟情報 政経篇』16-3、2月10日

責任ある政治を求む!『現地報告』41、2月15日

翼賛青壮年団[第一線]『読売新聞[夕刊]』2月22日『文化と政治』収録]

翼賛会文化部へ 敢死の秋か? [注文帖]『読売新聞[夕刊]』2月28日

新日本の指導原理『インダストリー』5-3、3月1日

責任の意味『経国』8-3、3月1日『文化と政治』収録]

翼賛議會開かる/今議會の特徴[教養時評 政治]『婦人朝日』18-3、3月1日

グラディエの場合[第一線]『読売新聞[夕刊]』3月1日

「壮年団全国連合に望む」『壮年団』7-3、3月5日

為政者の二つの癖[第一線]『読売新聞[夕刊]』3月8日『文化と政治』収録]

危機とその克服[第一線]『読売新聞[夕刊]』3月15日『文化と政治』収録]

新体制と国民心理『経国』8-4、4月1日

出版文化を語る『日本評論』16-4、4月1日[座談会:鈴木庫三、加田哲二、菅井準一、春山行夫]

翼賛会論難の議會/総動員法改正と保安法[教養時評 政治]『婦人朝日』18-4、4月1日

反動化を戒む[第一線]『読売新聞[夕刊]』4月5日

新しき理念へー日本政治の理念に関連して—『一橋新聞』325、4月10日

空転する政治論義[建設論壇 政治]『經濟情報 政経篇』16-5、4月10日

国民の信頼[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』4月19日

靖国の精神[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』4月26日

*国民の新たなる決意『時局月報』14-4、4月

信念ある政治『改造』23-9、5月1日[『革新と建設』収録]

時代の課題『新指導者』4-3、5月1日[座談会:大島豊、宇田尚、仁宮武夫、川尻連夫、桑原暁一、高木尚一、小田村寅二郎]

日本国家主義運動史論『中央公論』56-5、6、8、5月1日、6月1日、8月1日[『日本国家主義運動史論』(中央公論社、1942年)収録]

中野正剛論『日本評論』16-5、5月1日

政治概念の変化[「教養時評 政治」]『婦人朝日』18-5、5月1日

在野精神論『改造』23-10<時局版 18>、5月2日

思想と国策[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』5月3日

条約の効用[「建設論壇 政治」]『経済情報 政経篇』16-6、5月10日

知るは難し[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』5月10日

教育の本旨[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』5月17日

朝鮮の問題[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』5月24日

北と南[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』5月31日

政治理想の限界[「理想と現実」]『新文化』125、6月1日

民族心と世界心『興亜時代』3-6、6月1日

[「日ソ中立條約に就て」]『祖国』13-6、6月1日

内閣・翼賛会の改造/日ソ条約[「教養時評 政治」]『婦人朝日』18-6、6月1日

内政と外交[「建設論壇 政治」]『経済情報 政経篇』16-7、6月10日

指導性の問題[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』6月14日

独ソ関係と外交[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』6月21日

新情勢への構想[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』6月28日

津久井龍雄氏と語る一日本主義運動の問題と半島について[5月19日(於朝鮮ホテル)]『緑旗』6-7、7月1日[聞き手:津田剛、星野相河]

支那事変身辺録『改造』23-14<時局版 20>、7月2日[『私の昭和史』130-136頁収録]

赤化戦術の変遷[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』7月5日

莫妄想[「建設論壇 政治」]『経済情報 政経篇』16-8、7月10日

満鮮の表情『現地報告』46、7月10日

指導者の優劣[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』7月19日

同志的結合[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』7月26日

世相に寄せて『改造』23-15、8月1日

「事変四周年を迎へて」『祖国』13-8、8月1日

日本の決意『日本評論』16-8、8月1日

「独ソ開戦の報を、何時、何所で、どんな風に聞きましたか？そして、どんな感想をもちましたか？（ハガキ回答）」
『文芸』9-8、8月1日

革新理念の再検討『文芸春秋』19-8、8月1日

挙国一致の新段階『改造』23-16<時局版21>、8月2日

生活正義の日[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』8月2日

「一 貴下が「近きより」又は正木呉を知った因縁話 二「近きより」又は正木呉を祖上にのせる 三 貴下の御心境
又は御近況」『近きより』5-8、8月5日

議会人に寄す[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』8月9日

易水寒し[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』8月16日

危機の感覚[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』8月23日

科学の精神[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』8月30日

軍人閣僚論『現代』22-9、9月1日

日本評論時局研究会『日本評論』16-9、9月1日[座談会：大串兎代夫、永田清、穂積七郎、山崎靖純、室伏高信]

朝鮮の印象『文芸』9-9、9月1日

警官と教員[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』9月6日

「読んでほしい 勤労青年へ」『日本読書新聞』165、9月8日

米国反省の秋[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』9月13日

新しき観光精神『観光』1-6、9月20日

物を離れよ[「第一線」]『読売新聞[夕刊]』9月27日

日本的国民政治への要望『公論』4-10、10月1日

「翼賛議員同盟について」『祖国』13-10、10月1日

中途半端を排す『祖国』13-10、10月1日

精神主義の様相『中央公論』56-10、10月1日

*政治力と経済力『投資経済』17-10、10月1日

第二回日本評論時局研究会『日本評論』16-10、10月1日[座談会：大串兎代夫、永田清、穂積七郎、山崎靖純、室伏高信]

塾と其の役割『日本評論』16-10、10月1日

世界に光を与へよー叡智と愛情の民族たれー『放送』1-1、10月1日

「諸名士に訊く・ハガキ訪問 戦時下の朝鮮に何を期待するか」『緑旗』6-10、10月1日

日本外交に直言す[「日本外交に徹す」]『改造』23-20<時局版>、10月2日

理想の完遂〔第一線〕『読売新聞[夕刊]』10月4日
 翼賛の本旨〔第一線〕『読売新聞[夕刊]』10月11日
 理論尊重すべし〔第一線〕『読売新聞[夕刊]』10月25日
 世界動乱と其の前途『海』11-11、11月1日
 事変の意味〔東條内閣と国民の決意〕『改造』23-22<時局版24>、11月1日
 政治革新と議会の役割『現代』22-11、11月1日
 国際危機と国民性の再建『大陸』4-11、11月1日
 東條内閣『投資経済』17-13、11月1日
 壮年団運動『日本評論』16-11、11月1日〔第3回日本評論時局研究会:狭間茂、留岡清男、小野武夫、加田哲二、穂積七郎、大串兎代夫、室伏高信〕
 系図つくり〔随筆〕『モダン日本』12-11、11月1日
 国民と共に〔第一線〕『読売新聞[夕刊]』11月1日
 毀誉の彼方へ〔第一線〕『読売新聞[夕刊]』11月8日
 強力と責任『改造』23-23、12月1日
 半官僚論『知性』4-12、12月1日
 強力政治を阻むもの〔強力政治と国民〕『中央公論』56-12、12月1日
 文化の運命『日本評論』16-12、12月1日〔第4回日本評論時局研究会:松本潤一郎、岸田国土、三木清、大串兎代夫、穂積七郎、室伏高信〕〔『三木清研究資料集成』第4巻(クレス出版, 2018年)収録〕
 東亜をして東亜人の手に委せしめよ〔アメリカへの公開状〕『東亜解放』3-12、12月10日

1942(昭和17)年

挙国戦争論『日本評論』17-1、1月1日
 危機への認識その他〔国内時評〕『婦人朝日』19-1、1月1日
 文化戦争『文芸』10-1、1月1日〔座談会:大串兎代夫、加田哲二、中島健蔵〕
 一億総進軍の態勢『放送』2-1、1月1日
 事変完遂と大東亜戦争『外地評論』5-1、1月7日
 〔決戦下放送番組への一提案〕『放送研究』2-1、1月15日
 大東亜維新と知識人の方向一偉大なる創造の苦悶克服に挺身せよ―〔1941年12月28日、日本評論家協会主催講演会(於日比谷公会堂)、校閲済〕『講演時報』645、1月25日
 革新的人材の出現を〔週間政治の解説〕『日本読書新聞』184、1月26日
 〔戦勝の新春に感あり〕『祖国』14-2、2月1日
 新しき生命観の下に〔国内時評〕『婦人朝日』19-2、2月1日
 評論家の新発足『文芸情報』8-3、2月5日

国民的新政治力の要望『改造』24-3、3月1日
総選挙を前にして『日本評論』17-3、3月1日
前線に呼応する国内態勢[『国内時評』『婦人朝日』19-3、3月1日
翼賛選挙対談会『合同新聞[夕刊]』3月17～19日[翼賛会事務総長横山助成との対談]
[『来る総選挙の諸問題』『祖国』14-4、4月1日
*大東亜同志会の発足『投資経済』18-10、4月1日
大東亜戦争と戦争の若さを語る『モダン日本』13-4、4月1日[鼎談:清瀬一郎、穂積七郎]
[『翼賛選挙への要望』『東洋経済新報』2016、4月11日
[『翼賛議会に望む』『生活』8-5、5月1日
日本精神運動の新段階『緑旗』7-5、5月1日[対談:津田栄]
新政治への要望『都新聞』5月25～28日【1 歴史の潮流、2 国家と個人、3 形式と実質、4 高度の政治性】[『伝統と創造』収録]
盛り上げる活力に築く[『翼賛新議会に寄す』『実業之日本』45-11、6月1日
革新体制と立憲政治『新指導者』5-6、6月1日[座談会:井田磐楠、室伏高信、大島豊、小田村寅二郎]
[『総選挙雑感』『祖国』14-6、6月1日
苦杯の弁[『我等かく戦へり』『中央公論』57-6、6月1日
革新をめぐる諸問題[『革新と建設』から転載]『モーター』474、6月1日
日本的な政治革新『時局雑誌』1-6、6月7日
一貫する挙国性 日本精神は常に偏向を嫌ふ[『明治の指導精神 政治』『日本読書新聞』203、6月8日
委員制への期待[『文化評論』『帝国大学新聞』906、6月22日
支那事変五周年を迎えて『令女界』21-7、7月1日
大東亜再建の志向『経済情報』17-14、8月1日
思想の変革と政治の実際[『新しき政治の誕生』『新文化』140、9月1日
官民融和の前進『中央公論』57-9、9月1日
伝統と創造『放送』2-9、9月1日[『伝統と創造』収録]
生活の昂揚 翼賛会調査会への期待『読売新聞』9月3日
軍事援護の精神『改造』24-10、10月1日
思想戦大学講座討論会『言論報国』1-1、2、10月1日、11月1日[座談会:小島茂雄、齊藤忠、佐藤通次、齊藤响、野村重臣]
大東亜省創設の含蓄『中央公論』57-10、10月1日
厳しい反省を[『雑誌月評』『日本読書新聞』221、10月12日
我等何を読むべきか 政治『読売新聞』10月14日
[『寸感』『日本読書新聞』222、10月19日

「敵・米英謀略撃擢と日本思想戦 イタリヤ問題を中心として」『言論報国』1-2、11月1日
 思想界の米英排撃「東亜的世界観の建立」『創造』12-11、11月1日
 「ここに無駄あり」『祖国』14-11、11月1日
 思想戦の根柢「無門関」『西日本新聞[夕刊]』11月17日
 深き自覚と反省―国内思想戦の現状について―「思想戦の重点」『日本読書新聞』225、11月9日
 思想戦の根柢「時観」『合同新聞[夕刊]』11月17日
 大東亜戦争一周年・文化の必勝体制座談会『読売新聞』11月27日[座談会:本多静雄、川面隆三、中村武羅夫、相川勝六、関正雄]
 愛国百人一首「時観」『合同新聞[夕刊]』11月28日
 長期戦政治と思想戦「長期戦と総合戦力」『実業之日本』45-23、12月1日
 思想戦の再検討「十二月八日の反省」『新女苑』6-12、12月1日
 大東亜戦争と明治の精神『放送』2-12、12月1日
 試練と生長「時観」『合同新聞[夕刊]』12月17日
 決戦政治の確立『朝日新聞』12月17~20、22日[12月16日座談会(於朝日新聞社):田畑長茂、前田米蔵、山崎達之輔、矢部貞治、中島弥団次、橋本清之助、相川勝六、田中長義、三輪寿壮、津雲国利、小平権一、中野正剛]
 試練と生長「無門関」『西日本新聞[夕刊]』12月18日
 国民生活を語る『合同新聞[夕刊]』12月24、25、27、29日[12月12日合同新聞社主催座談会:羽仁説子、千石興太郎]

1943(昭和18)年

百年戦争への決意―日本精神の顕現と発展『公民講座』218、1月1日
 一億一心・人の和『婦人之友』37-1、1月1日[11月21日座談会(於南沢):穂積重遠、三輪寿壮、羽仁吉一、富塚清、三宅雪嶺、羽仁もと子]
 言論報国の道『文芸』11-1、1月1日
 日本精神の顕揚―百年戦争を戦ひ抜く心構へ―『朝鮮公論』改巻2-1[通号358]、1月10日
 百年戦争への決意『鉄道』4-1、1月10日
 言論報国会の使命『朝日新聞』1月13、15日【(上)思想的錬成へ、(下)必然性と必要性】
 『思想戦の本質』座談会 大日本言論報国会の発足に当りて『新若人』4-2、2月1日[座談会:野村重臣、鹿子木員信、斉藤忠、井沢弘]
 米英思想崩るる日『放送』3-2、2月1日
 大東亜戦争と思想戦『緑旗』8-2、2月1日
 型「時観」『合同新聞[夕刊]』2月4日
 政治力強化の本義―翼賛・翼政一体化論に関連して―『改造』25-3、3月1日

皇国思想戦の根柢 大日本言論報国会発会式に際し『読売新聞』3月5日

大言論出でよ〔無門関〕『西日本新聞[夕刊]』3月14日

〔一、貴下は、どういふ風に忠君愛国を实践されつづけますか 二、「近きより」の存在理由 三、貴下の最近の悦び〕『近きより』7-4、4月5日

飽足らぬ公式主義―「時局の反映」か「時局の指導」か―〔雑誌時評〕『日本読書新聞』250、5月22日

学徒の思想戦『新若人』4-6、6月1日

現下の言論界に寄す〔文化評論〕『帝国大学新聞』948、6月7日

壁文芸の作品を観て『宣伝』〔6月号〕、6月15日

感動を行動にまで〔今日の問題〕『大和』3-7、7月1日

政治的感覚の欠如 東亜関係時局雑誌に寄す『日本読書新聞』257、7月10日

戦力増強と翼賛政治『講演時報』8月25日

国体と言論体制『中央公論』58-9、10月1日〔座談会：御手洗辰雄、穂積七郎、大熊信行、竹下直之、小野清一郎、井上司朗〕

*皇国必勝の大道『放送』3-10、10月1日<共立女子大学八王子図書館所蔵>

真の言論の為に〔無門関〕『西日本新聞[夕刊]』10月2日

速かに統合せよ〔随筆〕『日本読書新聞』270、10月9日

学生を送つて『月刊読売』1-6、10月18日

思想を与へよ〔無門関〕『西日本新聞[夕刊]』10月22日

隣組論『日本評論』18-11、11月1日

アジア救興 大東亜会議の意義『読売新聞』11月6日

総親和とその批判〔無門関〕『西日本新聞[夕刊]』11月11日

挙国的政治力実現の方途『鉄鋼統制』3-11、11月12日

*国民組織を統合強化せよ『時局日本』11月

*大東亜会議特輯論議『時局日本』12月5日

詔書への帰一〔無門関〕『西日本新聞[夕刊]』12月14日

1944(昭和19)年

新段階への突進『朝鮮公論』改巻3-1、1月1日

決戦議会に望む『時局雑誌』3-1、1月7日

〔輿論動員の対象と新聞〕『日本新聞報』87、1月29日

尊攘維新と西郷隆盛『言論報国』2-2、2月1日

一元化の前提〔論壇日本評論〕『日本評論』19-3、3月1日

翼賛政治論『満州公論』3-3、3月1日

[[『経済新誌』への要望]]『経済新誌』1-1、5月1日

新聞のよみ方『新女苑』8-5、5月1日

我が思想戦『台湾公論』9-5、5月1日

大本營論『改造』26-5、5月7日

支那を生かす道『揚子江』7-5、5月7日

輿論指導に就て[[内観外観]]『言論報国』2-6、6月1日

民族主義の諸相『修理固成』創刊号、7月10日

新内閣に切望す『東洋経済新報』2133、7月27日[座談会:小汀利得、杉森孝次郎、中島弥団次、河野密、清瀬一郎、蠟山政道、石橋湛山]

政局を貫く課題『台湾公論』9-9、9月1日

言論暢達とは何ぞや『同盟通信 時事解説』3200、10月5日[座談会:新明正道、山崎靖純、住田正一、堅山利忠、板垣武男]

ガンディーの動向[[時論要解 政治]]『同盟通信 時事解説』3201、10月6日

右翼言論の近調[[時論要解 政治]]『同盟通信 時事解説』3206、3208、10月11、13日

低迷する国民運動論[[時論要解 政治]]『同盟通信 時事解説』3209、10月14日

戦局と政治的顧察[[時論要解 政治]]『同盟通信 時事解説』3216、10月21日

完勝の為の革新[[時論要解 政治]]『同盟通信 時事解説』3219、10月24日

中野正剛への追憶[[時論要解 政治]]『同盟通信 時事解説』3227、11月1日

非常時局と権力[[時論要解 政治]]『同盟通信 時事解説』3228、11月2日

言論人の議会暢達[[時論要解 政治]]『同盟通信 時事解説』3234、11月8日

昭和維新談義[[時論要解 政治]]『同盟通信 時事解説』3237、11月11日

座談会 神州憤激して起つ[[時論要解 政治]]『同盟通信 時事解説』3243、11月17日

*米英の宣伝謀略とわが言論の暢達『月刊毎日』1-1、10月20日

人間の自覚と国民国家の形成[[時論要解 政治]]『同盟通信 時事解説』3251、11月25日

統治学研究[[時論要解 政治]]『同盟通信 時事解説』3256、11月30日

決戦政治と外交[[時論要解 政治]]『同盟通信 時事解説』3263、12月7日

現下政論の混迷とその因由[[時論要解 政治]]『同盟通信 時事解説』3277、12月21日

外地政論の片鱗[[時論要解 政治]]『同盟通信 時事解説』3283、12月27日

1945(昭和20)年

十九年度を顧望して[[時論要解 政治]]『同盟通信 時事解説』3296、1月9日

総力戦政治の確立と帝国議会の再評価[[時論要解 政治]]『同盟通信 時事解説』3309、1月22日

強力政治と中核体の結集[[時論要解 政治]]『同盟通信 時事解説』3323、2月5日

断想二三[「時論要解 政治」]『同盟通信 時事解説』3358、3月12日
政治と先見力[「時論要解 政治」]『同盟通信 時事解説』3374、3月28日
政治体制と政治倫理[「時論要解 政治」]『同盟通信 時事解説』3374、3月28日
同志性と挙国性[「時論要解 政治」]『同盟通信 時事解説』3389、4月12日
強力政治の問題ー今次の政変に関連してー[「時論要解 政治」]『同盟通信 時事解説』3411、5月4日
浪人の国家寄与ー何故に福岡浪人は発祥したかー[「時論要解 政治」]『同盟通信 時事解説』3416、5月9日
法規と官僚 米英撃滅の日まで六法全書を蔵ひ込め[「時論要解 政治」]『同盟通信 時事解説』3431、5月24日
義勇隊を繞つてー現内閣最初の大事業[「時論要解 政治」]『同盟通信 時事解説』3437、5月30日
国民の真摯な言を聴け[即時とるべき方策 政府に望む草莽の声]『同盟通信 時事解説』3446、6月8日
国体護持の方途[「時論要解 政治」]『同盟通信 時事解説』3549、9月19日
石原と久原[「時論要解 政治」]『同盟通信 時事解説』3559、9月29日
指摘さる心理的欠陥[「日本の敗因に学ぶ」]『同盟通信 時事解説』3568、10月8日
日本的民主々義[「時論要解 政治」]『同盟通信 時事解説』3582、10月22日
臨時議会に提言す 幣原首相の民意論を究明せよ[「同盟通信 時事解説』3589、10月29日
これでよいのか！敗戦日本の戦後処理[「時事通信 時事解説』6～8、11月8～10日] [座談会：山崎靖純、住田正一、大熊信行、新明正道、板垣武男]

1946(昭和 21)年

回答『デモクラシー』1-5、5月1日
つむじまがり『新樹』1-2、6月1日

1947(昭和 22)年

句のある時評『ゆく春』20-5、5月1日
遠蛙[俳句3句]『近代俳句』1-2、7月1日
糊付き切手[「そろそろ出来てほしいもの」]『月明』10-4、7月15日
目をとちて[俳句2句]『近代俳句』1-3、12月15日

1948(昭和 23)年

春の月[俳句3句]『近代俳句』1-4、6月20日

1949(昭和 24)年

[「前号に対する諸家の批判及感想」]『近きより』11-2、10月10日

1950(昭和 25)年

処世の大道『青年文化大学』8、7月1日

1951(昭和 26)年

我が愛国の信条“いかに再発足すべきか”『日本及日本人』2-9、9月1日【『右翼』収録】

右翼の抬頭とその動向『日本週報』185、9月1日【「なぜ右翼の登場が要請されるか」と改題【『右翼』収録】

吉田首相論『政界往来』17-1、10月1日

経済道義昂揚の急務—資本主義を減ぼす者は誰だ—『実業展望』23-11、11月1日

片隅の随想『東京だより』29、12月1日

浪人荘雑記『日本及日本人』2-12、12月1日

1952(昭和 27)年

新春断想『日本及日本人』3-1、1月1日

任務は重し 新編日本軍『日本週報』195、1月1日【座談会：室伏高信、高田市太郎、曾野明、湯川洋蔵】

日本に右翼は抬頭しているか—政党の醜状と共産革命の進展—『経済世論』5-1、1月1日【「日本右翼の特質と使命」と改題【『右翼』収録】

【徳川夢声連載対談 問答無用(第四十三回)】『週刊朝日』57-4、1月27日【対談：徳川夢声】【問答有用Ⅱ 夢声対談集】(朝日新聞社、1953年1月10日)収録】

植民地人種への訣別—世はずべて植民地風景—『人物往来』1-2、2月1日【副題を削除し、第5節「戦後政治家は敗戦助長者」、第6節「国民を骨抜きにした責任」を追加して【『祖国に生きる』収録】

右翼運動は何を目指すか—その現状と批判—『政界往来』18-2、2月1日【冒頭の1段落を削除して「右翼運動の現状と其の問題点」と改題【『右翼』収録】

愛国心と愛国運動『日本及日本人』3-2、2月1日【『右翼』収録】

有閑帖『日本及日本人』3-3、3月1日

平和について『経済時代』17-4、4月1日

大雑誌を笑う『日本及日本人』3-6、4月1日

亡国政治家の責任『人物往来』1-4、4月1日

再発足にあたって—むかしの同志へ—『祖国』4-4、4月1日

独立について『経済時代』17-5、5月1日

全体主義への回想『日本及日本人』3-7、5月1日

左翼の攻勢と右翼『経済往来』4-6、6月1日

片隅の日本人—右翼人が横目で眺めた七年間の感想—『文芸春秋』30-9、6月5日

日本の自由主義者『日本及日本人』3-9、7月1日

愛国者は右翼か左翼か『日本週報』212、7月1日【対談：中西伊之助、(司会)湯川洋蔵】

どこまで戦うか「右翼」の面々『日本週報』221、9月15日
独立の意義と根柢『経済時代』17-10、11月1日
戯画化された再軍備 銃口は3連にのみ向けられない『政界往来』18-11、11月1日
回想の夢郷・前進の基地―菊の香や明治と言へる御代のこと―『祖国』4-10、11月1日
日本歴史と日本精神―あまりにも無智な蜷川博士の主張を衝く―『経済時代』17-11、12月1日

1953(昭和 28)年

飛躍段階の再軍備『日本及日本人』4-1、1月1日
祖国への回帰―日本国風の基調となる精神について―『経済時代』18-1、1月1日
〔読者通信〕『世界週報』34-7、3月1日
日本の民族主義『日本及日本人』4-3、3月1日
*愛国奉仕政団結成の試案『国論』1-1、3月3日
政治観念を確立せよ『経済時代』18-4、4月1日
政治の腐敗と日本革命『日本週報』242、4月5日〔座談会：大川周明、井上日召、湯川洋蔵〕
政争のための政争『経済時代』18-5、5月1日
綜合世界観―すべての一面観より脱却せよ―『経済時代』18-6、7月1日
世界的アジア主義『国論』1-5、7月1日
内外時評『国論』1-5、7月1日
建国の日とその精神―紀元節を復活せよ―『経済時代』18-7、8月1日
内外時評『国論』1-7、9月1日
反米と愛国陣営『国論』1-7、9月1日〔対談：赤尾敏〕
反米機運への省察『経済時代』18-8、10月1日
内外時評『国論』1-8、10月1日
延びる西独と心細い日本『国論』1-8、10月1日〔対談：郷司浩平〕
〔後記〕中の無題の短文『国論』1-9、11月1日〔津〕

1954(昭和 29)年

*紀元節を復活せよ〔提唱〕『経済時代』19-2、2月1日
イズムの問題〔隨筆〕『政界往来』20-2、2月1日
大西郷(第二回)『国論』2-2、3月1日
高島素之先生を憶う〔追懷談(於 1953年 12月 25日高島素之追悼会)〕『国論』2-2、3月1日
右翼は何を考えているか『出版ニュース』266、4月1日

国民革命と日本志士『祖国』6-4<宮崎兄弟特輯号>、5月1日
暗黒政治と右翼の役割『日本週報』292、7月5日
高橋泥舟のこと『政界往来』20-8、8月1日
明らかに大川氏がモデル 作者有馬氏に問う[「モデル問題—往復文書—“終身未決囚”をめぐる』『出版ニュース』284、10月1日
日本国家主義の帰趨と世界主義『国論』2-9、11月1日
東風だより『国論』2-9、11月1日<<津久井生>>
東風だより『国論』2-10、12月1日<<津久井生>>

1955(昭和30)年

国民性への反省『国論』3-1、1月1日
東風だより『国論』3-1、1月1日<<津久井生>>
節操の倫理と功利『国論』3-2、3月1日
国論メモ『国論』3-2、3月1日<<無署名>>
東風だより『国論』3-2、3月1日<<津久井生>>【創刊二周年を迎えて、政治を超える気持ち、安藤昌益のこと】
東風だより『国論』3-3、4月1日<<津久井生>>【政党政治の終焉、鷲尾義直氏のこと、玉稿ぞくぞく来る】
死んだ筈だよ[「随筆」]『政界往来』21-3、3月10日
赤裸々の愛国心『国論』3-4、5月1日
国論メモ『国論』3-4、5月1日<<無署名>>
東風だより『国論』3-4、5月1日【自分の首をくくる者、叛乱と革命を呼ぶ政治、我が句帖より】
新保守党の形成『国論』3-5、6月1日
東風だより『国論』3-5、6月1日【メーデーに思う、里見岸雄博士の学業、拙句連載の弁】
東風だより『国論』3-6、7月1日【マスコミュへの疑い、主義に動くもの、宗教の世界と政治の世界】
わが句帖より[「俳句」]『国論』3-6、7月1日<<東風生>>
樺太、千島は誰のもの—持たざる者は持てる物をも奪はる—マタイ伝—『政界往来』21-8、8月10日
東風だより『国論』3-7、9月1日【辻政信著“次の世界大戦”を評す】
口語短詩『国論』3-7、9月1日<<東風生>>
新中国視察日記『国論』3-9、12月1日<<津久井生>>
今日の問題としての国家社会主義『国論』3-9、12月1日
東風だより『国論』3-9、12月1日<<無署名>>
新中国で感じたこと『新論』1-6、12月1日
"右翼人"中共を往く 人間は環境の動物である『世界週報』36-35、12月11日

1956(昭和 31)年

赤松克麿君を悼む『国論』4-1、1月1日〈津久井生〉

東風だより『国論』4-1、1月1日〈津久井生〉

『社会時評 ソ連・中国をどうみる』『知性』3-1、1月1日

諸家の新中国観を評す『国論』4-2、2月1日『右翼開眼』収録]

東風だより－東風吹野火、暮入飛雲殿－『国論』4-2、2月1日〈津久井生〉【故赤松克麿君のこと、中国青年の談話から】

昭和維新はどこへ行った－変説は他人ごとではない－『国策』3-2、3月1日

東風だより－東風吹野火、暮入飛雲殿－『国論』4-3、3月1日〈津久井生〉【選挙をめぐる想いで、生活者同盟のこと、歴史の流れと憲法論】

自己を喪った文化人『下野文化』1、3月27日

私たちの祈り－尾崎士郎と語る－『国論』4-4、4月1日

東風だより－東風吹野火、暮入飛雲殿－『国論』4-5、6月1日〈津久井生〉【宇垣さんの思い出】

大西郷おぼえがき『政界往来』22-6、6月10日

苦杯の弁－東風だより－『国論』4-6、8月1日〈津久井生〉

より進歩的に「復刊五周年に際し政界往来に題す」『政界往来』22-9、9月10日

新憲法の範囲内で「私は天皇制を支持する」『特集文芸春秋 天皇白書』9月25日

東風だより－梨花万片逐東風、半落江水半在空－『国論』4-8、10月1日〈津久井生〉【過剰な報道と不明な真相、回想の演歌と啞蟬坊】

日ソ交渉と思想問題－思想に対するには思想をもつて－「日ソ問題特集」『政界往来』22-10、10月10日

東風だより－梨花万片逐東風、半落江水半在空－『国論』4-9、11月1日〈津久井生〉【ほほえましい記憶「細胞生活」、動き出した右翼のねらい】

アジアを結ぶもの－貧乏人同志という意識－『国論』4-10、12月1日

東風だより－梨花万片逐東風、半落江水半在空－『国論』4-10、12月1日〈津久井生〉【一九五六年を振り返って、高島素之先生への追憶、“雪冤業者”正木ひろし君の近著】

1957(昭和 32)年

東風だより『国論』5-1、1月1日〈津久井生〉【自民党総裁の公選、赤松克麿君の一周忌、茂木一次と大逆事件、

東風だより『国論』5-2、3月1日〈津久井生〉【中国の政党長期生存論、田中正造翁のこと、日本の歌舞伎と京劇】

東風だより『国論』5-3、4月1日〈津久井生〉【左右同舟の孫文追悼会、勝負ぎらいの勝負観、総理大臣押すな押すな】

東風だより『国論』5-4、5月1日〈津久井生〉【ノーマン氏と安藤昌益、売春婦のいない中国】

東風だより『国論』5-5、6月1日〈津久井生〉【三十八度線を超える集い、明治天皇と日露戦争、板垣退助の高

等個人主義】

福沢諭吉の矛盾 “瘦我慢の説”と“丁丑公論”『政界往来』23-6、6月10日

東風だより『国論』5-6、7月1日≪津久井生≫【遠藤元中將の場合、昭和史流行への反省】

ナセル大統領の偉さ「東風だより」『国論』5-7、9月1日≪津久井生≫

昭和史におけるインテリの役割『出版ニュース』389、9月1日

私の疑い—宗教と社会運動について—『人生道場』70、9月1日

東風だより『国論』5-9、11月1日≪無署名≫【石川達三氏の前進、珍らしくもない言分】

1958(昭和 33)年

不即不離の日本人「随筆」『政界往来』24-1、1月10日

明治時代の学生運動『国論』6-3、3月1日

私の昭和史に寄せて『国論』6-4、4月1日

拙著出版記念会小記『国論』6-5、6月1日

根強い国家主義『国論』6-6、7月1日

政治に絶望した政治家「随筆」『政界往来』24-7、7月10日

政治の宿命と限界『国論』6-7、8月1日

吉野作造その他『国論』6-8、10月1日

政治評論家の憂鬱『精神分析』16-11、11月1日

新しき建国への覚悟 最後の着想と実践『新勢力』3-12<大川周明追悼号>、11月15日

人物伝を読んで『国論』6-10、7-1、12月1日、**1959年**2月1日≪津久井生≫【(一)明智光秀と日蓮上人、(二)西郷隆盛のこと】

民族国家社会主義者として「保守・革新両派政党の融和は可能か」『精神分析』16-12、12月1日

正しき保守主義とは何か マックロイ氏の所説と私見『愛国戦線』40、12月20日

1959(昭和 34)年

福沢諭吉の性格とその矛盾『精神分析』17-2、2月1日

転向の問題に関連して お互いにあやまちは率直に認めること『国論』7-3、3月1日

国民から遊離した自社両党—金権主義にうつつをぬかす保守陣営、イデオロギーの遊戯場にふける革新陣営
『政界往来』25-4、4月10日

調べることと創ること 国論調査会にふれて『国論』7-4、5月1日

超党派への志向 両極端にも共通の立場はある『国論』7-5、6月1日

宗教と政治の再婚—創価学会の“進出”にふれつつ—『国論』7-6、7月1日

外交政策はこれでいいのか「特別レポート これからの外交はどうなる」『政界往来』25-7、7月10日

国体論及び純正社会主義に就て[7月9日第3回研究会講演(於都議待遇者室)]『国論』7-7、8月1日

芦田さんの追想『国論』7-7、8月1日

対談 北一輝の思想『出版ニュース』458、8月21日[対談:田中惣五郎]

戦争体験と戦争責任－戦争協力の体制と個人の関係－『日本及日本人』10-7、9月1日[対談:大熊信行]

風信帖『国論』7-9、11月1日<津>

平和以外に人類の存在はない－安保改定と日本の進路『政界往来』25-11、11月10日

風信帖『国論』7-10、12月1日<津>

1960(昭和35)年

勳章と博士号『グリーン・エージ』10-1、1月1日

陸海軍騒動史－松下芳男氏の近著－『国論』8-2、3月1日<津久井生>

風信帖『国論』8-2、3月1日<津>

日本改造法案の再検討[3月4日第9回研究会講演(於都議待遇者会会議室)]『国論』8-3、4月1日

風信帖『国論』8-3、4月1日<無署名>

共産圏との外交をどうするか 安保条約を結ぶよりもまず善隣友好を[特集 安保改定の後に来るもの]『政界往来』26、4月10日

治人あって治法なし『国論』8-4、5月1日<無署名>

内外時点【暴力-平和-戦争-革命、アメリカの反省と脱皮、なぜ暴力闘争になるか、泰平のムードの裏には】『国論』8-4、5月1日<無署名>

風信帖『国論』8-4、5月1日<津久井生>

風信帖『国論』8-5、6月1日<津久井生>

民族の理想と平和革命 日本民族主義の現段階『国論』8-6、7月1日

手帖の中の言葉『国論』8-6、7月1日<東風生>

風信帖『国論』8-6、7月1日<津久井生>

風信帖『国論』8-7、8月1日<津久井生>

新旧右翼問答『愛国戦線』57、8月20日

風信帖『国論』8-8、9月1日<津久井生>

尾崎行雄のこと 伊佐秀雄君の近著にふれつつ『国論』8-8、9月1日<津久井生>

高度民族主義の要請 民族エネルギーを平和と民主主義の線に－『国論』8-9、10月1日

風信帖『国論』8-9、10月1日<津久井生>

風信帖『国論』8-10、11月1日<津久井生>

テロリズム断想『新勢力』5-11、11月5日

乃木伝あれこれ 松下芳男兄の近著に寄せて『国論』8-11、12月1日<津久井生>

テロの生因とその反省－徹底した平和と民主主義を－〔特輯・浅沼事件と民主政治の考察〕『日本及日本人』
1411、12月1日

黒い不死鳥の恐怖－日本右翼の深層を探る－『文芸春秋』38-12、12月1日

1961(昭和 36)年

憂しと見し世ぞ そのころの書信をなつかしむ『国論』9-1、1月1日〈津久井生〉

韓さんのこと『国論』9-1、1月1日〈T生〉

風信帖『国論』9-1、1月1日〈津久井生〉

白井為雄氏の批判に答えて『愛国戦線』61、1月20日

風信帖『国論』9-2、2月1日〈津久井生〉

昭和維新の再検討『新勢力』6-2、2月5日[対談:毛呂清輝]『国論』9-3、4月に転載]

右翼人は何を為すべきか せめて北一輝から始めよ『日本読書新聞』1092、2月20日

嶋中事件と本流右翼『日本週報』529、3月15日[対談:河上利治][一部省略して『国論』9-3、4月に転載]

昭和維新の再検討『国論』9-3、4月1日[対談:毛呂清輝]『新勢力』2月号から転載]

嶋中事件と本流右翼『国論』9-3、4月1日[対談:河上利治][一部省略して『日本週報』529、3月15日より転載]

風信帖『国論』9-3、4月1日〈津久井生〉

風信帖『国論』9-4、5月1日〈津久井生〉

腐敗が革命を喚ぶ[巻頭言]『国論』9-5、6月1日〈無署名〉

時点『国論』9-5、6月1日〈無署名〉【愛国心の意味と其の超越、政府と自民党の開眼を促す、民主政治という
名の官僚政治】

メモ『国論』9-5、6月1日〈無署名〉

風信帖『国論』9-5、6月1日〈無署名〉

徹底平和論の展開－起るべき新国民運動－『新勢力』6-6、6月5日

世界はみな我が家[巻頭言]『国論』9-6、7月1日〈無署名〉

時点『国論』9-6、7月1日〈無署名〉【不戦の理想とガンジー主義、犯罪成長率の高度化現象、政治の正常化を
はばむもの】

メモ『国論』9-6、7月1日〈無署名〉

人物戯評『国論』9-6、7月1日〈無署名〉

韓国のクーデターと日本の場合 自衛隊はどう反応するか『国論』9-6、7月1日〈無署名〉

風信帖『国論』9-6、7月1日〈無署名〉

クーデターの功罪[巻頭言]『国論』9-7、8月1日〈無署名〉

時点『国論』9-7、8月1日〈無署名〉【ランバレネの聖者を思う、戦争のムードと平和運動、医療は公営化の徹底
に進め】

人物戯評『国論』9-7、8月1日〈無署名〉

風信帖『国論』9-7、8月1日〈無署名〉

『宰相』抹殺論『日本及日本人』1417、8月1日

昭和民族主義の潮流―主として北一輝の思想を中心として―『中央公論』76-9、9月1日[結びの1段落を削除して『国論』96、1963年1月に転載]

民族主義と議会政治『世界と議会』4、9月15日『世界と議会』150、1973年11月に再録]

平和の為の第三勢力[巻頭言]『国論』9-8、10月1日〈無署名〉

時点『国論』9-8、10月1日〈無署名〉【中立国の世界史的役割、戦争の危機を醸すもの、善政の第一は言論尊重】

メモ『国論』9-8、10月1日〈無署名〉

議会政治の問題点『国論』9-8、10月1日〈無署名〉

新しい愛国心『国論』9-8、10月1日〈無署名〉

田中正造おぼえ書『国論』9-8、10月1日〈無署名〉

風信帖『国論』9-8、10月1日〈無署名〉

同甘共苦の経済を[巻頭言]『国論』9-9、11月1日〈無署名〉

時点『国論』9-9、11月1日〈無署名〉【日本のものは日本へ、憲法改正は慎重に、国を愛する身の如し】

メモ『国論』9-9、11月1日〈無署名〉

天皇・革新・戦争 ねずまさし氏の著書に拠りつつ『国論』9-9、11月1日〈無署名〉

風信帖『国論』9-9、11月1日〈無署名〉

国際語と国際旗を[巻頭言]『国論』9-10、12月1日〈無署名〉

時点『国論』9-10、12月1日〈無署名〉【五十メガトンの疑問、優秀両民族への課題、自由主義と政治の不在】

メモ『国論』9-10、12月1日〈無署名〉

『宰相』抹殺論『国論』9-10、12月1日〈無署名〉『日本及日本人』1417、8月1日から転載]

風信帖『国論』9-10、12月1日〈無署名〉

1962(昭和37)年

新民族主義の提唱―民族共同のもとに絶対平和主義への道を歩む―『現代の眼』3-1、1月1日

平和と道義の象徴[巻頭言]『国論』10-1、1月1日〈無署名〉

時点『国論』10-1、1月1日〈無署名〉【手前勝手の鉢合せ、自立者としての思想、まず合法的な努力を】

メモ『国論』10-1、1月1日〈無署名〉

天皇と開戦責任―陛下御自身の述懐―『国論』10-1、1月1日〈無署名〉

正月問答 クーデターから福沢諭吉まで『国論』10-1、1月1日〈無署名〉

風信帖『国論』10-1、1月1日〈無署名〉

帝国主義呼ばわり[巻頭言]『国論』10-2、3月1日〈無署名〉

時点『国論』10-2、3月1日<<無署名>>【的を外れた憲法論争、ファシズムへの傾斜、EECの示唆するもの】
大川博士の日本主義 全集第1巻を読んで『国論』10-2、3月1日<<無署名>>
あれこれ問答 どこもかしこも派閥闘争『国論』10-2、3月1日<<無署名>>
風信帖『国論』10-2、3月1日<<無署名>>
創刊十周年の意義[巻頭言]『国論』10-3、4月1日<<無署名>>
時点『国論』10-3、4月1日【機械化文明からの転身、罰則強化主義への疑問、明治維新再検討の機運】
絶対的平和主義 ヒモ付き平和主義と自衛的平和主義の彼方『国論』10-3、4月1日<<無署名>>
風信帖『国論』10-3、4月1日<<無署名>>
天皇元首化に反対するムードに揺れる憲法論争—「危機に立つ平和憲法」『現代の眼』3-5、5月1日
日本人と自由主義[巻頭言]『国論』10-4、5月1日<<無署名>>
時点『国論』10-4、5月1日<<無署名>>【非暴力主義の原則的確認、物価上昇と革新勢力、法律万能が生む悲喜劇】
アジアと日本 大川周明全集第二巻に触れて『国論』10-4、5月1日<<無署名>>
あれこれ問答 一億総とぼけの彼方に待つもの『国論』10-4、5月1日<<無署名>>
風信帖『国論』10-4、5月1日<<無署名>>
社会党の国家観念[巻頭言]『国論』10-5、6月1日<<無署名>>
時点『国論』10-5、6月1日<<無署名>>【思想戦を悪用するもの、民意の反映としての政情、戦争は何かを解決するか】
日本神道の特質 世界に異例の信仰不強要『国論』10-5、6月1日<<無署名>>
日本思想と『転向』—あれこれ問答—『国論』10-5、6月1日<<無署名>>
風信帖『国論』10-5、6月1日<<無署名>>
西郷南洲のこと—ささやかな西郷との因縁—「ずいひつ」『愛国戦線』67、7月10日
自由と真実の教育[巻頭言]『国論』10-6、8月1日<<無署名>>
時点『国論』10-6、8月1日<<無署名>>【新たな次元の祭政一致、自ら任せざる社会党、医薬と教育の過信
革命不要論—あれこれ問答—『国論』10-6、8月1日<<無署名>>
風信帖『国論』10-6、8月1日<<無署名>>

1963(昭和 38)年

石川準十郎君の力作 社会主義論稿『新勢力』8-1、1月5日
昭和民族主義の潮流—主として北一輝の思想を中心として—『国論』96、1月25日[結びの1段落を削除して『中央公論』76-9、1961年9月から転載]
「日本国家主義研究」執筆おぼえ書『国論』96、1月25日
西郷と大久保—大西郷随想—『新勢力』8-3、4月5日

「葦津史論への批判と所感」『新勢力』8-4、5月5日

温泉断想『温泉』31-8、8月1日

国家主義の回復と超越『愛国戦線』71、8月10日

民族主義と議会政治『世界と議会』28、9月15日

日本的民主主義の原像－田中正造の教えるもの－『新勢力』8-10、10月5日

これで党近代化はできるのか 近代化を口にする前に、なすべき政治家の責務は山ほどある『政界往来』29-12、12月10日

1964(昭和 39)年

政治的開発への課題－ナショナリズム運動の回顧と前進－『愛国戦線』73、1月1日

アジア解放の新段階－純正ナショナリズムの政治指標－『新勢力』9-1、1月5日

北一輝「支那革命外史」[「一冊の本」]『朝日新聞』2月16日[朝日新聞学芸部編「一冊の本 2」(雪華社、1965年4月1日)、『一冊の本 全』(雪華社、1967年)、改装新版「一冊の本 全」(雪華社、1972年)収録]

すべての土地は国土である 土地所有制の矛盾と破綻『新勢力』9-5、5月5日

憲法問題の推移と展望「憲法問題論叢」『愛国戦線』76、8月1日

1965(昭和 40)年

超党派外交の基本的前提『愛国戦線』78、1月15日

建国祭異聞「随筆」『現代の眼』6-4、4月1日

北一輝における「革命」と「国体」－戦後二十年の時点に立ちて－『新勢力』10-4、4月5日

1966(昭和 41)年

善隣友好の虚妄と真実「特集・日韓問題の総括と展望」『現代の眼』7-1、1月1日

消えた頭山・内田の夢『人物往来』15-1、1月1日

日本の革新を考える『日本及日本人』1434、3月1日

対抗力よりも親和力を－独立・平和・維新の視角から－『新勢力』11-5、6月5日

ナショナリズムと日本の伝統『日本及日本人』1441、10月1日[特別座談会:大熊信行、司会:栗原一夫、本誌側:西山幸輝]

1967(昭和 42)年

新春有情[短歌 6首]『新勢力』12-1、1月5日

戦後体験と国家社会主義『新勢力』12-4、5月5日

土地国有論補遺『新勢力』12-6、7月5日

何が日本の病患か『日本及日本人』1451、8月1日

革命史話の教えるもの[「葦津珍彦著「ロシア革命史話」の波紋』『新勢力』12-10、11月5日

1968(昭和 43)年

「戦後を終えるには日本の再編成を要す」を読んで』『動向』1270、4月1日

1969(昭和 44)年

シンポジウム 理想の国家像を求めて“半国家”からの脱出が先決要件[特集“あすの日本”へアプローチする]『日本及日本人』1469、1月1日[シンポジウム:大熊信行、判沢弘]

崩れる東大『新勢力』14-1、1月5日

1970(昭和 45)年

造反の季節の中での回想－北一輝と日本革命道『日本及日本人』1485、5月1日

1971(昭和 46)年

日本におけるテロリズムの系譜[総特集 三島由紀夫の死を見つめて]『諸君』3-2、2月1日

「アンケート一、日中国交の具体的方策 二、これに関連して台湾問題をどう処置するか」『外交時報』1082、2月1日

*二つの軍国主義『我流』[4-2]、2月10日『精神分析』に転載]

二つの軍国主義『精神分析』29-2、4月1日『我流』から転載]

テロを喚ぶ環境[「テロと暴力の風土」]『潮』146、11月1日

1972(昭和 47)年

落ちつけ日本人[「随筆」]『世界と議会』128、1月15日

諫死・斬奸の思想『伝統と現代』14、3月1日[対談:橋川文三]

多元的自由主義の破綻－ばらばらで敵に克つことはできない『愛戦』112・113、7月30日

進行する体制戦争の中で－自由主義という名の敗北主義を排す－『月刊世界政経』1-9、11月1日

道路開発と三島県令『道路建設』299、12月1日

1973(昭和 48)年

“日中”以後の反共運動『愛戦』115、1月10日

国防の本質と自衛隊の現状－国家論を欠く国防論は無意味である－『愛戦』116、4月[10日]

勝者の仮面を剥ぐ『新勢力』18-9、10月15日

自壊過程の自由主義—象徴しての長沼裁判と金事件—『愛戦』119、10月25日

1974(昭和49)年

愛国心の現実的根拠—斯の最小の国土を保持するために『愛戦』120、1月15日

体質としての言論拘束 ソ氏追放と批孔運動『外交時報』1114、4月10日

国家革新の基点と方向『愛戦』20-4、4月15日

徳育強調の意義と背景—思想戦としての教育論争—『愛戦』20-8、8月5日

総括対談「維新運動」を語る『愛戦』20-12[1月号]、12月20日[対談:赤尾敏、猪野健治(司会)]『証言・昭和維新運動』(島津書房、1978年)、鈴木邦男編『BEKIRAの淵から 証言・昭和維新運動』(皓星社、2015年)、「対談・昭和維新運動の栄光と挫折」と題して、猪野健治『評伝・赤尾敏 叛骨の過激人間』(オール出版、1991年)収録]

1975(昭和50)年

昭和維新運動と天皇論「象徴天皇とは何か」『月刊世界政経』4-1、1月1日

国防の哲理と自衛隊の現状『愛戦』21-4、4月10日

世界史の流れの中で 真実を求める努力に休止はない『新勢力』20-5、5月15日

ベトナムの火は日本を焼く—主体の無いところに対応はない—『愛戦』21-8、8月1日

征韓論と西南の役—葦津氏の近著にふれつつ『新勢力』20-9、9月15日

ファッションは誰だ「特集 右翼」『面白半分』8-6、11月1日

1976(昭和51)年

平和共存と緊張緩和—矛盾になやむ自由主義外交—「緊迫するアジア情勢と南北問題」『愛戦』22-1、1月1日

嫌われた国会「ずいひつ」『政界往来』42-1、1月1日

戦後にとって右翼とは何か『現代の眼』17-3、3月1日[対談:丸山邦男]

共産党の変貌と「右翼」『特集・日本共産党を解剖する』『愛戦』22-2、4月1日

「右翼陣営の児玉誉士夫評価」『経済往来』28-4、4月1日

擬制右翼を超えて『経済往来』28-4、4月1日[座談会:阿部勉、永淵一郎]

ロッキード事件をめぐる『週刊朝日』81-16、4月9日[座談会:川井春三、野村秋介、鈴木邦男、猪野健治]『証言・昭和維新運動』(島津書房、1978年)収録]

依然たる従属国『我流』9-5(通号91)、5月10日<<無署名>>

宮崎兄弟 美しき血脈『我流』9-5(通号91)、5月10日<<無署名>>

無題『我流』9-5(通号91)、5月10日<<無署名>>

日記から(二八)『我流』9-5(通号91)、5月10日<<無署名>>

逝くものは斯の如く「随想 私の中国「経験」記」『現代の眼』17-7、7月1日

ロッキード事件と日本の右翼『史』31、7月15日

収容所列島と退廃列島『我流』9-9(通号96)、9月10日<<無署名>>

市川房枝 婦人運動の象徴『我流』9-9(通号96)、9月10日<<無署名>>

無題『我流』9-9(通号96)、9月10日<<無署名>>

日記から(三二)『我流』9-9(通号96)、9月10日<<無署名>>

[アンケート「毛主席亡き後の中国の政情はどうなるか」等]『外交時報』1139、11月10日

自由・平等・友愛[「随想」]『新勢力』21-10、11月15日

1977(昭和52)年

政治革新の日本的特性[「革命・暴力・テロ」]『愛国戦線』23-1、1月20日

運動における大同と排除 老社会への回想をめぐって[「緊急特集 革新自由連合の思想」]『愛国戦線』23-2、4月20日

生産党の思い出[「特集・黒龍会」]『愛国戦線』23-3、7月20日

高島素之における先見性 その日本的社会主義の解明『愛国戦線』23-4、10月20日

1978(昭和53)年

*新右翼を模索する『愛国戦線』24-2[通号140]<特集 経団連事件>、4月20日

1979(昭和54)年

[「しきしまの道 読者歌壇」]『祖国と青年』39、1月1日

世外断想[「随想」]『史』39、4月10日

老荘会の時代と国家社会主義『愛国戦線』143、8月20日

1980(昭和55)年

模索と探求の軌跡 孤墨六十年の光と影『愛国戦線』144、149、3月20日、1982年3月10日

大西郷『愛国戦線』145～152、10月20日、1981年3月10日、6月10日、9月20日、1982年3月10日、7月1日、10月1日、1983年3月1日

1981(昭和56)年

[「しきしまの道 読者歌壇」]『祖国と青年』50、3月1日

近代日本における暗殺の系譜[「暗殺の構図」]『季刊世界政経』77、6月10日

1982(昭和 57)年

自民党の体質改善が先決[「安保改定是か非か」]『祖国と青年』56、2月1日

田々宮英太郎著『橋本欣五郎一代』[書評]『経済往来』34-4、4月1日[『史』48、4月20日に転載]

1983(昭和 58)年

[「アンケート 国際政治における日本のあり方」]『外交時報』1206、7月1日

1988(昭和 63)年

[「しきしまの道 読者歌壇」]『祖国と青年』113、2月1日

1989(昭和 64)年

表紙に寄せて『史』70、7月25日

2015(平成 27)年

里見岸雄関係書簡研究 津久井龍雄編『国体文化』1094、7月1日[里見岸雄宛津久井書簡5通:1940年3月14日、1942年8月13日、1943年10月26日、1945年6月23日、1953年1月22日]

2-2. 評論等(『やまと新聞』掲載) < 589 篇 >

津久井は、1937年、『やまと新聞』に「主筆」として入社する(『日本国家主義運動史論』p.198)。同紙は1931年1月1日から夕刊紙となり、1932年、大化会代表の岩田富美夫の経営となっていた。1937年6月22日、時評欄「課題を衝く」を新設し論陣を張る(～1940年8月6日。当初は赤松克麿、茅原崙山、倉田百三、下中弥三郎、中谷武世らも執筆している)。

1938年4月1日、『やまと新聞』の「主幹」に就任するとともに「社長事務を代行」する(「社告」『やまと新聞』1938年4月2日。『日本新聞年鑑 昭和十四年版』(新聞研究所、1938年12月)「第2篇 現勢」8頁では1938年1月入社、主幹および編輯局長とある。『日本新聞年鑑 昭和十六年版』(新聞研究所、1940年12月)「第2篇 現勢」12頁では「副社長」・「主幹」とある)。

1939年5月、『やまと新聞』の大陸進出を企図して、大連・奉天・新京・天津・北京・南京・上海を見聞。1940年11月25日、『やまと新聞』にコラム欄「淡々録」を新設し執筆する(～1941年3月8日)。1941年3月24日、『やまと新聞』にコラム欄「日曜断章」を新設し執筆する(～1942年3月30日)。1942年(?)、やまと新聞社を退社。

1928(昭和3)年

『朝日』問題に関連して『やまと新聞』10月3、4日

官憲諸君に寄す「孝芸欄」『やまと新聞』12月14日

満州処々『やまと新聞』12月18～22日

1929(昭和4)年

行動への疾駆—昭和四年を迎へて—『やまと新聞』1月1日

二つの宗派主義『やまと新聞』2月5～7日

『論語』礼讃『やまと新聞』2月12、13日

『日本』記者に寄す 国家社会主義のみが真の日本主義である『やまと新聞』2月24～27日

二つの中間派 或る日本主義と共産主義とに就て『やまと新聞』3月10、11日 < 奥澄男 >

一つの答案—原氏の疑義に対する—『やまと新聞』3月21、22日

新聞を見ていて『やまと新聞』4月1、2日 < 奥澄男 >

大毎、大朝への勅使御差遣に就て『やまと新聞』4月17、18日

建国会に啓上『やまと新聞』5月1日

三人の性悪論者—高島素之と韓非子とマキアヴェリ—『やまと新聞』5月3～8日 < 奥澄男 >

東京朝日新聞記者清沢某の不逞新著『自由日本を漁る』に就て 国体冒瀆の言辞乱発『やまと新聞』5月13日

反駁者を駁す『やまと新聞』5月17日

『急進』創刊に就て『やまと新聞』6月3、4日

近事雑感『やまと新聞』6月20～22日 < 津久井生 >

信州講演記『やまと新聞』6月29日 < 津久井生 >

八月論壇の珍収穫 三井甲之の『日本主義としての国家社会主義』を揶揄す『やまと新聞』7月18、19日 < 奥澄男 >

最近の社会運動界を展望す『やまと新聞』7月27、30日〈奥澄男〉
或る重大な問題に就いてーガス問題に関して発生せる一事実の厳正批判ー『やまと新聞』8月15日〈奥澄男〉
停頓の露支風雲『やまと新聞』9月6日〈T・T生〉
郷愿内閣『やまと新聞』9月14日〈奥生〉
新聞を見てみて『やまと新聞』9月27日〈奥生〉
反撃者に答へてー蓑田胸喜氏の国家社会主義批評を読むー『やまと新聞』10月12～16日〈津久井生〉
[注文と期待 犬養毅氏へ]『やまと新聞』10月20日〈奥澄男〉
雑三題『やまと新聞』10月26日〈奥澄男〉
一つの提案ー蓑田胸喜氏との論戦に関連してー『やまと新聞』10月27日
木堂を聴く『やまと新聞』11月4日〈亭々生〉[頭文字〈T・T生〉の語呂合せか?]

1930(昭和5)年

年頭言志『やまと新聞』1月1日

1937(昭和12)年

言論統制の基調[「課題を衝く」]『やまと新聞』6月22日
言論の営利主義[「課題を衝く」]『やまと新聞』6月30日
週間政談『やまと新聞』7月5日〈壺中庵主人〉
冀東政府[「課題を衝く」]『やまと新聞』7月8日
日支衝突の示唆[「課題を衝く」]『やまと新聞』7月10日
出鱈目挙国一致[「課題を衝く」]『やまと新聞』7月13日
裏切られた革命[「課題を衝く」]『やまと新聞』7月21日
注目すべき議会の変質過程[「課題を衝く」]『やまと新聞』7月28日
戦争支持の媚態[「課題を衝く」]『やまと新聞』8月6日
戦争と資本家[「課題を衝く」]『やまと新聞』8月7日
触目随感ー八月号の雑誌からー『やまと新聞』8月12、13、15、16、19～21日〈津久井生〉
日支抗争の裏にあるもの[「課題を衝く」]『やまと新聞』8月14日
政府唱へ政党随ふ『やまと新聞』8月25日
民族と階級[「課題を衝く」]『やまと新聞』8月28日
流言の発生と根絶[「課題を衝く」]『やまと新聞』8月29日
時局と政治犯人『やまと新聞』8月30日
熟練工の問題『やまと新聞』8月31日

「赤」の問題[「課題を衝く」]『やまと新聞』9月1日
戦争と平和[「課題を衝く」]『やまと新聞』9月2日
新しきアジア[「課題を衝く」]『やまと新聞』9月4日
日本兵の強さ[「課題を衝く」]『やまと新聞』9月5日
岩田氏の案内で只だ一回の訪問－記憶に鮮かな支那服姿－[「北一輝への回想」]『やまと新聞』9月6日
楽観蔵相[「課題を衝く」]『やまと新聞』9月7日
イギリスの立場[「課題を衝く」]『やまと新聞』9月15日
防共協定の拡大[「課題を衝く」]『やまと新聞』9月16日
時局と革新運動[「課題を衝く」]『やまと新聞』9月17日
資本金根性[「課題を衝く」]『やまと新聞』9月18日
「非」国民使節[「課題を衝く」]『やまと新聞』9月21日
時局と人材[「課題を衝く」]『やまと新聞』9月22日
「美談」に酔ふ勿れ[「課題を衝く」]『やまと新聞』9月24日
人生修養と文芸作品[「学芸欄」]『やまと新聞』9月24日
日本を動かす力[「課題を衝く」]『やまと新聞』9月25日
支那事変と米国[「課題を衝く」]『やまと新聞』9月26日
混沌たる外交国策[「課題を衝く」]『やまと新聞』9月28日
戦捷に続くもの[「課題を衝く」]『やまと新聞』9月29日
思想と政治[「課題を衝く」]『やまと新聞』9月30日
蠢く国際干渉の手[「課題を衝く」]『やまと新聞』10月1日
役人の手弄み[「課題を衝く」]『やまと新聞』10月2日
北支再建への道[「課題を衝く」]『やまと新聞』10月3日
国家と宗教[「課題を衝く」]『やまと新聞』10月4日
優勝劣敗の倫理[「課題を衝く」]『やまと新聞』10月5日
強力内閣とは何か[「課題を衝く」]『やまと新聞』10月6日
アジア復興譜[「課題を衝く」]『やまと新聞』10月7日
真面目な喜劇[「課題を衝く」]『やまと新聞』10月9日
宣伝の意義[「課題を衝く」]『やまと新聞』10月10日
政治と軍事の乖離[「課題を衝く」]『やまと新聞』10月13日
挙国一致と革新派[「課題を衝く」]『やまと新聞』10月14日
大川博士の出身－他の愛国犠牲者を考慮せよ－[「課題を衝く」]『やまと新聞』10月15日
秩父宮殿下御帰朝[「やまと新聞』10月16日

支那の前途〔課題を衝く〕『やまと新聞』10月17日
初議会を前に池田参議に寄する公開状『やまと新聞』10月19日
インテリと戦争〔課題を衝く〕『やまと新聞』10月20日
支那軍弱からず〔課題を衝く〕『やまと新聞』10月21日
念仏部隊長〔課題を衝く〕『やまと新聞』10月22日
論壇時評〔学芸欄〕『やまと新聞』10月25、27～31日【(一)感乱する文化人、(二)世界性の問題、(三)日本主義の根拠、(四)「迷路」の含む示唆、(五)社会革新の思想、(六)光る本荘可宗氏】
枢密院を叩く〔課題を衝く〕『やまと新聞』12月26日
無思想政治の悲哀〔課題を衝く〕『やまと新聞』12月27日
官僚の再教育〔課題を衝く〕『やまと新聞』12月28日
電力問題解決に邁進すべし〔課題を衝く〕『やまと新聞』12月29日
昭和十二年を送る〔課題を衝く〕『やまと新聞』12月30日

1938(昭和13)年

煩悶の児・近衛首相〔課題を衝く〕『やまと新聞』1月4日
東洋思想の示唆〔課題を衝く〕『やまと新聞』1月5日
膺懲と指導〔課題を衝く〕『やまと新聞』1月6日
保守主義の根柢〔課題を衝く〕『やまと新聞』1月7日
実力の世界〔課題を衝く〕『やまと新聞』1月8日
青年の尊重と指導〔課題を衝く〕『やまと新聞』1月9日
末次内閣〔課題を衝く〕『やまと新聞』1月10日
思想統制と治安維持〔課題を衝く〕『やまと新聞』1月12日
末裔受難の示唆〔課題を衝く〕『やまと新聞』1月13日
指導性なき政府〔課題を衝く〕『やまと新聞』1月14日
東洋政治の理想〔課題を衝く〕『やまと新聞』1月15日
咎めて責なく免れて恥なし〔課題を衝く〕『やまと新聞』1月16日
国際労働会議〔課題を衝く〕『やまと新聞』1月17日
莫妄想〔課題を衝く〕『やまと新聞』1月18日
内閣改造の急務〔課題を衝く〕『やまと新聞』1月19日
新公武合体論〔課題を衝く〕『やまと新聞』1月20日
解消か糊塗か〔課題を衝く〕『やまと新聞』1月21日
いのちがけ〔課題を衝く〕『やまと新聞』1月22日
政府と議会〔課題を衝く〕『やまと新聞』1月23日

大学の肅正[「課題を衝く」]『やまと新聞』1月24日
日本女性[「課題を衝く」]『やまと新聞』1月25日
電力案と官僚[「課題を衝く」]『やまと新聞』1月26日
巨人待望[「課題を衝く」]『やまと新聞』2月10日
建国祭挿話[「課題を衝く」]『やまと新聞』2月11日
日日は建国[「課題を衝く」]『やまと新聞』2月12日 [『課題を衝く』収録]
学術餓饉[「課題を衝く」]『やまと新聞』2月13日
社大党の行方[「課題を衝く」]『やまと新聞』2月14日 [『課題を衝く』収録]
苦悶の英国[「課題を衝く」]『やまと新聞』2月15日
大学の肅正[「課題を衝く」]『やまと新聞』2月18日
政党の終焉[「課題を衝く」]『やまと新聞』2月19日
財閥資本家の攻勢[「課題を衝く」]『やまと新聞』2月20日
学生に光明を[「課題を衝く」]『やまと新聞』2月21日
ヒ総統の獅子吼[「課題を衝く」]『やまと新聞』2月22日
知らしめず抛らしめざる政治[「課題を衝く」]『やまと新聞』2月23日
文化人のテーマ[「課題を衝く」]『やまと新聞』2月24日
自由主義の正体[「課題を衝く」]『やまと新聞』2月25日
政党の階級主義[「課題を衝く」]『やまと新聞』2月26日
対支文化工作の根本基調[「課題を衝く」]『やまと新聞』2月27日
読書人の素質[「課題を衝く」]『やまと新聞』2月28日
新聞記者の良識と徳威[「課題を衝く」]『やまと新聞』3月1日
日支戦と東洋民族[「課題を衝く」]『やまと新聞』3月2日 [『課題を衝く』収録]
浮説を排す[「課題を衝く」]『やまと新聞』3月3日
“挙国主義”の破綻[「課題を衝く」]『やまと新聞』3月4日
不安の背景[「課題を衝く」]『やまと新聞』3月5日
フアツシヨの弁[「課題を衝く」]『やまと新聞』3月6日
青年交歓に寄す[「課題を衝く」]『やまと新聞』3月7日
新しき政治へ[「課題を衝く」]『やまと新聞』3月9日 [『課題を衝く』収録]
戦勝の条件[「課題を衝く」]『やまと新聞』3月10日 [『課題を衝く』収録]
雪の日漫想[「課題を衝く」]『やまと新聞』3月11日
新しき精神[「課題を衝く」]『やまと新聞』3月12日 [『課題を衝く』収録]
思想と文芸とに寄する随想[「文化欄」]『やまと新聞』3月12、13、15～19日

大実力の政治[「課題を衝く」]『やまと新聞』3月13日
政党を唾ふ[「課題を衝く」]『やまと新聞』3月15日
血の勝利[「課題を衝く」]『やまと新聞』3月16日 [『課題を衝く』収録]
歴史の十字路口[「課題を衝く」]『やまと新聞』3月17日
「純理」とは何ぞや[「課題を衝く」]『やまと新聞』3月19日 [『課題を衝く』収録]
「政治」の再建[「課題を衝く」]『やまと新聞』3月20日
イタリー使節を迎へて[「課題を衝く」]『やまと新聞』3月21日
戦争に繋がるもの[「課題を衝く」]『やまと新聞』3月23日
西尾君の舌禍と社大党[「課題を衝く」]『やまと新聞』3月24日
特異なる政情[「課題を衝く」]『やまと新聞』3月25日
理想の喪失[「課題を衝く」]『やまと新聞』3月26日 [『課題を衝く』収録]
癩に捧ぐる青春[「課題を衝く」]『やまと新聞』3月27日 [『課題を衝く』収録]
帝国議会を見送る[「課題を衝く」]『やまと新聞』3月28日
新党に望むもの[「課題を衝く」]『やまと新聞』3月31日 [『課題を衝く』収録]
人物饑饉[「課題を衝く」]『やまと新聞』4月2日 [「人物饑饉其他」(『内観』218、1938年5月1日)に転載]
現状打破の限界[「課題を衝く」]『やまと新聞』4月6日
起ち上る回教徒[「課題を衝く」]『やまと新聞』4月8日 [『課題を衝く』収録、「人物饑饉其他」(『内観』218、1938年5月1日)に転載]
殖える労働争議[「課題を衝く」]『やまと新聞』4月9日
戦争と革新[「課題を衝く」]『やまと新聞』4月10日
上杉博士を憶ふ[「課題を衝く」]『やまと新聞』4月13日
日ソ戦ふべきか[「課題を衝く」]『やまと新聞』4月14日 [「人物饑饉其他」(『内観』218、1938年5月1日)に転載]
番町男の支那乗出[「課題を衝く」]『やまと新聞』4月17日
自治制への反省[「課題を衝く」]『やまと新聞』4月19日
近衛首相に求めるもの[「課題を衝く」]『やまと新聞』4月20日 [『課題を衝く』収録]
相克摩擦の内攻[「課題を衝く」]『やまと新聞』4月21日
持てる国・持たぬ民[「課題を衝く」]『やまと新聞』4月24日 [『課題を衝く』収録]
英外交の極東攻勢[「課題を衝く」]『やまと新聞』4月27日
みたまわれら[「課題を衝く」]『やまと新聞』4月30日
物価の問題[「課題を衝く」]『やまと新聞』5月1日
厚生大臣[「課題を衝く」]『やまと新聞』5月4日
二つの場合[「課題を衝く」]『やまと新聞』5月6日
岐路に立ちて[「課題を衝く」]『やまと新聞』5月7日

久原の復活[「課題を衝く」]『やまと新聞』5月10日
転向派の任務[「課題を衝く」]『やまと新聞』5月12日[『課題を衝く』収録]
国策の不動化へ[「課題を衝く」]『やまと新聞』5月13日[『課題を衝く』収録]
指導者の問題[「課題を衝く」]『やまと新聞』5月15日[『課題を衝く』収録]
時局と大衆[「課題を衝く」]『やまと新聞』5月16日
革新の意味と法則[「課題を衝く」]『やまと新聞』5月18日[『課題を衝く』収録]
闘争と競争[「課題を衝く」]『やまと新聞』5月19日[『課題を衝く』収録]
忠愛の精神[「課題を衝く」]『やまと新聞』5月21日[『課題を衝く』収録]
岡山惨劇の教訓[「課題を衝く」]『やまと新聞』5月24日
現実の認識と批判[「課題を衝く」]『やまと新聞』5月25日[『課題を衝く』収録]
人物飢饉と教訓[「課題を衝く」]『やまと新聞』5月26日[『課題を衝く』収録]
宇垣・池田・荒木[「課題を衝く」]『やまと新聞』5月28日
打倒マルクスの道[「課題を衝く」]『やまと新聞』6月2日[『課題を衝く』収録]
宇垣外交の一基調[「課題を衝く」]『やまと新聞』6月4日
板垣陸相登場[「課題を衝く」]『やまと新聞』6月6日
国共結合の浸化[「課題を衝く」]『やまと新聞』6月7日
戦争の副作用[「課題を衝く」]『やまと新聞』6月9日
蔵相案と香月談[「課題を衝く」]『やまと新聞』6月12日
思想戦軽視を排す[「課題を衝く」]『やまと新聞』6月14日
ソ連戦ひ得るか[「課題を衝く」]『やまと新聞』6月15日
政友騒動の教訓[「課題を衝く」]『やまと新聞』6月16日
産業報国運動に就いて[「課題を衝く」]『やまと新聞』6月18日
速戦即決の意義[「課題を衝く」]『やまと新聞』6月19日
時局と世風[「課題を衝く」]『やまと新聞』6月20日
独ソ提携説[「課題を衝く」]『やまと新聞』6月21日
新しき新聞禍[「課題を衝く」]『やまと新聞』6月22日[『課題を衝く』収録]
宣戦布告論[「課題を衝く」]『やまと新聞』6月23日
戦争の対内意義[「課題を衝く」]『やまと新聞』6月24日[『課題を衝く』収録]
末次人事[「課題を衝く」]『やまと新聞』6月26日
前進座と新国劇[「課題を衝く」]『やまと新聞』6月28日[『課題を衝く』収録]
湘南博士の支那論[「課題を衝く」]『やまと新聞』6月29日
学生指導の貧困[「課題を衝く」]『やまと新聞』6月30日[『課題を衝く』収録]

政府の事大主義[「課題を衝く」]『やまと新聞』7月1日
都制案をめぐる問題[「課題を衝く」]『やまと新聞』7月2日
災害と人間生活[「課題を衝く」]『やまと新聞』7月5日 [『課題を衝く』収録]
世紀の悲劇・ソ連邦[「課題を衝く」]『やまと新聞』7月6日 [『課題を衝く』収録]
非常時局と人物[「課題を衝く」]『やまと新聞』7月10日
孤独への意志[「課題を衝く」]『やまと新聞』7月11日 [『課題を衝く』収録]
挙国一致への反省[「課題を衝く」]『やまと新聞』7月12日
有馬農相の提言[「課題を衝く」]『やまと新聞』7月13日
対支工作への偶感[「課題を衝く」]『やまと新聞』7月14日
少数党の存在理由[「課題を衝く」]『やまと新聞』7月15日 [『課題を衝く』収録]
小善か大善か[「課題を衝く」]『やまと新聞』7月18日 [『課題を衝く』収録、[「時局八面観」『内観』222、9月1日に
転載]
戦争と新生活[「課題を衝く」]『やまと新聞』7月19日
日ソ戦を前にして[「課題を衝く」]『やまと新聞』7月20日
ユダヤ禍の問題[「課題を衝く」]『やまと新聞』7月21日
日本主義言論の使命[「課題を衝く」]『やまと新聞』7月22日 [『課題を衝く』収録]
直進の一途あるのみ[「課題を衝く」]『やまと新聞』7月26日 [「時局八面観」『内観』222、9月1日に転載]
戦時と思想統制[「課題を衝く」]『やまと新聞』7月27日
開始された反宇垣放送[「課題を衝く」]『やまと新聞』7月28日
宣伝戦の意義と効果[「課題を衝く」]『やまと新聞』8月11日 [「時局八面観」『内観』222、9月1日に転載]
国際情勢の現実と認識[「課題を衝く」]『やまと新聞』8月12日 [「時局八面観」『内観』222、9月1日に転載]
不拡大主義の行方[「課題を衝く」]『やまと新聞』8月13日
大学改革と文相の役割[「課題を衝く」]『やまと新聞』8月14日
戦争の中に平和を[「課題を衝く」]『やまと新聞』8月16日
支那人教育の新基調[「課題を衝く」]『やまと新聞』8月17日
非常時国民会議を開け[「課題を衝く」]『やまと新聞』8月18日
時局認識の前進へ[「課題を衝く」]『やまと新聞』8月20日
首相だけいい子になるな[「課題を衝く」]『やまと新聞』8月21日
大学改革と革新派教授[「課題を衝く」]『やまと新聞』8月22日
欧州の波瀾また一を加ふ[「課題を衝く」]『やまと新聞』8月23日
本欄への反響に就て[「課題を衝く」]『やまと新聞』8月25日
知識階級は立直る[「課題を衝く」]『やまと新聞』8月27日
報道の真価を發揮せよ[「課題を衝く」]『やまと新聞』8月28日

“長期建設”の基調を問ふ〔課題を衝く〕『やまと新聞』8月30日
思想戦とは何ぞや〔課題を衝く〕『やまと新聞』8月31日
闇の中に思ふ〔課題を衝く〕『やまと新聞』9月2日
素人大臣登場の意義〔課題を衝く〕『やまと新聞』9月4日
天災防衛と科学〔課題を衝く〕『やまと新聞』9月6日
文士部隊の出発に寄せて〔課題を衝く〕『やまと新聞』9月8日
政治の革新と日本軍部〔課題を衝く〕『やまと新聞』9月22日
右翼偏向への危惧〔課題を衝く〕『やまと新聞』9月23日
戦死者・遺家族感謝の夕に寄せる〔課題を衝く〕『やまと新聞』9月24日
チエコ問題と今後の独逸〔課題を衝く〕『やまと新聞』9月25日
青年団の現在と将来〔課題を衝く〕『やまと新聞』9月27日
政府は沈黙の声に聴け〔課題を衝く〕『やまと新聞』9月28日
対支中央機関問題の示唆〔課題を衝く〕『やまと新聞』9月29日
資本家は転向の要なき乎〔課題を衝く〕『やまと新聞』9月30日
宇垣の退陣と近衛首相〔課題を衝く〕『やまと新聞』10月2日
検閲方針に疑義あり〔課題を衝く〕『やまと新聞』10月4日
新聞及新聞記者の墮落〔課題を衝く〕『やまと新聞』10月5日
後任外相銓衡の不用意〔課題を衝く〕『やまと新聞』10月6日
欧州の新情勢と極東〔課題を衝く〕『やまと新聞』10月7日
思想取締の基準を問ふ〔課題を衝く〕『やまと新聞』10月8日
大勢の把握と其の指導〔課題を衝く〕『やまと新聞』10月10日
時のもの・永遠のもの〔課題を衝く〕『やまと新聞』10月11日
国民精神総動員運動と政党〔課題を衝く〕『やまと新聞』10月13日
新党運動と近衛首相〔課題を衝く〕『やまと新聞』10月14日
事実の変化と観念の変化〔課題を衝く〕『やまと新聞』10月15日
新党運動の示唆するもの〔課題を衝く〕『やまと新聞』10月21日
広東陥落と事変の見透し〔課題を衝く〕『やまと新聞』10月23日
新党の政治的性格に就て〔課題を衝く〕『やまと新聞』10月25日
最後の勝利を決するもの〔課題を衝く〕『やまと新聞』10月26日
事変の新段階と国内政情〔課題を衝く〕『やまと新聞』10月27日
火野(葦平)とスメドレー〔課題を衝く〕『やまと新聞』10月29日
意味のない新外相〔課題を衝く〕『やまと新聞』10月30日

政府の声明に望む【課題を衝く】『やまと新聞』11月1日
社会大衆党を唾棄す【課題を衝く】『やまと新聞』11月2日
新たに興るべきもの【課題を衝く】『やまと新聞』11月3日
明治の日本と昭和の日本【課題を衝く】『やまと新聞』11月4日
政府声明と首相談を評す【課題を衝く】『やまと新聞』11月5日
防共協定の強化と反省【課題を衝く】『やまと新聞』11月8日
荒木文相健在なりや【課題を衝く】『やまと新聞』11月9日
統制経済に望む【課題を衝く】『やまと新聞』11月10日
政府の相剋を排す【課題を衝く】『やまと新聞』11月12日
形容詞の政治と国策【課題を衝く】『やまと新聞』11月13日
石が流れて木の葉が沈む【課題を衝く】『やまと新聞』11月14日
大衆の中の日本精神【課題を衝く】『やまと新聞』11月15日
国民改組の物質的基準【課題を衝く】『やまと新聞』11月16日
論語読みの論語知らず【課題を衝く】『やまと新聞』11月17日
貴院改革と華族制度【課題を衝く】『やまと新聞』11月18日
中央政権の使賓を迎へて【課題を衝く】『やまと新聞』11月19日
分化・統制及び進歩【課題を衝く】『やまと新聞』11月20日
社大党大会を傍聴して【課題を衝く】『やまと新聞』11月22日
不変なる者・可変なる者【課題を衝く】『やまと新聞』11月23日
倫理御進講草案を読む【課題を衝く】『やまと新聞』11月24日
革新の混沌と混沌の革新【課題を衝く】『やまと新聞』11月25日
国民再編の矛盾と混迷【課題を衝く】『やまと新聞』11月29日
政治の無責任を排す【課題を衝く】『やまと新聞』11月30日
新登場者の意味するもの【課題を衝く】『やまと新聞』12月2日
東亜協同の基本精神【課題を衝く】『やまと新聞』12月3日
事態の冷静な認識の上に【課題を衝く】『やまと新聞』12月4日
新思想運動の基準【課題を衝く】『やまと新聞』12月6日
国民再編と政府の決意【課題を衝く】『やまと新聞』12月7日
国民再編と新人登庸【課題を衝く】『やまと新聞』12月10日
日ソ戦への危惧と反省【課題を衝く】『やまと新聞』12月13日
政友会の醜態を擧げす【課題を衝く】『やまと新聞』12月14日

1939(昭和 14)年

年頭述懐『やまと新聞』1 月 1 日
裸体の王様たる勿れ【課題を衝く】『やまと新聞』1 月 7 日
汪兆銘の和平勸奨【課題を衝く】『やまと新聞』1 月 10 日
真の革新派こそぞりて起て！【課題を衝く】『やまと新聞』1 月 11 日
日本独自の文化？【課題を衝く】『やまと新聞』1 月 15 日
東方会の態度に賛す【課題を衝く】『やまと新聞』1 月 16 日
精神主義と政治の貧困【課題を衝く】『やまと新聞』1 月 18 日
政治運動と思想運動【課題を衝く】『やまと新聞』1 月 19 日
斯して政治に栄光あれ【課題を衝く】『やまと新聞』1 月 24 日
具体策が聴きたい【課題を衝く】『やまと新聞』1 月 27 日
国民肚裡の熱意と不満【課題を衝く】『やまと新聞』1 月 28 日
呉佩孚將軍の蹶起【課題を衝く】『やまと新聞』1 月 29 日
大学自壊と政治革新【課題を衝く】『やまと新聞』1 月 31 日
世界平和の理想と現実【課題を衝く】『やまと新聞』2 月 1 日
問題の真の解決の為に【課題を衝く】『やまと新聞』2 月 2 日
精動運動の寂滅と更生【課題を衝く】『やまと新聞』2 月 3 日
大学騒動と学生の憂鬱【課題を衝く】『やまと新聞』2 月 4 日
政治に於る知性の喪失【課題を衝く】『やまと新聞』2 月 7 日
小会派中心の新党説【課題を衝く】『やまと新聞』2 月 8 日
日ソ漁業問題の示唆【課題を衝く】『やまと新聞』2 月 9 日
新党に欠如するもの【課題を衝く】『やまと新聞』2 月 11 日
建国際エピソード【課題を衝く】『やまと新聞』2 月 12 日
政治とは何だらう【課題を衝く】『やまと新聞』2 月 15 日
対支政策の基調に就て【課題を衝く】『やまと新聞』2 月 17 日
受贈図書 読後の走り書【文化欄】『やまと新聞』2 月 17、18、21、22、24、25 日
日本的革新とは何か【課題を衝く】『やまと新聞』2 月 21 日
革新派の現実暴露【課題を衝く】『やまと新聞』2 月 24 日
抗日テロへの反省【課題を衝く】『やまと新聞』2 月 25 日
国民再編成への行方【課題を衝く】『やまと新聞』2 月 28 日
革新運動と封建性【課題を衝く】『やまと新聞』3 月 1 日
思想問題の政治性【課題を衝く】『やまと新聞』3 月 2 日

神がかり是々非々【課題を衝く】『やまと新聞』3月3日
中野除名論の底流【課題を衝く】『やまと新聞』3月4日
世界的大国民への反省【課題を衝く】『やまと新聞』3月5日
一万八千八十八号【課題を衝く】『やまと新聞』3月6日
平沼内閣とインテリ層【課題を衝く】『やまと新聞』3月7日
道場主義への批判【課題を衝く】『やまと新聞』3月9日
大陸軍への感謝と期待【課題を衝く】『やまと新聞』3月11日
時代の要求する英雄【課題を衝く】『やまと新聞』3月13日
進行する日本包囲陣【課題を衝く】『やまと新聞』3月14日
思想に於る進歩と反動【課題を衝く】『やまと新聞』3月15日
ドイツのチェコ併合【課題を衝く】『やまと新聞』3月18日
自由民権と現代日本【課題を衝く】『やまと新聞』3月19日
政治と実践の分離【課題を衝く】『やまと新聞』3月21日
存在理由ある革新論【課題を衝く】『やまと新聞』3月22日
世界再編の新原則【課題を衝く】『やまと新聞』3月23日
政友会の総裁問題【課題を衝く】『やまと新聞』3月25日
七十四議会を終へて【課題を衝く】『やまと新聞』3月26日
民族主義への検討【課題を衝く】『やまと新聞』3月28日
正しき評論家の任務【課題を衝く】『やまと新聞』3月29日
『革新』より『改新』へ【課題を衝く】『やまと新聞』3月30日
国民運動の新目標【課題を衝く】『やまと新聞』3月31日
これが日本精神だ！【課題を衝く】『やまと新聞』4月1日
旧体制に代るもの【課題を衝く】『やまと新聞』4月2日
子供の世界と大人の世界【課題を衝く】『やまと新聞』4月5日
拡大日本の思想と政治【課題を衝く】『やまと新聞』4月6日
行き悩む閣僚補充【課題を衝く】『やまと新聞』4月7日
閣僚補充漸く成る【課題を衝く】『やまと新聞』4月8日
独裁王の覇業と責任【課題を衝く】『やまと新聞』4月11日
統制さるべきは誰ぞ【課題を衝く】『やまと新聞』4月12日
東京市長の後任に就て【課題を衝く】『やまと新聞』4月13日
小磯拓相の時局談【課題を衝く】『やまと新聞』4月14日
戦争の意義と背景【課題を衝く】『やまと新聞』4月15日

検閲当局に一言す【課題を衝く】『やまと新聞』4月16日
米大統領の平和要請【課題を衝く】『やまと新聞』4月18日
総親和と言論統制【課題を衝く】『やまと新聞』4月19日
憂鬱症の弁【文化欄】『やまと新聞』4月25～30日
大陸通信－大連の三日間－『やまと新聞』5月22日
大陸通信－奉天から新京へ－『やまと新聞』6月2日
大陸通信－天津・北京印象録－『やまと新聞』6月12日
大陸通信－「蒙疆王様」の印象－『やまと新聞』6月15日
事実を直視せよ！【課題を衝く】『やまと新聞』6月27日
軍事行動の意義と限界【課題を衝く】『やまと新聞』6月28日
国家の膨張と政治【課題を衝く】『やまと新聞』6月29日
政党政治の再検討【課題を衝く】『やまと新聞』6月30日
対外硬論と国内革新【課題を衝く】『やまと新聞』7月1日
対外硬論と国内革新【課題を衝く】『やまと新聞』7月2日【前日掲載は組違いで判読困難なため再掲載】
危ぶまれる東京会談【課題を衝く】『やまと新聞』7月4日
事変二周年を控えて【課題を衝く】『やまと新聞』7月5日
共産主義の再抬頭【課題を衝く】『やまと新聞』7月6日
新時代の美と風俗【課題を衝く】『やまと新聞』7月11日
汪氏への期待と希望【課題を衝く】『やまと新聞』7月12日
職工諸君の言ひ分【課題を衝く】『やまと新聞』7月13日
国民輿論と其の構成【課題を衝く】『やまと新聞』7月14日
日本の山水美を讃ふ【課題を衝く】『やまと新聞』7月16日
子供の世界への関心【課題を衝く】『やまと新聞』7月17日
思想なき政治と運動【課題を衝く】『やまと新聞』7月18日
連絡船にて詠める【文化】『やまと新聞』7月18日
旅の宇垣大将と語る【課題を衝く】『やまと新聞』7月20日
同胞よ冷静なれ！【課題を衝く】『やまと新聞』7月21日
政治研究会を起せ【課題を衝く】『やまと新聞』7月22日
トラピスト修道院【課題を衝く】『やまと新聞』7月23日
大の虫と小の虫【課題を衝く】『やまと新聞』7月24日
日本労働運動の行方【課題を衝く】『やまと新聞』7月25日
日英会談に寄せて【課題を衝く】『やまと新聞』7月26日

革新運動の新基点【課題を衝く】『やまと新聞』7月27日
戦争を無くす戦争【課題を衝く】『やまと新聞』9月21日
純正三民主義とは何ぞや【課題を衝く】『やまと新聞』9月23日
内にも聖戦の意義を【課題を衝く】『やまと新聞』9月24日
事変の解決か発展か【課題を衝く】『やまと新聞』9月26日
日本人の政治能力【課題を衝く】『やまと新聞』9月27日
依然たる卑屈根性【課題を衝く】『やまと新聞』9月29日
閣僚補充を歓迎する【課題を衝く】『やまと新聞』10月1日
西尾声明への所感【課題を衝く】『やまと新聞』10月3日
先づ悲観し絶望せよ【課題を衝く】『やまと新聞』10月11日
グルー米大使の演説【課題を衝く】『やまと新聞』10月21日
閣僚補充説と政党【課題を衝く】『やまと新聞』10月24日
和平第一主義の迷妄【課題を衝く】『やまと新聞』10月25日
中国共産党の動き【課題を衝く】『やまと新聞』10月27日
反動から反動への日本【課題を衝く】『やまと新聞』10月28日
官僚政治と政党政治【課題を衝く】『やまと新聞』10月29日
小説『風雪』に寄せて【課題を衝く】『やまと新聞』10月31日
国家とイデオロギー【課題を衝く】『やまと新聞』11月1日
新支那の指導精神【課題を衝く】『やまと新聞』11月5日
政治に真実味を！【課題を衝く】『やまと新聞』11月10日
自由主義と全体主義【課題を衝く】『やまと新聞』11月16日
ソ連は共産主義国家か【課題を衝く】『やまと新聞』11月23日
市の交通統制に就て【課題を衝く】『やまと新聞』11月24日
閣僚補充と軍の態度【課題を衝く】『やまと新聞』11月25日
親英米か親ソ独か【課題を衝く】『やまと新聞』11月26日
国共抗争説の真偽【課題を衝く】『やまと新聞』11月28日
ナイロンを繞る挿話【課題を衝く】『やまと新聞』11月29日
無意味な閣僚補充工作【課題を衝く】『やまと新聞』11月30日
理想の灯を更に明るく【課題を衝く】『やまと新聞』12月2日
少数弱体と多数弱体【課題を衝く】『やまと新聞』12月3日
一体主義の表現方法【課題を衝く】『やまと新聞』12月6日
電車の中での寸感【課題を衝く】『やまと新聞』12月7日

協力の前に検討せよ[「課題を衝く」]『やまと新聞』12月8日
白鳥氏のソ連観再論[「課題を衝く」]『やまと新聞』12月10日
周仏海の発声に就て[「課題を衝く」]『やまと新聞』12月12日
濃化せる政治不信[「課題を衝く」]『やまと新聞』12月13日[『内観』238、1940年1月1日に転載]
日米折衝の大前提[「課題を衝く」]『やまと新聞』12月20日
外交に基調ありや[「課題を衝く」]『やまと新聞』12月22日

1940(昭和15)年

杉山平助との縦横談[「課題を衝く」]『やまと新聞』1月1、4~9日[対談:杉山平助]
内閣の進退に就て[「課題を衝く」]『やまと新聞』1月10日
微妙に動く欧州戦局[「課題を衝く」]『やまと新聞』1月11日
責任は誰にあるのか[「課題を衝く」]『やまと新聞』1月12日
こんやく問答[「課題を衝く」]『やまと新聞』1月13日
政治家とロボット性[「課題を衝く」]『やまと新聞』1月14日
笑止至極な概念論[「課題を衝く」]『やまと新聞』1月25日
二度の恥晒しは御免[「課題を衝く」]『やまと新聞』1月27日
議會再開と各党態度[「課題を衝く」]『やまと新聞』1月30日
大川博士を困んで[「課題を衝く」]『やまと新聞』2月1日
議會第一日の印象[「課題を衝く」]『やまと新聞』2月3日
斎藤問題に善処せよ[「課題を衝く」]『やまと新聞』2月6日
精動の振はぬ理由[「課題を衝く」]『やまと新聞』2月8日
お座成り政治の根因[「課題を衝く」]『やまと新聞』2月15日
民心の機微を知れ[「課題を衝く」]『やまと新聞』2月17日
国体に狎れる勿れ[「課題を衝く」]『やまと新聞』2月20日
地方に出て考へる[「課題を衝く」]『やまと新聞』2月22日
新しき革新理論へ[「課題を衝く」]『やまと新聞』2月27日
古事記的と日本書紀的[「課題を衝く」]『やまと新聞』2月29日
“解決”に疑義あり! [「課題を衝く」]『やまと新聞』3月3日
欧州和平と連邦案[「課題を衝く」]『やまと新聞』3月5日
第三力としての言論[「課題を衝く」]『やまと新聞』3月7日
恐るべき教員饑饉[「課題を衝く」]『やまと新聞』3月9日
亡者妄動の政界風景[「課題を衝く」]『やまと新聞』3月12日

和平の意義を誤る勿れ【課題を衝く】『やまと新聞』3月21日
社会大衆党の分裂【課題を衝く】『やまと新聞』3月23日
事変の新段階と新理論【課題を衝く】『やまと新聞』3月26日
七十五議會を顧みて【課題を衝く】『やまと新聞』3月28日
事変処理の理想と現実【課題を衝く】『やまと新聞』3月30日
国体への新自覚【課題を衝く】『やまと新聞』4月2日
英内閣改組の示唆【課題を衝く】『やまと新聞』4月6日
悠久の春・悠久の政治【課題を衝く】『やまと新聞』4月9日
欧州戦局の新展開【課題を衝く】『やまと新聞』4月11日
欧州戦の発展と日本【課題を衝く】『やまと新聞』4月16日
精動は更生するか【課題を衝く】『やまと新聞』4月18日
戦時下の社会問題【課題を衝く】『やまと新聞』4月20日
板垣声明に関連して【課題を衝く】『やまと新聞』5月2日
板垣声明への疑義【課題を衝く】『やまと新聞』5月4日
政党合同なるか【課題を衝く】『やまと新聞』5月7日
新党の二つの場合【課題を衝く】『やまと新聞』5月9日
挙国体制への行方【課題を衝く】『やまと新聞』5月11日
主眼は事変解決に在り【課題を衝く】『やまと新聞』5月14日
歴史は斯く創られる【課題を衝く】『やまと新聞』5月21日
文化警察の基準【課題を衝く】『やまと新聞』5月23日
罪は孰れに在り耶【課題を衝く】『やまと新聞』5月31日
もて余される奉公日【課題を衝く】『やまと新聞』6月1日
新党いよいよ成る乎【課題を衝く】『やまと新聞』6月4日
“行社の居ない村”【課題を衝く】『やまと新聞』6月6日
府議選挙と革新派【課題を衝く】『やまと新聞』6月13日
強硬外交の競争【課題を衝く】『やまと新聞』6月25日
中国青年の汪、蔣観【課題を衝く】『やまと新聞』6月26日
奉迎満洲国皇帝陛下【やまと新聞』6月27日
近衛公の出蘆に餞す【課題を衝く】『やまと新聞』6月28日
英雄亦た時勢の子か【課題を衝く】『やまと新聞』6月29日
戦時道德の恒久化【課題を衝く】『やまと新聞』6月30日
外交問題と新党運動【課題を衝く】『やまと新聞』7月3日

国防国家への反省【課題を衝く】『やまと新聞』7月4日
国際認識の再確立【課題を衝く】『やまと新聞』7月6日
依然謎語に似たり【課題を衝く】『やまと新聞』7月9日
労働総同盟の終焉【課題を衝く】『やまと新聞』7月10日
政党と新聞の床急ぎ【課題を衝く】『やまと新聞』7月13日
徹底軍国主義の再現【課題を衝く】『やまと新聞』7月14日
滅共反ソか反英米か【課題を衝く】『やまと新聞』7月16日
大義名分を明にせよ【課題を衝く】『やまと新聞』7月17日
政変の意義と新体制【課題を衝く】『やまと新聞』7月18日
財經策をも重視せよ【課題を衝く】『やまと新聞』7月19日
挙国主義と革新主義【課題を衝く】『やまと新聞』7月20日
自主精神を堅持せよ【課題を衝く】『やまと新聞』7月21日
近衛内閣を瞥見して【課題を衝く】『やまと新聞』7月23日
旧生活の破綻と再生【課題を衝く】『やまと新聞』7月25日
文化の統制と委縮【課題を衝く】『やまと新聞』7月26日
真の指導者の資格【課題を衝く】『やまと新聞』7月30日
全体主義の真精神【課題を衝く】『やまと新聞』7月31日
贅沢廃止と生活目標【課題を衝く】『やまと新聞』8月1日
新内閣の基本国策【課題を衝く】『やまと新聞』8月3日
肇国の精神と国策【課題を衝く】『やまと新聞』8月4日
街頭の漫画的風景【課題を衝く】『やまと新聞』8月6日
元老の死【淡々録】『やまと新聞』11月25日【『文化と政治』収録】
駐米大使【淡々録】『やまと新聞』11月27日【『文化と政治』収録】
或る卓上演説【淡々録】『やまと新聞』11月28日【『文化と政治』収録】
気狂い沙汰【淡々録】『やまと新聞』11月29日【『文化と政治』収録】
革新の日本的 방식【淡々録】『やまと新聞』11月30日【『文化と政治』収録】
軍部の発言【淡々録】『やまと新聞』12月1日【『文化と政治』収録】
日ソと米ソ【淡々録】『やまと新聞』12月3日【『文化と政治』収録】
甘さ辛さ【淡々録】『やまと新聞』12月4日【『文化と政治』収録】
動物園【淡々録】『やまと新聞』12月5日【『文化と政治』収録】
治病の福音【淡々録】『やまと新聞』12月6日【『文化と政治』収録】
本多大使【淡々録】『やまと新聞』12月11日

議員倶楽部「淡々録」『やまと新聞』12月12日『文化と政治』収録
新文化への発足「淡々録」『やまと新聞』12月15日『文化と政治』収録
奇蹟への思慕「淡々録」『やまと新聞』12月18日
淡々たるべし「淡々録」『やまと新聞』12月20日

1941(昭和16)年

年頭言志『やまと新聞』1月1日
年頭の感激「淡々録」『やまと新聞』1月7日『文化と政治』収録
擬装神がかり「淡々録」『やまと新聞』1月9日『文化と政治』収録
赤とは何ぞや「淡々録」『やまと新聞』1月11日『文化と政治』収録
態度が問題「淡々録」『やまと新聞』1月16日『文化と政治』収録
表裏一体「淡々録」『やまと新聞』1月21日『文化と政治』収録
翼賛問答「淡々録」『やまと新聞』1月28日『文化と政治』収録
責任の意味「淡々録」『やまと新聞』1月30日『文化と政治』収録
宣伝戦のコツ「淡々録」『やまと新聞』2月1日『文化と政治』収録
理義を欠く「淡々録」『やまと新聞』2月4日『文化と政治』収録
嗚呼大角大将「淡々録」『やまと新聞』2月11日『文化と政治』収録
人口の質と量「淡々録」『やまと新聞』2月13日『文化と政治』収録
国家の危機「淡々録」『やまと新聞』2月14日『文化と政治』収録
“日本的”の再検討「淡々録」『やまと新聞』2月18日『文化と政治』収録
ソ連の立場「淡々録」『やまと新聞』2月22日
新体制と国民心理「淡々録」『やまと新聞』2月27日『文化と政治』収録
お粗末な閣僚陣「淡々録」『やまと新聞』3月2日『文化と政治』収録
教育について「淡々録」『やまと新聞』3月4日
脱皮と改組「淡々録」『やまと新聞』3月8日
苦渋の表情「日曜断章」『やまと新聞』3月24日
現状維持の力「日曜断章」『やまと新聞』3月31日
近衛人事「日曜断章」『やまと新聞』4月7日
人物論「日曜断章」『やまと新聞』4月14日『文化と政治』収録
一つ覚え「日曜断章」『やまと新聞』4月21日
興亜団体「日曜断章」『やまと新聞』4月28日
世界の人物「日曜断章」『やまと新聞』5月5日

事変処理の道〔「日曜断章」〕『やまと新聞』5月12日
京城寸感〔「日曜断章」〕『やまと新聞』5月26日
満洲瞥見〔「日曜断章」〕『やまと新聞』6月16日
独ソ戦に寄せて〔「日曜断章」〕『やまと新聞』6月30日
聖戦四年の感慨〔「日曜断章」〕『やまと新聞』7月7日
白人の威力〔「日曜断章」〕『やまと新聞』7月14日
松岡さん〔「日曜断章」〕『やまと新聞』7月21日
一体化への努力〔「日曜断章」〕『やまと新聞』7月28日
軍事小感〔「日曜断章」〕『やまと新聞』8月4日
月並でない思想〔「日曜断章」〕『やまと新聞』8月11日
歴史の真相〔「日曜断章」〕『やまと新聞』9月1日
中途半端を排す〔「日曜断章」〕『やまと新聞』9月8日
真の国民主義〔「日曜断章」〕『やまと新聞』9月15日
政治の正体〔「日曜断章」〕『やまと新聞』9月22日
総力戦の意味〔「日曜断章」〕『やまと新聞』9月29日
評論家の動き〔「日曜断章」〕『やまと新聞』10月6日
解決か拡大か〔「日曜断章」〕『やまと新聞』10月13日
東條内閣〔「日曜断章」〕『やまと新聞』10月20日
実行第一！〔「日曜断章」〕『やまと新聞』10月27日
伝統について〔「日曜断章」〕『やまと新聞』11月3日
戦争・政治・文化〔「日曜断章」〕『やまと新聞』11月10日
人口の問題〔「日曜断章」〕『やまと新聞』11月17日
匆忙脱却〔「日曜断章」〕『やまと新聞』12月8日
ああ斯の感激〔「日曜断章」〕『やまと新聞』12月15日
偉大なる歳を送る〔「日曜断章」〕『やまと新聞』12月29日

1942(昭和17)年

乾坤新なり『やまと新聞』1月1日
宣言一つ〔「文化」〕『やまと新聞』1月4日
評論家の新発足『やまと新聞』1月12日〔『文芸情報』8-3、2月5日収録〕
持続せよ結束を〔「日曜断章」〕『やまと新聞』1月19日
南洲片鱗〔「日曜断章」〕『やまと新聞』1月26日

絶対不動の信[「日曜断章」]『やまと新聞』2月2日
承詔必謹の心[「日曜断章」]『やまと新聞』2月9日
最後の勝利[「日曜断章」]『やまと新聞』2月16日
翼賛選挙[「日曜断章」]『やまと新聞』2月23日
大東亜同志会[「日曜断章」]『やまと新聞』3月16日
第一回の総選挙[「日曜断章」]『やまと新聞』3月23日
南京還都二周年[「日曜断章」]『やまと新聞』3月30日
一日一言『やまと新聞』5月25日
一日一言『やまと新聞』5月26日
日本海軍[「一日一言」]『やまと新聞』5月30日
歴史と人物[「一日一言」]『やまと新聞』5月31日
米英思想の潰滅『やまと新聞』12月9日

2-3. 評論等(『大阪時事新報』掲載) < 274 篇 >

1941(昭和 16)年

- 新体制の理念[『大時論策』『大阪時事新報[夕刊]』1月8日[『文化と政治』収録]
- 龍馬的と海舟的[『大時論策』『大阪時事新報[夕刊]』1月9日[『文化と政治』収録]
- 強力政治の行方[『大時論策』『大阪時事新報[夕刊]』1月10日[『文化と政治』収録]
- 歴史への態度[『大時論策』『大阪時事新報[夕刊]』1月11日[『文化と政治』収録]
- ベルグソンの死[『大時論策』『大阪時事新報[夕刊]』1月12日[「ベルグソン」と改題『文化と政治』収録]
- 国共相剋[『大時論策』『大阪時事新報[夕刊]』1月22日[『文化と政治』収録]
- 新たなる決意へ[『大時論策』『大阪時事新報[夕刊]』1月23日[『文化と政治』収録]
- 眞の翼賛精神[『大時論策』『大阪時事新報[夕刊]』1月24日[『文化と政治』収録]
- 同志的組織の必要[『大時論策』『大阪時事新報[夕刊]』1月25日[『文化と政治』収録]
- 啓蒙の必要[『大時論策』『大阪時事新報[夕刊]』1月26日[『文化と政治』収録]
- 国防保安令[『大時論策』『大阪時事新報[夕刊]』2月5日]
- 一人の■臣あれ[『大時論策』『大阪時事新報[夕刊]』2月6日]
- 深き思想を築け[『大時論策』『大阪時事新報[夕刊]』2月7日]
- 私有財産制度[『大時論策』『大阪時事新報[夕刊]』2月8日[『文化と政治』収録]
- 微妙なる日ソ関係[『大時論策』『大阪時事新報[夕刊]』2月9日[『文化と政治』収録]
- 私有財産制度[『大時論策』『大阪時事新報[夕刊]』2月18日[『文化と政治』収録]
- フランスの運命[『大時論策』『大阪時事新報[夕刊]』2月19日[『文化と政治』収録]
- 日本を識る途[『大時論策』『大阪時事新報[夕刊]』2月20日[『文化と政治』収録]
- 戦火の拡大とソ連[『大時論策』『大阪時事新報[夕刊]』2月21日[『文化と政治』収録]
- 思想戦の問題[『大時論策』『大阪時事新報[夕刊]』2月22日[『文化と政治』収録]
- 出版の不具的傾向[『大時論策』『大阪時事新報[夕刊]』2月23日[『文化と政治』収録]
- 議会の現実と反省[『大時論策』『大阪時事新報[夕刊]』3月4日[『文化と政治』収録]
- 政府、議会、翼賛会[『大時論策』『大阪時事新報[夕刊]』3月5日[『文化と政治』収録]
- 民族の苦悶と慟哭[『大時論策』『大阪時事新報[夕刊]』3月6日[『文化と政治』収録]
- 思想評価の基準[『大時論策』『大阪時事新報[夕刊]』3月7日[『文化と政治』収録]
- 二つの観念派[『大時論策』『大阪時事新報[夕刊]』3月8日[『文化と政治』収録]
- 松岡外相に寄せて[『大時論策』『大阪時事新報[夕刊]』3月9日[『文化と政治』収録]
- 言葉と其の意味[『大時論策』『大阪時事新報[夕刊]』3月18日[『文化と政治』収録]
- 指導者なき指導者政治[『大時論策』『大阪時事新報[夕刊]』3月19日[『文化と政治』収録]

日本精神[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』3月20日[『文化と政治』収録]
リ氏の告日本国[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』3月21日[『文化と政治』収録]
生命を以て贖へ[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』3月23日[『文化と政治』収録]
精動化の政治性[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』4月1日
理義ある革新へ[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』4月2日
ブロック理論[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』4月3日
小倉氏の入閣[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』4月5日
転向に就て[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』4月6日
精神主義[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』4月15日
日ソ条約[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』4月16日
孫子に寄せて[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』4月17日
小憂二題[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』4月18日
法相訓示に就て[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』4月19日
東亜共栄の本義[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』4月29日
アジアの自覚[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』5月1日
戦争と文化[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』5月2日
教育への反省[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』5月3日
言行一致すべし[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』5月4日
ス首相に誨ふ[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』5月13日
官界新体制[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』5月14日
闇！闇！闇！[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』5月15日
物質生活への評価[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』5月16日
興亜団体の反省[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』5月17日
近衛首相の周辺[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』5月18日
一体化への道[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』5月27日
前進の為の反省[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』5月28日
史性の問題[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』5月30日
思想の発展[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』5月31日
汪氏来朝に寄せて[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』6月17日
国民常会[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』6月18日
近衛首相の心情[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』6月19日
産報の場合[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』6月20日

元祿忠臣蔵〔大時論策〕『大阪時事新報〔夕刊〕』6月21日
協力会議に感有り〔大時論策〕『大阪時事新報〔夕刊〕』6月22日
新構想の眼目〔大時論策〕『大阪時事新報〔夕刊〕』7月1日
戦争と社会問題〔大時論策〕『大阪時事新報〔夕刊〕』7月2日
反共十字軍〔大時論策〕『大阪時事新報〔夕刊〕』7月3日
政治革新の方向〔大時論策〕『大阪時事新報〔夕刊〕』7月4日
ヒ総統の思慮〔大時論策〕『大阪時事新報〔夕刊〕』7月5日
赤化戦術の変遷〔第一線〕『読売新聞〔夕刊〕』7月5日
自覚と環境〔大時論策〕『大阪時事新報〔夕刊〕』7月6日
歴史の必然〔大時論策〕『大阪時事新報〔夕刊〕』7月15日
生活の科学化〔大時論策〕『大阪時事新報〔夕刊〕』7月16日
雄々しく試練に〔大時論策〕『大阪時事新報〔夕刊〕』7月17日
解党に続くもの〔大時論策〕『大阪時事新報〔夕刊〕』7月19日
新構成の方向〔大時論策〕『大阪時事新報〔夕刊〕』7月20日
挙国一致の新段階〔大時論策〕『大阪時事新報〔夕刊〕』7月22日
雲霧の中に青天を〔大時論策〕『大阪時事新報〔夕刊〕』7月23日
軍人閣僚の使命〔大時論策〕『大阪時事新報〔夕刊〕』7月24日
宣伝の技術と方法〔大時論策〕『大阪時事新報〔夕刊〕』7月25日
翼賛壮年団〔大時論策〕『大阪時事新報〔夕刊〕』7月26日
議会人の動向〔大時論策〕『大阪時事新報〔夕刊〕』7月27日
人為と運命〔大時論策〕『大阪時事新報〔夕刊〕』7月29日
新しき人権主義〔大時論策〕『大阪時事新報〔夕刊〕』7月30日
曲解と濫用〔大時論策〕『大阪時事新報〔夕刊〕』7月31日
一人の力〔大時論策〕『大阪時事新報〔夕刊〕』8月1日
永久平和〔大時論策〕『大阪時事新報〔夕刊〕』8月2日
英国の宣伝〔大時論策〕『大阪時事新報〔夕刊〕』8月3日
自己陶醉を排す〔大時論策〕『大阪時事新報〔夕刊〕』8月5日
躍進独逸の基礎〔大時論策〕『大阪時事新報〔夕刊〕』8月6日
海軍力の黄昏〔大時論策〕『大阪時事新報〔夕刊〕』8月7日
言論の第一義〔大時論策〕『大阪時事新報〔夕刊〕』8月8日
第三国〔大時論策〕『大阪時事新報〔夕刊〕』8月9日
印度と日本〔大時論策〕『大阪時事新報〔夕刊〕』8月10日

半島青年の自覚[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』8月13日
ソ連の実力[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』8月14日
華僑の問題[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』8月15日
新しき文化活動[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』8月16日
火を点ずる者[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』8月17日
痴夢を追ふ者[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』8月20日
解けぬ課題[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』8月21日
ドイツの目標[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』8月22日
自主独往の意味[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』8月23日
暴露と遮蔽[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』8月24日
深蔵して虚しき乎[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』8月27日
時艱と英雄[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』8月28日
レニングラード[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』8月29日
便乗と協力[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』8月30日
アメリカの輿論[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』8月31日
戦争の生む美德[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』9月3日
末次と石原[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』9月4日
派閥意識[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』9月5日
指導の欠如[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』9月6日
翼賛青年団[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』9月7日
健全娯楽[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』9月10日
同志組織と綱領主義[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』9月11日
国民の創造[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』9月13日
政治と経済[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』9月14日
老文人の死[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』9月17日
地理的感覚[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』9月18日
回顧と反省[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』9月19日
質の政治？[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』9月20日
宣伝の条件[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』9月21日
国民性の課題[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』9月25日
国家と道義[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』9月27日
政党の歴史[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』9月28日

沈黙の作用[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』10月1日
歴史を創れ[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』10月2日
ロシアの民族問題[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』10月3日
重慶の国際比重[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』10月4日
華族制度[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』10月5日
七博士[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』10月7日
率直に懇へよ[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』10月8日
老子寓話[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』10月9日
真実の声[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』10月10日
闘争と協和[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』10月11日
迂闊な話[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』10月12日
外力の活用[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』10月14日
驕慢を排す[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』10月15日
情報局の任務[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』10月16日
最悪を避けよ[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』10月17日
新内閣の特性[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』10月21日
東郷と岸[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』10月22日
強力条件[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』10月23日
国難の性質[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』10月25日
人材の活用[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』10月26日
信賞必罰[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』10月28日
殷鑑不遠[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』10月29日
学問の反省[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』10月30日
老雄ペタン[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』10月31日
実績主義[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』11月1日
模倣と破壊[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』11月2日
先人の苦闘[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』11月5日
隣組に就て[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』11月6日
良書推薦[「大時論策」]『大阪時事新報』11月7日[「切抜通信」]『書物展望』11-12、1941-12月1日に抄録]
配給の公正[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』11月8日
危機の所在[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』11月9日
総合的認識[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』11月11日

文化の問題[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』11月12日
翼賛会の自己革新[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』11月13日
待命制の活用[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』11月14日
新民会、協和会、翼賛会[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』11月15日
逆転を排す[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』11月16日
二つの場合[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』11月18日
理解と克服[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』11月19日
本多大使[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』11月20日
新党の論理[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』11月23日
敵国と敵性国[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』11月26日
政治力の問題[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』11月27日
如何に知らすべき乎[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』11月28日
国民の心境[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』11月30日
近衛政治の遺産[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』12月2日
物の問題[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』12月3日
日誌に寄せて[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』12月4日
為政者と国民[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』12月5日
操觚者述懐[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』12月6日
含蓄深かれ[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』12月7日
新たなる感激[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』12月11日
続け思想戦[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』12月12日
不滅の信念[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』12月13日
三国のむすび[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』12月14日
両者の場合[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』12月16日
軽忽を戒む[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』12月17日
文化維新[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』12月18日
国内の問題[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』12月19日
国家の運命[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』12月20日
因果の理顯然[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』12月21日
民族千古の情[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』12月23日
経済の基礎[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』12月24日
芸術再建[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』12月25日

言論の使命[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』12月27日

結束第一[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』12月28日

1942(昭和17)年

神業と人間業[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』1月8日

議会情勢と改選[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』1月9日

全亜の協力へ[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』1月10日

軍隊と国民[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』1月11日

芸術の背景[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』1月13日

南方の経済措置[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』1月14日

評論家の自覚[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』1月15日

危険なる底流[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』1月16日

思想戦の技術[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』1月17日

政治の重層性[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』1月18日

不易の根帯[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』1月20日

行革の急務[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』1月21日

後継の用意[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』1月23日

綱紀の振粛[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』1月24日

政治の機微[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』1月25日

組織の死活[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』1月28日

「政治」の軽視[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』1月29日

第三の反省[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』1月30日

日本文化[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』1月31日

性格論議の愚[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』2月1日

立候補の自制[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』2月4日

承詔必謹[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』2月5日

経済道義[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』2月6日

道は近くに[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』2月7日

新聞の新発足[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』2月8日

勝利の性格[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』2月10日

枢軸への信[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』2月11日

推薦制度[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』2月13日

戦局と政治力[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』2月14日
アジアの完成[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』2月15日
勝利の記録[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』2月18日
軍隊教育[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』2月19日
旧党人の老獺[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』2月20日
新理念の追求[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』2月21日
総選挙と政府[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』2月22日
真如法親王[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』2月24日
動く印度[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』2月25日
人選難[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』2月26日
あれから六年[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』2月27日
推薦制の波瀾[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』2月28日
国生み[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』3月3日
適応と便乗[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』3月4日
歴史を創る力[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』3月5日
北辺異常なし[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』3月6日
政治への信頼[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』3月8日
青年将校[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』3月10日
翼賛型[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』3月11日
人材発掘[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』3月12日
解放の意味[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』3月13日
五箇条の御誓文[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』3月14日
破邪と顕正[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』3月15日
窄き門[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』3月17日
特使に寄せて[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』3月18日
母性敬讃[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』3月19日
禁圧と指導[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』3月20日
放送局の態度[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』3月21日
見えざる火花[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』3月24日
文明の救治[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』3月25日
文化工作[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』3月26日
維新の力[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』3月27日

旧夢を去れ[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』3月29日
大人の評論[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』3月31日
新党説[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』4月1日
最小限の期待[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』4月2日
春の心[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』4月3日
文化人と政治[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』4月5日
地盤と組織[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』4月7日
批判と実践[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』4月8日
統制の意義[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』4月9日
印度の運命[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』4月11日
印度と支那[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』4月12日
競争の倫理[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』4月14日
共産主義論[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』4月15日
議会の再建[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』4月16日
「革新」の現段階[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』4月17日
全産連[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』4月19日
旧勢力強し[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』4月21日
敵機来たる日[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』4月22日
総選挙の目標[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』4月23日
新党問題[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』4月24日
適応と指導[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』4月25日
尾崎氏の場合[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』4月26日
過去の教訓[「大時論策」]『大阪時事新報[夕刊]』4月28日